

基本目的Ⅲ 子育てと学び

「育てる幸せを感じ 生涯にわたり互いに学び続ける 家庭と文化を築くまち」

◆ 1.1 子育て

施策目的 社会全体で健やかな子供の成長を支え、
子育ての喜びを感じられるまちになる

◆ 1.2 学校教育

施策目的 自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身に着けた
未来を担う子どもが育つまちになる

◆ 1.3 青少年

施策目的 心身ともに健全な子供が育つ家庭や地域の教育力が高いまちになる

◆ 1.4 生涯学習

施策目的 生涯にわたって学び続けることができ、
生きがいと活力に満ちたまちになる

◆ 1.5 文化

施策目的 地域の歴史や伝統、芸術や文化に誇りをもち、
魅力ある文化を育み、心豊かに暮らせるまちになる

◆ 1.6 スポーツ

施策目的 スポーツを生活に取り入れ、誰もがスポーツを楽しめるまちになる

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	110	重要事業	○	総合戦略	○	担当部署	こども福祉課 保育係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
3・2・1	地域子ども・子育て支援事業			220,423 千円	264,382千円	238,391 千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶11_社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶2_地域子育て支援の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	子ども・子育て支援新制度のもと、地域の実情に応じて市が策定した「館林市子ども・子育て支援事業計画」に従って事業を計画的に実施することで、教育・保育・子育て支援の充実を図る。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
<p>①地域子育て支援拠点事業【重要事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域子育て支援拠点事業委託料 <p>乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談や情報の提供、助言その他の援助を行う。</p> <p>②病児・病後児保育事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病児・病後児保育事業委託料 <p>多様な保育需要に対応するために、集団保育が不可能な病児・病後児の保育を委託により実施する。</p>	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		①地域子育て支援拠点事業【重】 ・地域子育て支援拠点事業委託料	①地域子育て支援拠点事業【重】 ・地域子育て支援拠点事業委託料	①地域子育て支援拠点事業【重】 ・地域子育て支援拠点事業委託料
		②病児・病後児保育事業 ・病児・病後児保育事業委託料	②病児・病後児保育事業 ・病児・病後児保育事業委託料	②病児・病後児保育事業 ・病児・病後児保育事業委託料
事業費		38,783	38,783	38,783
財源	国庫	12,927	12,927	12,927
	県費	12,927	12,927	12,927
	市債	0	0	0
	その他	1,010	1,010	1,010
	一般財源	11,919	11,919	11,919

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度					
			R3	R4	R5	R6	R7	
総合計画 指標	市内5か所の地域子育て支援センターの 利用登録率	目標値	79.4	81.3	82.2	83.1	84.1	85.0
		実績値	66.4					
総合計画 KPI	病児・病後児保育事業の登録者数	目標値	227	286	315	344	374	403
		実績値	336					
総合計画 指標	子育て環境（保育施設、相談、交流の 場など）の充実度の満足度	目標値	30.1	-	33.1	-	-	36.1
		実績値	-					
		目標値						
		実績値						

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	238,391千円	令和3年度決算額	259,890千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■市内5か所の地域子育て支援センターの利用登録率 ・令和3年度までの平均 71.4% 内訳(令和元年度: 74.9% 令和2年度: 72.9% 令和3年度: 66.4%) ■病児・病後児保育事業の登録者数 ・令和3年度までの累計実績 938人 内訳(令和元年度: 227人 令和2年度: 375人 令和3年度: 336人)			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	B
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	指標については、市内5か所の地域子育て支援センターの利用登録率は目標に達しなかったが、病児・病後児保育事業の登録者数は目標を大幅に上回った。地域子育て支援センターの利用登録率が低かったのは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、講座やイベント、サークル中止や利用の制限を実施したためと考えられる。
課題	■地域子育て支援センター 新型コロナウイルス感染症の状況を見極めながら、可能な限り講座を開催するとともに、受け入れ人数の制限を緩和させていく必要がある。 ■病児・病後児保育事業 簡単に登録及び利用ができる環境を整備する必要がある。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	■地域子育て支援センター 子育ての中の方が孤立することがないように、利用者同士がつながり合う場を提供することにも、寄り添った支援を行っていく。 ■病児・病後児保育事業 病児保育が必要な方がスムーズに利用できるよう努めていく。
令和5年度事業計画	■地域子育て支援センター 地域子育て支援センター連絡会議で関係機関と連携を図る。 支援センター室と園庭を開放する。 講座やイベント、サークル活動を実施する。 ■病児・病後児保育事業 病児保育事業を継続的に実施する。
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	111	重要事業	○	総合戦略		担当部署	こども福祉課 子育て支援係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
3・2・1	地域で子どもを支えるネットワーク事業			3,646 千円	3,356 千円	3,058 千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶11_社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶2_地域子育て支援の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	①子どもの居場所づくり支援事業 子どもの貧困対策・虐待防止策として地域における子どもの居場所の確保や地域の中で、子どもたちを支える体制整備をすすめていく。※『子どもの総合相談窓口』事業を市社会福祉協議会へ委託（令和元年10月より） ②子どもを守る地域ネットワーク機能強化事業『要保護児童対策地域協議会』
----------------	---

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①子どもの総合相談窓口事業を社協に委託し、相談と居場所づくり（貧困対策）を引き続き行っていく。食料品無料配布会を4月から7月まで開催。その後、ナイトパントリー（夕方マルシェ）を開催する。
 課題：コロナ禍により居場所づくりネットワーク会議を開催することができていない。また、パントリーは募集しても人員が集まらないなど、必要性を検討していく必要がある。
 ※国庫補助事業（地域子供の未来応援交付金）補助率1/2
 子どもの居場所立ち上げのため、既存の団体とも連携強化し、現在、ボランティア団体あかると未来ネットとマナビバ！シリウスの2箇所ある居場所を増やすために、ネットワーク会議等を開催し、居場所の立ち上げにつなげていく。
 ②要保護児童対策地域協議会
 年1回の代表者会議と年6回の実務者会議（必要に応じてケース会議開催）
 子ども家庭総合支援拠点の設置に向けた準備（機構改革、体制及び要綱整備）
 ※令和4年度よりこの事業は3・2・5の子ども家庭総合支援拠点事業の子どもを守る地域ネットワーク機能強化事業として
 新たに事業立てし生まれ変わる。

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		子どもの総合相談窓口事業委託 要保護児童対策地域協議会	子どもの総合相談窓口事業委託 令和4年度より要保護児童対策地域協議会は3.2.5の子ども家庭総合支援拠点事業へ	子どもの総合相談窓口事業委託 令和4年度より要保護児童対策地域協議会は3.2.5の子ども家庭総合支援拠点事業へ
	事業費	3,133	2,200	2,200
財源	国庫	110	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	3,023	2,200	2,200

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度					
			R3	R4	R5	R6	R7	
活動指標	新規子どもの居場所の立ち上げ	2	目標値	2	2	3	3	4
		単位：件	実績値	0				
		単位：件	目標値					
		単位：件	実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	3,058 千円	令和3年度決算額	2,750 千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	①子どもの居場所づくり支援事業 ・新規子どもの居場所立ち上げ 令和元年度 0件 令和2年度 0件 令和3年度 0件 ②子どもを守る地域ネットワーク機能強化事業『要保護児童対策地域協議会』 代表者会議 1回 実務者会議 6回 ケース検討会議 10回		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	社会問題となっている児童虐待の防止、早期発見及び支援は必要性が非常に高い。要保護児童対策地域協議会は年1回の代表者会議及び実務者会議を6回開催し、ケース検討会議においては10回開催し、調整機関として、ケースの情報集約、支援の進行管理及び見直しを図り、子どもを守る地域ネットワークの役割を果たすことができた。関係機関との情報共有や虐待等事案及び家庭支援について対応協議することは、児童虐待の予防、早期発見及び支援につながることから、児童虐待の防止策として有効である。福祉・保健・教育・医療その他の関係機関と連携することで、効率的で効果的な対応が図れている。
課題	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、居場所づくりネットワーク会議や新規居場所の立ち上げが予定どおり進めることができていない。今後も居場所を継続実施している団体はもとより、新規居場所立ち上げ団体（個人）に対しても、支援の継続が必要。平成28年度の児童福祉法改正により、児童相談所から市への指導委託及び事案送致が新たに規定され、虐待事案対応に関する市の役割が大きくなっている。相談ワーク及び虐待事案対応力向上のため、研修を受講する等、職員のスキルアップを図ることが急務となっている。
【Action】 今後の方向性・内容	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止) 児童虐待の防止及び支援は、次代を担う子どもたちの福祉向上のため、必要性が非常に高いことから継続実施は必須であるが、令和4年度より要保護児童対策地域協議会は3.2.5の子ども家庭総合支援拠点事業の子どもを守る地域ネットワーク機能強化事業として新規事業となる。要保護児童対策地域協議会調整機関の役割を子ども家庭総合支援拠点事業に統合し一体となって支援を行っていく体制となる。(有資格者を配置し、より専門的なチームで対応が可能)
令和5年度事業計画	地域で子どもを支えるネットワーク事業（子どもの居場所づくり支援事業）※1事業のみとなる。(令和4年度予算より) 子どもを守る地域ネットワーク機能強化事業の要保護児童対策地域協議会は、3.2.5子ども家庭総合支援拠点事業の子どもを守る地域ネットワーク機能強化事業に統合（令和4年度予算より）
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	112	重要事業	総合戦略	担当部署	こども福祉課 子育て支援係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)
3・2・1	児童手当支給事業		1,081,863 千円	1,067,593 千円	1,044,355 千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶11_社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶2_子どもの健全育成を促進する学びの機会の提供

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	子育て家庭等の生活の安定に寄与し、次世代の社会を担う児童の健やかな成長に資する。 保護者の経済的不安を解消するとともに、今後、出産等を迎える若い世代に対し、子育てに関する安心感を与えた。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
児童手当法に基づき、中学校終了前の児童を養育する世帯に対し、児童手当を支給する。（6月、10月、2月）	
<ul style="list-style-type: none"> ・3歳未満月額一律 15,000円 ・3歳以上小学校修了前（第1子・第2子）月額一律10,000円、（第3子以降）月額一律15,000円 ・中学生 月額一律10,000円 ・所得制限限度額以上である者 月額一律5,000円 	
<p>制度改正について</p> <p>改正法は特例給付に所得制限を設け高所得者を除外する。</p> <p>受給者の年収が1,200万円を超えた場合、特例給付を支給しない。</p> <p>年収960万円以上1,200万円未満は特例給付の月5,000円を維持する。</p>	
<p>扶助費※国庫補助事業（国4/6、一部37/45）県（1/6、一部4/45）</p>	

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	児童手当支給事業		児童手当支給事業 （制度改正予定）	児童手当支給事業
事業費		1,044,355	1,005,240	967,590
財源	国庫	719,508	695,023	668,991
	県費	160,260	155,107	149,297
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	164,587	155,110	149,302

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	児童手当受給者延数	目標値	95,447	89,200	83,362	77,906	72,807
		実績値	95,826				
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	1,044,355 千円	令和3年度決算額	1,039,902 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	児童手当受給者延数			
	令和元年度	延102,131人	1,104,290,000円	
	令和2年度	延 98,732人	1,064,275,000円	
	令和3年度	延 95,826人	1,034,330,000円	

【事業の評価】

【Check】 指標評価	-
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	国の政策による、児童手当法に基づく全国一律の給付事業（国庫及び県費補助事業）子育て世帯の経済的負担を軽減することにより、子どもの生活環境に大きく寄与した。
課題	対象者（公務員を除く）全員への支給を目標に、出生時や転入時に申請もれがないよう、宛名（住基）等チェックが必須。 DVによる支援措置対象者の申請には、特に配慮が必要なため、慎重な対応及び事務処理に留意する必要がある。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）
	児童手当法に基づき実施している事業であるため、支給に関しては、国の制度に基づき対応していく。マイナンバー普及に伴い、将来的にはマイナポータルによる受付にも対応していく必要がある。令和4年度は制度改正により、現況届の提出が原則不要となり、特例給付対象者に変更が生じる。
令和5年度事業計画	継続実施
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	113	重要事業	総合戦略	担当部署	こども福祉課 子育て支援係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)
3・2・1	児童扶養手当支給事業		289,199 千円	285,379千円	286,096 千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶11_社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶2_地域子育て支援の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	母子家庭、父子家庭又は両親のいない家庭等の経済的安定と自立を図ることで、当該家庭の児童が健全に育成されることを目指す。（父または母がいても極めて重度の障がいがある場合にも支給される） ※母子家庭等の経済的負担の軽減に対処するため、昭和36年に児童扶養手法その他関係政令が整備されたことによる
----------------	--

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

両親の離婚、死亡等により、ひとり親となった家庭等の生活の安定と自立を支援するため、一定の所得の範囲内で児童扶養手当を支給するもの。経緯：①平成22年8月に父子家庭も対象 ②平成24年8月に配偶者からの暴力（DV）被害者も対象 ③平成26年12月に公的年金との併給制限の見直し ④令和元年度より手当の支給回数が4か月に1回から2か月に1回（奇数月）となった。

主な業務

認定請求の受付及び審査、手当支給
対象者への周知等
現況届8月受理
資格の取得・喪失、現況調査、各種変更等の処理を行う

手当額

【全部支給】43,160円～
【一部支給】43,150円～10,180円
子ども加算 2人目10,190～5,100円加算、3人目以降1人につき6,110円～3,060円加算

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	児童扶養手当支給事務		児童扶養手当支給事務	児童扶養手当支給事務
	事業費	286,096	286,096	286,096
財源	国庫	94,600	94,600	94,600
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	191,496	191,496	191,496

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	児童扶養手当支給者人数	目標値	595	587	579	570	562
		実績値	577				
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	286,096 千円	令和3年度決算額	278,918 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	児童扶養手当支給者人数 令和元年度 612人 362,288,010円 (制度改正年につき3か月分増) 令和2年度 587人 283,205,710円 令和3年度 577人 276,760,300円			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	-
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	国の政策による、児童扶養手当法に基づく全国一律の給付事業（国庫及び県費補助事業）ひとり親世帯の経済的負担を軽減することにより、子どもの生活環境に大きく寄与した。
課題	支給の資格があるかどうかの判断においてはプライベートな事情を確認する必要があるため、新規及び現況届の面談の際には受給者への対応に十分配慮するように職員が留意する必要がある。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	受給者数はほぼ横ばいで推移しており、今後もひとり親世帯等の生活の安定には欠かせない必要性・重要性が増している経済支援制度である。
令和5年度事業計画	継続
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	114	重要事業	総合戦略	担当部署	こども福祉課 子育て支援係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)
3・2・1	放課後児童健全育成事業		224,871 千円	208,684千円	219,953 千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶11_社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶2_地域子育て支援の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	<p>子ども・子育て支援新制度のもと、地域の実情に応じて市が策定した「館林市子ども・子育て支援事業計画」に従って事業を計画的に実施することで、教育・保育・子育て支援の充実を図る。</p> <p>共働き・一人親の小学生の放課後(土曜日、春・夏・冬休み等の学校休業中は一日)の生活を継続的に保障することを通して、親の仕事と子育ての両立支援を保障すること。核家族化、ひとり親家庭及び共働き家庭の増加、祖父母の就労継続延長等により、留守家庭児童の放課後の居場所確保は年々利用ニーズが高まっており、全学年利用可能になったことから定員超過が問題となっており、質の向上とともに適正な施設整備を計画的に行う必要がある。</p>
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
<p>放課後児童健全育成事業 小学校の子どもが過ごす生活の場として、おやつを提供や宿題の見守り、遊びや大人との会話の時間といった、家庭で当たり前のように設けているものを行う場とすることを目的としている。</p> <p>市内全小学校区に設置しており、令和3年4月より1クラブ1支援増え、17クラブ21支援となる。市の放課後児童健全育成事業を社会福祉法人、NPO法人、運営委員会、保護者会に委託している。（1支援はおおむね40人程度）</p> <p>放課後児童クラブ支援員は群馬県等が開催する認定資格研修を修了し、1支援あたり2名以上配置しなければならない。その他、支援員の資格は有していないが、補助員と呼ばれる支援員も配置し、各種研修等も受講し放課後児童クラブの質の向上を図っている。</p> <p>委託料（子ども・子育て支援交付金交付要綱に基づき決定している；国1/3・県1/3・市1/3）</p>	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		<ul style="list-style-type: none"> ・全小学校区に設置済 17クラブ21支援 (公設民営12、民設民営5) ・たてくら学童クラブの施設完成 予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・全小学校区に設置済 17クラブ21支援 (公設民営12、民設民営5) ・風の子クラブの移転準備 令和6年4月からのこども園開園の ため、準備を開始する。 (定期的な調整会議開催) (予算確保・令和5年度予算) 	<ul style="list-style-type: none"> ・全小学校区に設置済 17クラブ21支援 (公設民営12、民設民営5) ・風の子クラブの移転に伴う具 体的な準備開始→スムーズな移行
	事業費	207,887	207,887	207,887
財源	国庫	68,266	68,266	68,266
	県費	68,266	68,266	68,266
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	71,355	71,355	71,355

【関連する指標】

活動指標	指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	放課後児童クラブ利用児童数	925	目標値	927	928	929	931	932
		単位：人	実績値	844				
			目標値					
			実績値					
			目標値					
			実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	219,953 千円	令和3年度決算額	207,887 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	・放課後児童クラブ利用児童数 令和元年度 925人 令和2年度 932人 令和3年度 844人 ・17クラブ21支援（公設民営12、民設民営5）			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D					
事業の必要性	<input type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input checked="" type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	令和3年度は、第五小学校区にたてくら学童クラブが新規開設され、17クラブ21支援となった。					
課題	第二小学校区放課後児童クラブ（風の子クラブ）の定員超過に伴う専用施設について改善を図ることが求められている。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）					
	風の子クラブの専用施設の改善について風の子クラブとの連携・情報共有を図り進めていく。指導員等の資質向上のための研修を行い、施設関係は計画的に整備し、放課後児童健全育成事業の継続・円滑な実施を図る。					
令和5年度事業計画	継続 ・全小学校区に設置 17クラブ21支援 （公設民営12、民設民営5）					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	115	重要事業		総合戦略		担当部署	こども福祉課 子育て支援係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
3・2・1	結婚新生活支援事業			0千円	0千円	7,213 千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶11_社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶2_地域子育て支援の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	少子化対策事業 【令和3年度からの新規事業】
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容） 本市においても少子化が急加速で進んでいる（平成24年に595人⇒令和元年には392人） 「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」基本目標の「結婚を希望する人への支援」の取り組みの一つとして婚姻にともなう経済的負担軽減を減らし、結婚しやすい環境づくりを整備。 【館林市結婚新生活支援補助金交付要綱】 ●新婚世帯に対し、結婚に伴う新生活のスタートアップに係るコストを支援する。 ・補助対象：婚姻に伴う住宅取得費用又は、住宅賃借費用、引越費用、家具家電の購入費 ・対象世帯：夫婦共に婚姻日における年齢が39歳以下かつ世帯所得400万円未満（世帯年収約540万円未満相当）の新規に婚姻した世帯 ・補助額：1世帯当たり30万円 特定財源：県支出金の地域少子化対策重点推進交付金（国庫補助事業であるが、県の間接補助）補助率1/2	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	制度周知 相談 申請受付・審査 補助決定及び振込		制度周知 相談 申請受付・審査 補助決定及び振込	制度周知 相談 申請受付・審査 補助決定及び振込
	事業費	7,213	7,213	7,213
財源	国庫	0	0	0
	県費	3,600	3,600	3,600
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	3,613	3,613	3,613

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度					
			R3	R4	R5	R6	R7	
活動指標	結婚新生活支援事業申請件数	R3新規	目標値	10	19	29	38	48
		単位：件	実績値	18				
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	7,213 千円	令和3年度決算額	4,687 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	結婚新生活支援事業申請件数 ※令和3年度新規事業・上限30万円(予算積算時は24件で想定) 令和3年度 18件 4,678,000円			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A			
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある	
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある	
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある	
評価根拠	令和3年度からの新規事業であったため、どれぐらいの申請があるか未知数であったが、当初想定していた件数よりも8件多かった(当初予算の範囲内)。補助金申請時のアンケートにおいてもこの制度に対する満足度が非常に高かった。			
課題	制度の周知を引き続き様々な手法で行っていく必要がある。また、この事業は少子化対策事業であるため、庁内関係各課との連携により進めていく必要がある。			
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)			
令和5年度事業計画	新婚世帯に対し、結婚に伴う新生活のスタートアップに係るコストを支援する。 ・補助対象：婚姻に伴う住宅取得費用または、住宅賃借費用、引越費用、リフォーム費用 ・対象世帯：夫婦ともに婚姻日における年齢が39歳以下かつ世帯所得400万円未満(世帯年収約540円未満に相当)の新規に婚姻した世帯 ・補助額：1世帯当たり上限30万円			
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較			
備考				

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	116	重要事業	○	総合戦略		担当部署	こども福祉課 保育係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
3・2・2	子どものための教育・保育施設運営			924,232 千円	948,929千円	871,480千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶11_社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶3_質の高い保育サービスの充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	児童福祉法第45条の最低基準を維持するために委託料及び施設型給付費を支弁するとともに、幼児教育・保育の無償化への対応や多子世帯における保護者の保育料等の負担軽減を図る。
----------------	--

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①子どものための教育・保育施設運営	<ul style="list-style-type: none"> ・民間保育所保育委託料 ・施設型給付費 保育実施委託児童の入園後の保護について、児童福祉法第45条の最低基準を維持するために委託料及び施設型給付費を支弁する。
②子育てのための施設等利用給付	<ul style="list-style-type: none"> ・施設等利用給付費 教育・保育給付の対象外である施設等の利用に対する負担金を給付する。
③子どものための教育・保育施設運営保育園一般経費【重要事業】	<ul style="list-style-type: none"> ・第3子以降保育料・副食費無償化 特定教育・保育施設（子ども・子育て支援新制度に移行した保育園や認定こども園等）を利用する第3子以降の児童の保育料や副食費を無料化し、保護者の負担軽減の拡大を図る。 ※歳入の減少（事業費：24,505千円、県費：8,701千円、一般財源：15,804千円）

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
事業 スケジュール	①子どものための教育・保育施設運営 ・民間保育所保育委託料 ・施設型給付費 ②子育てのための施設等利用給付 ・施設等利用給付費 ③子どものための教育・保育施設運営保育園一般経費【重】 ・第3子以降保育料・副食費無償化				
	事業費	871,480	871,480	871,480	
	財源	国庫	383,685	383,685	383,685
		県費	193,329	193,329	193,329
		市債	0	0	0
その他		38,880	38,880	38,880	
	一般財源	255,586	255,586	255,586	

【関連する指標】

総合計画 指標	指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
	【市民アンケート】子育て環境（保育施設、相談、交流の場など）の充実度の満足度	30.1	目標値	-	33.1	-	-	36.1
		単位：%	実績値	-				
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	871,480千円	令和3年度決算額	951,659千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■民間保育所保育委託料 ・令和3年度までの累計実績 1,663,724,520円 内訳(令和元年度 565,938,240円 令和2年度 548,767,500円 令和3年度 549,018,780円) ■施設型給付費 ・令和3年度までの累計実績 1,189,266,717円 内訳(令和元年度 388,341,666円 令和2年度 399,314,671円 令和3年度 401,610,380円) ■施設等利用給付費 ※対象者(延) ・令和3年度までの累計実績 392人 2,354,190円 内訳(令和元年度:97人 478,440円 令和2年度:142人 846,500円 令和3年度:153人 1,029,250円) ■第3子以降保育料・副食費無償化 ※対象者(延) ・令和3年度までの累計実績 2,765人 54,982,480円 内訳(令和元年度 915人 18,473,800円 令和2年度 952人 18,283,530円 令和3年度 898人 18,225,150円)			

【事業の評価】

【Check】 指標評価						
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	民間保育施設の運営費や人件費に充てられる民間保育所保育委託料や施設型給付費をスムーズかつ適切に支給することができた。また、第3子以降保育料・副食費無償化により、多くの多子世帯に支援を行うことができた。					
課題	民間保育施設の設備及び運営についての水準の向上に貢献できるよう委託料及び施設型給付費の支弁を行う。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
令和5年度事業計画	①子どものための教育・保育施設運営 ・民間保育所保育委託料 ・施設型給付費 保育実施委託児童の入園後の保護について、児童福祉法第45条の最低基準を維持するために委託料及び施設型給付費を支弁する。 ②子育てのための施設等利用給付 ・施設等利用給付費 教育・保育給付の対象外である施設等の利用に対する負担金を給付する。 ③子どものための教育・保育施設運営保育園一般経費【重要事業】 ・第3子以降保育料・副食費無償化 特定教育・保育施設(子ども・子育て支援新制度に移行した保育園や認定こども園等)を利用する第3子以降の児童の保育料や副食費を無料化し、保護者の負担軽減の拡大を図る。 ※歳入の減少(事業費:24,505千円、県費:8,701千円、一般財源:15,804千円)					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	117	重要事業	総合戦略	担当部署	こども福祉課 保育係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)
3・2・2	保育充実事業		71,261 千円	65,507千円	58,142 千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶11_社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶3_質の高い保育サービスの充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民間保育所が実施する各種事業に対し補助することで、安定的な事業運営を実現し、児童福祉の向上を図る。 ・ 民間保育所で実施する低年齢児保育、アレルギー児への対応に対して補助し、入所児童の処遇改善を図る。 ・ 社会福祉法人等が施設整備のために融資機関から借り入れた資金につき支払う利子を補給する。 ・ 民間保育所が行う施設整備に対して一部を補助することで、保育環境の充実を図る。
----------------	--

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①保育充実促進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育研究事業や子育て支援活動事業の委託 ・ 民間保育所補助金の支給 <p>入所児童処遇改善費として運営費の一部を補助するとともに、乳児や障がい児の受入れに対して補助する。</p>
②保育所特別保育事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 低年齢児やアレルギー児への対応を円滑にするために、補助金を支出する。
③民間保育所施設整備補助金	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉法人等が施設整備のために融資機関から借り入れた資金について、支払う利子を補給する。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	①保育充実促進事業		①保育充実促進事業	①保育充実促進事業
	②保育所特別保育事業		②保育所特別保育事業	②保育所特別保育事業
	③民間保育所施設整備補助金		③民間保育所施設整備補助金	③民間保育所施設整備補助金
	事業費	58,142	58,142	58,142
財源	国庫	50	50	50
	県費	9,175	9,175	9,175
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	48,917	48,917	48,917

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画 指標	【市民アンケート】子育て環境（保育施設、 相談、交流の場など）の充実度の満足度	目標値	-	33.1	-	-	36.1
		実績値	-				
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	58,142 千円	令和3年度決算額	54,381 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■館林市民間保育所補助金 (障害児保育事業) ※対象者 (延) ・令和3年度までの累計実績 988人 内訳 (令和元年度: 315人 令和2年度: 326人 令和3年度: 347人) ■保育充実促進費補助 (低年齢児保育) ※対象者 (延) ・令和3年度までの累計実績 3,995人 内訳 (令和元年度: 1,131人 令和2年度: 1,426人 令和3年度: 1,438人) ■民間保育所施設整備補助金 ・令和3年度までの累計 4園 内訳 (令和元年度: 2園 令和2年度: 1園 令和3年度: 1園)			

【事業の評価】

【Check】 指標評価						
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	女性の社会進出による低年齢児の保育園のニーズや、発達障害児保育の需要が高まっていることから、民間保育所を補助することで保育内容の充実と入所児童の処遇改善を図ることができた。					
課題	予算額の縮小					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	出生数は減少しているが低年齢児保育や発達障害児保育の需要は高まっているので、引き続き、補助を行うことでの保育内容の充実を図っていく。					
令和5年度事業計画	■館林市民間保育所補助金 ・保育所運営費補助事業、諸行事記念品代補助事業、長時間保育奨励事業、保育所乳児受入支援事業、障害児保育事業 ■保育充実促進費補助 ・低年齢児保育事業、食物アレルギー対策事業 ■民間保育所施設整備補助金 ・館林市民間社会福祉施設整備借入資金利子補助					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	118	重要事業		総合戦略		担当部署	こども福祉課 保育係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
3・2・3	保育園運営			480,528 千円	428,860千円	504,660 千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶11_社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶3_質の高い保育サービスの充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	子どもたちが健やかに育ち、人間形成の基礎が培われる就学前の乳幼児期に、より良い教育・保育の提供ができるよう充実した公立保育園の運営体制や施設の維持管理の推進を図る。
----------------	--

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

公立保育園9園を運営するために必要な会計年度任用保育士賃金や保育士の質の向上のための研修費、給食業務委託料、施設の修繕等の施設維持管理費等を支出する

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業スケジュール	保育園を運営するために必要な経費の支出	保育園を運営するために必要な経費の支出	保育園を運営するために必要な経費の支出	保育園を運営するために必要な経費の支出
事業費		504,660	504,660	504,660
財源	国庫	0	0	0
	県費	4,047	4,047	4,047
	市債	0	0	0
	その他	101,631	101,631	101,631
	一般財源	398,982	398,982	398,982

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画 指標	【市民アンケート】子育て環境（保育施設、相談、交流の場など）の充実度の満足度	目標値	-	33.1	-	-	36.1
		実績値	-				
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	504,660千円	令和3年度決算額	456,036千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■会計年度任用職員賃金 ・令和3年度までの累計実績 482,931,474円 内訳(令和元年度:137,091,511円 令和2年度:168,819,996円 令和3年度:177,019,967円) ■研修参加負担金 ・令和3年度までの累計実績 1,540,630円 内訳(令和元年度:676,680円 令和2年度:407,975円 令和3年度:455,975円) ■給食業務委託料 令和3年度までの累計実績 370,387,027円 令和元年度:業務委託料 70,108,800円 賄材料費 50,122,082円 令和2年度:業務委託料 74,563,500円 賄材料費 49,731,673円 令和3年度:業務委託料 75,834,000円 賄材料費 50,026,972円 ■修繕件数(R3 2,566千円) ・令和3年度までの累計実績 40件 内訳(令和元年度:10件 令和2年度:16件 令和3年度:14件) ■工事件数(R3 3,099千円) ・令和3年度までの累計実績 19件 内訳(令和元年度:7件 令和2年度:7件 令和3年度:5件) ■備品購入件数(R3 1,727千円) ・令和3年度までの累計実績 38件 内訳(令和元年度:17件 令和2年度:7件 令和3年度:14件)			

【事業の評価】

【Check】 指標評価						
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	令和3年度では実施できなかった施設整備もあった。また保育士研修では新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止になることもあったが、ZOOM会議での研修に積極的に参加した。					
課題	予算額の縮小。縮小した中でもよりよい保育園運営を行っていく。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	園児が安全に利用できるよう施設整備計画を進めること、保育士の確保、保育士の質の向上のための研修に積極的に参加し、引き続き保育内容の充実を図っていく。					
令和5年度事業計画	公立保育園9園を運営するために必要な会計年度任用保育士賃金や保育士の質の向上のための研修費、給食業務委託料、施設の修繕等の施設維持管理費等を支出する。					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	※前年度比較		
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	119	重要事業		総合戦略		担当部署	こども福祉課 保育係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
3・2・3	保育園施設整備事業			5,786 千円	4,293千円	12,052 千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶11_社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶3_質の高い保育サービスの充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	保育需要への対応や子育て支援の拡充を図るために、その基盤となる公立保育園9園の保育施設を整備し、保育環境の維持向上を図る。
----------------	---

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- ①保育園施設整備事業
・遊具の修繕や大規模な工事、調理器具等の備品購入を行う。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		①保育園施設整備事業 ・修繕、工事、備品購入	①保育園施設整備事業 ・修繕、工事、備品購入	①保育園施設整備事業 ・修繕、工事、備品購入
事業費		12,052	12,052	12,052
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	12,052	12,052	12,052

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画 指標	【市民アンケート】子育て環境（保育施設、 相談、交流の場など）の充実度の満足度	目標値	-	33.1	-	-	36.1
		実績値	-				
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	12,052 千円	令和3年度決算額	10,411 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■修繕件数 ・令和3年度までの累計実績 6件 内訳(令和元年度: 3件 令和2年度: 1件 令和3年度: 2件) ■工事件数 ・令和3年度までの累計実績 9件 内訳(令和元年度: 6件 令和2年度: 1件 令和3年度: 2件) ■備品購入件数 ・令和3年度までの累計実績 11件 内訳(令和元年度: 3件 令和2年度: 3件 令和3年度: 5件)			

【事業の評価】

【Check】 指標評価						
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	施設、遊具、備品ともに経年劣化により修繕や工事、買い替えなどが必要となる。限られた予算の中で優先順位を考え保育業務に支障が出ないようにする。					
課題	・予算額の縮小 ・施設整備計画の再検討					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	限られた予算の中で、優先順位を考えつつ、修繕や工事に対応すべきか、入替が必要なものか検討しながら施設整備を進めていかなければならない。					
令和5年度事業計画	施設、遊具、備品の修繕、大規模な工事、購入 GHP空調機の入替工事					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	※前年度比較		
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	120	重要事業		総合戦略		担当部署	こども福祉課子育て支援係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
3・2・5	家庭児童相談事業			132 千円	5,004 千円	238 千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶11_社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶2_地域子育て支援の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	児童の発達、心配ごと、児童虐待などの児童に関する相談を受け付け改善を図る。 家庭児童相談員を設置 要保護児童対策地域協議会（調整機関）との連携
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
<p>子ども家庭総合支援拠点設置 令和4年度の機構改革に足並みをそろえるかたちで、子ども家庭総合支援拠点が設置されることになった（係新設） 令和3年度は次年度の体制等準備期間とともに、予算要求を行う。</p> <p>（主な業務） 家庭児童相談 児童虐待対応 家庭支援に関すること 児童相談所からの通告に基づく市町村送致 要保護児童対策地域協議会（調整機関）に関すること 児童相談所の巡回相談に関すること。 居所不明児童及び入所措置児童に関すること。 児童虐待の早期発見・早期対応のための啓発（市民の通告義務の周知・啓発に努める）</p> <p>子ども家庭総合支援拠点となれば、国庫補助事業（児童虐待・DV対策等総合支援事業費補助金）を活用することが可能 ※補助率1/2</p>	

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	家庭児童相談事業 子ども家庭総合支援拠点設置準備		家庭児童相談事業 子ども家庭総合支援拠点設置開始～	子ども家庭総合支援拠点 家庭児童相談事業
事業費		238	1,829	1,829
財源	国庫	0	747	747
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	238	1,082	1,082

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	860	目標値	907	930	953	977	1,000
	単位：件	実績値	1,569				
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	238 千円	令和3年度決算額	5,384 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	家庭児童相談件数 令和元年度 1,132件 令和2年度 1,821件 令和3年度 1,569件			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	平成28年児童福祉法の改正により、児童虐待防止に係る市の役割・責務が明確化され、相談体制と虐待対応への整備が求められ、令和2年度より本格的に市町村送致も開始されたが、家庭児童相談室3名体制で、家庭支援及び児童虐待対応を安全に見守り支援している。					
課題	相談件数は増加しており、児童虐待通報による24時間以内の安全確認や要保護児童等とその家庭への支援検討及び相談において、関係機関との連携を強化するとともに、支援担当者の相談ワーク及びソーシャルワークにおける相談及び虐待等対応職員の資質と組織としての対応力を向上させることが必要（⇒令和4年度より子ども家庭総合支店拠点設置へ）					
【Action】 今後の方向性・内容	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）					
	子ども家庭総合支援拠点として体制整備（令和4年度より） 家庭児童相談事業は、子ども家庭総合支援拠点事業と要保護児童対策地域協議会調整機関を担う子どもを守る地域ネットワーク事業の2事業体制。 ・家庭児童相談のみならず、子どもの相談には母が関係している事が多いため、婦人相談、女性DV相談も統合して効果的な相談体制とする。 ・虐待対応・学校や児童相談所（市町村送致）と連携した支援 ・関係各機関との連絡調整体制の推進 令和4年度からは、さらにヤングケアラーについて、早期発見・把握、相談支援など支援策の推進、社会的認知度の向上などに取り組む（庁内関係各課及び他機関との連携体制整備）。					
令和5年度事業計画	令和4年度からは、子ども家庭総合支援拠点事業として、子どもとその家庭等を対象に、実情の把握、子ども等に関する相談全般から住宅支援を中心とした、より専門的な相談対応や必要な調査、訪問等による継続的な支援までをチームで実施するとともに、児童相談所等との総合調整体制を推進する。（社会福祉士、保健師、保育士、教員の有資格者を配置） ※令和4年4月1日より家庭児童相談と婦人相談を拠点事業に統合					
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	121	重要事業		総合戦略		担当部署	こども福祉課 児童館
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
3・2・6	児童館運営事業			21,014 千円	21,559 千円	34,902 千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶11_社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶2_地域子育て支援の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	健全な様々な遊びを提供し、豊かな心を育む子どもを増やすようにする
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
<p>①児童館運営事業（3館共通） 安心・安全な施設の維持管理</p> <p>②活動事業</p> <p>児童センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の協調性や連帯感の育成、体力の増進を図る 小学生事業の開催－わんぱく遊び隊、ホビィキッズ、稲作体験、遊びの広場 幼児～小学生対象－今月のあそび 親子対象－エンジョイタイム、親子でアート、お楽しみ会 一般事業－レジキョーホルダー作り、お正月リース作りなど ・中高生の健全な居場所づくり 中高生事業の開催－冬休みスペシャル、春休みスペシャル等 いつでも来れる居場所づくり、楽しく勉強できる環境づくり ・地域・世代間の交流（コロナで休止） 秋まつり、伝統芸能・獅子舞 <p>西児童館活動事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 【小学生対象事業】※児童の協調性や連帯感の育成、体力の増進 <ul style="list-style-type: none"> ・教室事業 なんでもチャレンジ隊（定員・通年） ・一般事業 みんなで遊ぼう作ろう（月2回）、叩き染め、クリスマスリースと練り香水他 ・今月のあそび（毎日）※幼児～小学生対象 ・3館合同事業（休止） 【乳幼児親子対象事業】※親子の交流と子育て支援 <ul style="list-style-type: none"> ・教室事業 1歳児親子（定員・通年）、2歳児親子（定員・通年） ・一般事業 なかよしひろば（月2～3回） 【その他の一般事業】※地域・世代間交流 <ul style="list-style-type: none"> ・ウエストハッピーハロウィン（西公民館まつり代替）、あきまつり（こどもまつり代替）、獅子舞、コンサート他 <p>赤羽児童館活動事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生対象事業 年度継続教室事業「わくわくクラブ」 定例事業「とにかく遊ぼう」 一般事業「不思議なおもちゃラボ」「プリンセス☆ハーバリウム作り」等による小学生に向けた活動による児童の協調性や連帯感の育成及び体力の増進。 ・親子対象事業 年度継続教室事業 「ぴよぴよクラブ（0歳児）」「トコトコクラブ（1歳児）」「親子ふれあい教室（2歳児）」 定例事業「ともだちあつまれ」 一般事業「パトカー見学」「工事の車を見に行こう」「避難訓練&消防車見学」等による親子の交流や地域と連携した子育て支援の実施。 その他の一般事業 「夏祭り」「ハロハロ・ハロウィン」「焼いも大会」「春のレク大会」等、季節に合わせた事業の実施。 「赤羽公民館夕涼み会」「赤羽公民館まつり」等地域行事への参画。 	

【事業スケジュール】

(単位：千円)

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	①運営事業 ・施設維持管理 ・感染症対策、衛生管理 ②活動事業 ・乳幼児親子教室 ・小学生対象事業 ・親子対象事業 ・中高生事業 ・その他の一般事業 ③整備事業 ・施設管理・設備更新事業 センター22,488千円、西5,015千円、赤羽7,399千円		①運営事業 ・施設維持管理 ・感染症対策、衛生管理 ②活動事業 ・乳幼児親子教室 ・小学生対象事業 ・親子対象事業 ・中高生事業 ・その他の一般事業 ③整備事業 ・施設管理・設備更新事業	①運営事業 ・施設維持管理 ・感染症対策、衛生管理 ②活動事業 ・乳幼児親子教室 ・小学生対象事業 ・親子対象事業 ・中高生事業 ・その他の一般事業 ③整備事業 ・施設管理・設備更新事業
	事業費	34,902	34,902	34,902
財源	国庫	4,770	4,770	4,770
	県費	4,770	4,770	4,770
	市債			
	その他			
	一般財源	25,362	25,362	25,362

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
活動指標 総来館者数	85,506	目標値	86,337	86,753	87,169	87,584	88,000
	単位：人	実績値	21,534				
活動指標 小学生事業参加者	855	目標値	903	928	952	976	1,000
	単位：人	実績値	301				
活動指標 親子対象事業参加者	1,780	目標値	1,853	1,890	1,927	1,963	2,000
	単位：人	実績値	210				
活動指標 一般事業参加者	9,795	目標値	9,863	9,898	9,932	9,966	10,000
	単位：人	実績値	3,474				

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	34,902 千円	令和3年度決算額	27,486 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■ 運営事業 ・ 利用状況（総来館者数） 令和元年度：85,506人、令和2年度：12,593人、令和3年度 21,534人 ■ 活動事業 ・ 一般事業参加延人数 令和元年度：9,795人、令和2年度：1,899人、令和3年度：3,474人 ・ 乳幼児親子対象教室参加延人数 令和元年度：1,780人、令和2年度：304人、令和3年度：210人 ・ 小学生対象教室参加延人数 令和元年度：855人、令和2年度：166人、令和3年度：301人			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D					
事業の必要性	<input type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input checked="" type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	指標については、総来館者数・事業参加者数ともに年度目標を下回っている。各指標の未達成の要因は、新型コロナウイルスの影響である。					
課題	誰でも利用できる身近な施設として、コロナ禍のような状況の中でも対応できる体制づくりが課題である。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）					
	コロナ禍でなかなか外出できず孤独な思いをする親子がないよう、新型コロナの影響がある中でも、親子が気軽に立ち寄り、遊びや運動を通して子どもだけでなく、保護者同士がつながることができる場所にしていきたい。					
令和5年度事業計画	① 運営事業 ・ 施設維持管理 ② 活動事業 ・ 一般事業 ・ 乳幼児親子対象教室 ・ 小学生対象事業 ・ 中高生事業 ③ 整備事業 ・ 施設管理・設備更新事業					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	122	重要事業	○	総合戦略	○	担当部署	健康推進課 母子保健係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
4・1・3	母子保健対策事業			67,198千円	56,354千円	67,238千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶11_社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶1_妊娠・出産・子育て期の切れ目のない支援

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	(1) 母性並びに乳幼児の健康の保持及び増進 不妊治療費助成(一般不妊・特定不妊・男性不妊・不育症に対して治療費助成) 乳幼児健康診査、妊婦健康診査、産婦健康診査、新生児聴覚検査、歯科健康診査 健康相談(公民館健康相談、母乳育児相談、乳幼児発達相談、おひさま広場) 健康教育(ママパパ学級、離乳食教室、離乳食個別講座) 保健指導、家庭訪問、未熟児養育医療給付 (2) 地域における子育て支援の充実 母子保健推進員の育成と活動支援(乳児全戸訪問事業等)
----------------	--

令和3年度事業計画(主要な事業とその取組内容)

[健康診査]	4か月児健康診査、10か月児健康診査、1歳6か月児健康診査、2歳児歯科健康診査、3歳児健康診査
[訪問指導]	乳幼児訪問指導、妊産婦訪問指導、新生児訪問指導、未熟児訪問指導
[健康相談]	公民館健康相談、乳幼児発達相談、乳幼児健康診査事後相談(おひさま広場)、乳幼児窓口相談、母乳育児相談、母子電話相談
[健康教育]	ママパパ学級、離乳食教室 見て学ぶスタート編、離乳食個別講座
[妊娠届出受理・母子健康手帳交付・妊婦健康診査受診票交付]	妊娠届出受理、母子健康手帳及び妊婦健康診査受診票の交付、問診、セルフプランシート作成、保健事業案内、保健指導
[妊婦健康診査]	第1回から第14回妊婦健康診査費用の一部を助成、医療機関委託
[新生児聴覚検査]	新生児聴覚検査費用の一部を助成、医療機関委託
[産婦健康診査]	産後2週間及び1か月の産婦健康診査費用の一部を助成、医療機関委託
[不妊治療費等助成]	不妊治療に要する費用の一部を助成。一般不妊治療、特定不妊治療、男性不妊治療、不育治療
[母子保健推進員活動]	担当地区の母子に対し健康診査の受診勧奨や育児相談等を行い市とのパイプ役として活動、母子保健事業の協力
[未熟児養育医療給付]	身体発育が未熟で生まれ入院を必要とする1歳未満の乳児に対し、入院治療にかかる医療費等を給

【事業スケジュール】

(単位：千円)

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
事業 スケジュール	事業費	67,238	66,444	66,444	
	財源	国庫	3,493	3,876	3,876
		県費	952	1,082	1,082
		市債	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		62,793	61,486	61,486	

【関連する指標】

総合計画 指標	指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
総合計画 指標	妊婦家庭訪問実施率	90.4	目標値	91.4	91.9	92.4	92.9	93.4
		単位：%	実績値	95.1				
総合計画 指標	乳幼児健康診査受診率	98.3	目標値	98.4	98.4	98.4	98.5	98.5
		単位：%	実績値	98.6				
			目標値					
			実績値					
			目標値					
			実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	67,238 千円	令和3年度決算額	59,728 千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■妊婦家庭訪問実施率 令和元年度 90.4%、令和2年度 81.1%、令和3年度 95.1 % ■乳幼児健康診査受診率 令和元年度 98.3%、令和2年度 98.0%、令和3年度 98.6 %		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	指標については、妊婦家庭訪問、乳幼児健康診査共に目標値を上回っている。 新型コロナウイルス感染症のまん延により、家庭訪問や集団健診を心配する声も聞かれたが、感染症対策の徹底や、警戒度に応じた事業内容の変更等を工夫し実施したことにより高い実施率となったと考えられる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定妊婦や疾患を持つ妊婦、外国人妊婦等の増加で、支援を必要とする妊産婦が増加している。 ・ 新型コロナウイルス感染症による生活様式の変化に伴い、親族や友人の支援や情報交換が受けにくい環境により、育児不安を訴える保護者が増加している。 ・ 発達障害の疑いや虐待等、支援の必要な家庭が増加している。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	年々支援を必要とする妊産婦、乳幼児が増加している中、変化する対象者のニーズを把握しながら事業を展開する必要がある。また、関係機関と連携を図りながら虐待予防、療育支援を行う必要がある。
令和5年度事業計画	[健康診査] 4か月児健康診査、10か月児健康診査、1歳6か月児健康診査、2歳児歯科健康診査、3歳児健康診査 [訪問指導] 乳幼児・妊産婦・新生児・未熟児訪問指導 [健康相談] 乳幼児発達相談、乳幼児健康診査事後相談（おひさま広場）、乳幼児窓口・母乳育児・母子電話相談 [健康教育] ママパパ学級、離乳食教室 見て学ぶスタート編、離乳食個別講座 [妊娠届出受理・母子健康手帳交付・妊婦健康診査受診票交付] [妊婦健康診査] [新生児聴覚検査] [産婦健康診査] [不妊治療費等助成] 不妊治療に要する費用の一部を助成。
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	123	重要事業	○	総合戦略	○	担当部署	健康推進課 母子保健係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
4・1・3	妊娠・出産包括支援事業			21,479千円	16,848千円	21,038千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶11_社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶1_妊娠・出産・子育て期の切れ目のない支援

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	<p>安心して生み育てられるまちになるため、妊娠から出産・子育てまでの切れ目のない支援を行うことを目的とする。</p> <p>保健師1名を母子保健コーディネーターとして配置し、様々な機関の関係者との連携・情報の共有を図り、妊娠から子育て期までワンストップで支援を行っている。</p> <p>①「母子保健コーディネーター事業」 ②「産前産後サポート事業」 ③「産後ケア事業」</p>
----------------	--

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- 【母子保健コーディネーター事業】**
妊産婦に必要な情報提供・関係機関との調整し必要な支援につなぐ、セルフプラン・支援プランの作成、定期的なフォローの実施、多言語音声翻訳アプリを用いた外国人支援
- 【産前産後サポート事業】**
妊娠中・生後28日までの全戸訪問事業、産前産後サポーター派遣事業、祖父母教室、子育てサロン、多胎妊産婦交流事業、子育て支援モバイルサービス事業、子育て応援冊子配布事業、双子手帳の交付
- 【産後ケア事業】**
出産直後の産婦の健康面の悩みや育児不安などを解消するため、助産師による心身のケアや休養等支援を行う事業（デイサービス型、アウトリーチ型）

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
事業 スケジュール	事業スケジュール	母子保健コーディネーター事業 産前産後サポート事業 産後ケア事業 【新規】 ・多胎サロン	母子保健コーディネーター事業 産前産後サポート事業 産後ケア事業 多胎サロン 【新規】 ・社会福祉士配置	母子保健コーディネーター事業 産前産後サポート事業 産後ケア事業 多胎サロン 社会福祉士配置	
	事業費	21,038	23,764	23,764	
	財源	国庫	8,196	13,235	13,235
		県費	3,280	2,081	2,081
		市債	0	0	0
その他		11	33	33	
	一般財源	9,551	8,415	8,415	

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度					
			R3	R4	R5	R6	R7	
総合戦略 KPI	子育て支援モバイルサービス登録率	目標値	61.8	63.8	64.8	65.8	66.8	67.8
		実績値	61.8	58.3				
		目標値						
		実績値						
		目標値						
		実績値						
		目標値						
		実績値						

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	21,038 千円	令和3年度決算額	20,322 千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■子育て支援モバイルサービス登録率 令和元年度 61.8%、令和2年度 78.5%、令和3年度 58.3 %		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D		
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低 政策の推進に寄与している事業である 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低 適切な成果が得られていない 成果が低水準にある
事業の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低 適切な費用対効果が得られていない 費用対効果が低水準にある
評価根拠	年々登録率が増加傾向にあったが、令和3年度については目標値を下回る結果となった。新型コロナウイルス感染症予防対策として、妊娠届出や新生児訪問の面接時間を短縮したため十分な説明ができなかったこと等が、要因として考えられる。		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定妊婦や疾患を持つ妊婦、外国人妊婦等の増加で、支援を必要とする妊産婦が増加している。 ・ 産後ケア事業対象者が産後1年未満に拡大されたが、受け入れる関係機関数が少なく体制が整わない。 ・ 子育て支援モバイルサービスの登録を各自でお願いすると、仕事や育児等で日々多忙な中で登録に至らない場合が多い。 		
【Action】 今後の方向性 ・ 内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年々支援を必要とする妊産婦、乳幼児が増加している中、変化する対象者のニーズを把握しながら事業を展開する必要がある。また、関係機関と連携を図りながら虐待予防、育児支援を行う必要がある。 ・ 子育て支援モバイルサービスの配信内容がマンネリ化をしないよう、タイムリーに新着及び更新情報を掲載していく必要がある。 		
令和5年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 母子保健コーディネーター事業 ・ 産前産後サポート事業 ・ 産後ケア事業 ・ 子育てサロン、多胎サロン ・ 困難事例に対応する専門職の配置 		
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較		
備考			

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	124	重要事業	○	総合戦略		担当部署	健康推進課 母子保健係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
4・1・5	予防接種事業			212,585千円	226,852千円	216,771千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶II_地域で支え合い生涯健康で暮らせる幸福感の高いまち ▶III_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶09_心身ともに健康でいきいきと暮らせるまちになる
施策目的	▶11_社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶8_感染症対策の充実
施策の方向	▶1_妊娠・出産・子育て期の切れ目のない支援

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	予防接種を行い、感染の恐れのある疾病の発生及びまん延を予防し、公衆衛生の向上及び増進を行う。 ①定期予防接種 ②任意予防接種助成
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
[定期予防接種] ロタ、B型肝炎、ヒブ、小児用肺炎球菌、四種混合、二種混合、BCG、麻しん風しん、第5期風しん、水痘、日本脳炎、子宮頸がん、高齢者インフルエンザ、高齢者用肺炎球菌	
[任意予防接種助成] おたふくかぜ、風しん（成人）、高齢者用肺炎球菌、骨髄移植等の理由による定期予防接種ワクチン再接種	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	①定期予防接種【重】 ②任意予防接種助成【重】 ・風しん（成人）ワクチン接種費用助成 ・高齢者用肺炎球菌ワクチン接種費用助成 ・おたふくかぜワクチン接種費用助成 【新規】 ・骨髄移植等の理由による定期予防接種ワクチン再接種費用助成		①定期予防接種【重】 ※子宮頸がんワクチン接種再開 ※風しん第5期延長（3年間） ②任意予防接種助成【重】 ・風しん（成人）ワクチン接種費用助成 ・高齢者用肺炎球菌ワクチン接種費用助成 ・おたふくかぜワクチン接種費用助成 ・骨髄移植等の理由による定期予防接種ワクチン再接種費用助成	①定期予防接種【重】 ②任意予防接種助成【重】 ・風しん（成人）ワクチン接種費用助成 ・高齢者用肺炎球菌ワクチン接種費用助成 ・おたふくかぜワクチン接種費用助成 ・骨髄移植等の理由による定期予防接種ワクチン再接種費用助成
	事業費	216,771	234,769	234,769
財源	国庫	4,481	3,886	3,886
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	212,290	230,883	230,883

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	予防接種の接種率（麻しん風しん第1期）	目標値	92.8	93.4	93.9	94.5	95.0
		実績値	98.5				
活動指標	予防接種の接種率（麻しん風しん第2期）	目標値	94.9	94.9	94.9	95.0	95.0
		実績値	97.9				
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	216,771 千円	令和3年度決算額	197,535 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■ 予防接種の接種率（麻しん風しん第1期） 令和元年度：91.7%、令和2年度：103.2%、令和3年度：98.5% ■ 予防接種の接種率（麻しん風しん第2期） 令和元年度：94.8%、令和2年度：99.3%、令和3年度：97.9%			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	指標については目標値を上回っている。新型コロナウイルス感染症のまん延により、ワクチンで予防できる病気はワクチンで防ごうという意識の高まりと共に、乳幼児健康診査時の勧奨、未接種者への電話確認、保育園、幼稚園、学校へのちらし配布等を積極的に行ったことが目標値を上回ったと考えられる。					
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期予防接種では、二種混合や日本脳炎第2期の学童の接種率がやや低い。 ・ 風しん第5期の抗体検査率が全国的に低く令和4年度から3年間延長されるため、今後も勧奨を行う必要がある。 ・ 子宮頸がん予防ワクチンの積極的勧奨の再開及びキャッチアップ接種、任意接種の助成制度が開始されるため、勧奨及び周知をする必要がある。 					
【Action】 今後の方向性 ・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）					
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 麻しん風しん予防接種は、今後も接種率95%を維持する。 ・ 風しん第5期抗体検査、予防接種については、多様な受診方法を周知し（特定健診や全国の医療機関等）勧奨を図る。 ・ 令和4年度より子宮頸がん予防接種の積極的勧奨が再開され、また、キャッチアップ接種や任意接種の助成制度も行われるため、対象者への周知を行い接種を推進する必要がある。 					
令和5年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期予防接種の実施 ・ 任意予防接種の助成 					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	125	重要事業		総合戦略		担当部署	教育総務課 総括係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・1・2	奨学資金貸付事業			83,660千円	78,554千円	86,027千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶2_夢と希望の実現に向けた支援の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	進学の意欲と能力を有する者で、経済的理由により進学することが困難な者に対し必要な資金を貸与し、有為の人材を育成する。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
奨学資金貸付事業	
○内容：奨学資金の貸与	
○令和3年度貸与計画（対象・金額・人数）	
・高等学校又は専修学校の高等課程に在学する者 月額9,000円以内（新規4人・継続1人）	
・高等専門学校に在学する者 月額17,500円以内（新規2人・継続0人）	
・専修学校の専門課程又は大学に在学する者 月額39,900円以内（新規59人・継続118人）	
※新規には追加募集分を含む	
○貸与期間：在学する学校の正規の修業期間	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	奨学資金の貸与			
	○新規分 58人 （高校1人、専修高等1人、高専1人、専修専門5人、大学50人） ○追加分 7人 （高校1人、専修高等1人、高専1人、専修専門2人、大学2人） ○継続分 120人 （高校2人、専修高等0人、高専0人、専修専門13人、大学105人）		奨学資金の貸与 ○新規分 58人 （高校1人、専修高等1人、高専1人、専修専門5人、大学50人） ○継続分 120人 （高校1人、専修高等0人、高専0人、専修専門13人、大学106人）	奨学資金の貸与 ○新規分 58人 （高校1人、専修高等1人、高専1人、専修専門5人、大学50人） ○継続分 128人 （高校2人、専修高等1人、高専1人、専修専門7人、大学117人）
事業費		86,027	85,038	87,858
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	77,733	75,364	73,982
	一般財源	8,294	9,674	13,876

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	86,027 千円	令和3年度決算額	71,035 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■貸与者数 ・令和元年度：163名（内訳 高校4名、専修学校専門課程12名、大学147名） ・令和2年度：167名（内訳 高校3名、専修学校専門課程14名、大学150名） ・令和3年度：152名（内訳 高校3名、専修学校専門課程16名、大学133名） ■貸与額（決算額） ・令和元年度：75,404,100円 ・令和2年度：78,408,300円 ・令和3年度：70,947,000円			

【事業の評価】

【Check】 指標評価						
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	本市奨学金の貸与者については、少子化とともに減少傾向が見られるものの、引き続き希望者は少なくない状況である。また、コロナ禍等による家計の急変に備え、必要とする学生が必要な支援を受けられる奨学金制度は、有為な人材育成とともに社会安定のためにも極めて重要であり、当該制度の継続は妥当と考える。					
課題	奨学金の返済金は貸付のための財源に充当されているが、一部滞納する者もあり、その対応に苦慮している。年々滞納の整理を進めているが、新たな滞納者も生じていることから、今後も早期の完済に努めるよう、滞納者への継続的な取組が必要である。 なお、返済者の利便性向上を図るために、令和4年度の「奨学資金管理システム」導入とあわせて、返済金の口座振替を実施する予定で進めている。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）					
	滞納整理には継続的に取り組むとともに、経済的な理由で進学を断念する者が生じないよう当該事業の安定的な運営を継続する。					
令和5年度事業計画	奨学資金の貸与 ○新規分 53人（高校1人、専修高等1人、高専1人、専修専門5人、大学 45人） ○継続分 128人（高校2人、専修高等1人、高専1人、専修専門7人、大学117人）					
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	126	重要事業		総合戦略		担当部署	教育委員会教育総務課
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・2・1	小学校施設維持管理			66,215千円	65,946千円	64,064千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶1_学習環境や生活環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	施設の維持修繕工事、消防設備・自家用電気工作物・コンピューターの管理業務委託、プール設備・昇降機の点検管理委託、機械警備委託、害虫駆除委託等を行い、小学校施設を適切に維持管理する。
----------------	--

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

維持修繕工事 全校校舎・屋内運動場等設備改修工事・遊具改修工事 一小ブロック塀撤去改修工事 三小屋内運動場屋根樋改修工事 四小二階多目的室床改修工事 五小自動火災報知設備改修工事 八小非常用放送設備改修工事 蛇口ハンドル改修工事(全校)	施設保守点検業務委託 機械警備委託 給食用昇降機保守管理委託(四・七小除く9校) 浄化槽保守点検委託(四・五・七・九・十・ことば) 自家用電気工作物保守管理委託 プールろ過機関係設備保守点検委託 消防設備保守点検委託 遊具保守点検委託 一般廃棄物収集運搬委託 大型廃棄物処理委託 受水槽高架水槽清掃業務委託 スズメバチ等駆除委託 校務システム・教育ネットワーク関係業務委託 樹木伐採・剪定業務委託
--	--

【事業スケジュール】

(単位：千円)

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	維持修繕工事(全校)		維持修繕工事(全校)	維持修繕工事(全校)
	施設保守管理業務委託(全校)		施設保守管理業務委託(全校)	施設保守管理業務委託(全校)
事業費		64,064	64,064	64,064
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	1	0	0
	一般財源	64,063	64,064	64,064

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	64,064 千円	令和3年度決算額	63,926 千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	維持修繕工事 小学校施設維持に必須となる修繕・工事を実施した R1 修繕23件 工事23件 R2 修繕22件 工事27件 R3 修繕40件 工事38件	施設保守点検業務委託 小学校施設保守等に必須となる業務委託を実施した R1 委託37件 R2 委託36件 R3 委託32件	

【事業の評価】

【Check】 指標評価	
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	校舎等施設の維持修繕、コンピューターネットワークを始めとする各種設備の管理・点検・警備等について滞りなく行い、学校施設を適切に維持管理した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各校から修繕・工事要望が多数あるが、その規模等から全てに対応できず保留とした。 ・校舎等の将来の改築と、現在行う必要のある修繕・工事の関係。 ・雨漏りの一因である、施工困難な高所の雨樋等の清掃不足。 ・雨樋詰まりの主因である、多くの超高木並びに危険木の伐採。
【Action】 今後の方向性・内容	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	施設等は年々劣化することから、上記『事業実績』でも示すとおり、修繕・工事件数が増加していくことが予想され、事業は拡大局面にある。 しかし、施設劣化の主因である雨漏りの原因として雨樋等の清掃不足も挙げられる。今後は防水改修工事に先立ち清掃を行ったうえで、防水改修工事の要否を判断する。なお、雨樋の多くは高所にあり、直営での清掃は困難で、業者による施工が必要となる。 また、改修工事等においても、費用負担の平準化と手戻りを極力防ぐため、公共施設総合管理計画に基づき計画的に実施する方針とする。
令和5年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎等雨樋清掃業務委託 ・各校危険樹木伐採業務委託 ・第七小学校特別支援学級空調設備設置工事 ・第三小学校受水槽給水ポンプ取替工事 ・美園小学校プール給水弁取替工事 ・第七小学校プールろ過器取替工事
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	127	重要事業	○	総合戦略		担当部署	教育総務課 施設整備係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・2・3	小学校施設整備事業			131,090 千円	103,524千円	120,717 千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶1_学習環境や生活環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	良好な教育環境を確保するため老朽化した施設・設備の改修を行う。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
小学校施設整備事業【重要事業】 五小屋内運動場大規模改修工事 七小トイレ改修工事 特別教室空調設備設置工事 八小トイレ改修工事設計業務委託 良好な教育環境を確保するため、老朽化した屋内運動場の大規模改修、トイレ改修、特別教室の空調設備設置、トイレ改修工事の設計を実施する。	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業スケジュール		特別教室空調設備設置工事(補正) 八小トイレ改修工事設計業務委託 ※以下令和2年度繰越事業 五小屋内運動場大規模改修工事 七小トイレ改修工事	八小トイレ改修工事 二小屋上防水改修工事 特別教室空調設備設置工事 九小トイレ改修工事設計業務委託	九小トイレ改修工事 三小トイレ改修工事設計業務委託 特別教室空調設備設置工事
事業費		120,717	219,516	76,908
財源	国庫	28,890	44,128	21,867
	県費	0	0	0
	市債	66,400	144,800	44,900
	その他	0	0	0
	一般財源	25,427	30,588	10,141

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	トイレの洋式化率	44.05	目標値	55.85	61.75	67.65	73.55	80
		単位：%	実績値	53.32				
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	120,717 千円	令和3年度決算額	215,590 千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	トイレ改修設計・工事、校舎防水改修工事、屋内運動場大規模改修設計・工事、空調設備設置工事、GIGAスクールネットワーク構築業務委託、校内LAN改修工事 等 R1 業務委託1件 工事17件 R2 業務委託3件 工事10件 R3 業務委託2件 工事18件		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	C
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・国の交付金を受け実施中のトイレ洋式化事業は概ね目標に沿った実績となっている。 ・コロナ対策として有効な分散学習にも資する空調設備設置工事について、設置率は急ピッチで上昇している。 ・GIGAスクール構想関連施設については遅滞なく整備した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎等の将来の改築と、現在行う必要のある修繕・工事の関係。 ・雨漏りの一因である、高所の雨樋等の清掃不足。 ・空調設備等新設における将来の更新費用の増大。
【Action】 今後の方向性・内容	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	公共施設総合管理計画に基づき、費用負担の平準化と手戻り防止を図るため、計画的に改修する方針とする。 改修工事に先んじて清掃等を行うことが長寿命化に非常に有効であることから、施設維持管理事業とバランスをとりながら本事業を推進する方針とする。
令和5年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・第九小学校トイレ改修工事 ・第三小学校トイレ改修設計業務委託 ・美園小学校トイレ改修設計業務委託 ・第八小学校外壁改修工事
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	128	重要事業		総合戦略		担当部署	教育総務課 施設整備係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・3・1	中学校施設維持管理			29,664千円	25,356千円	23,508千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶1_学習環境や生活環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	施設の維持修繕工事、消防設備・自家用電気工作物・コンピューターの管理業務委託、プール設備・昇降機の点検管理委託、機械警備委託、害虫駆除委託等を行い、中学校施設を適切に維持管理する。
----------------	--

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

維持修繕工事 全校校舎・屋内運動場等設備改修工事 二中プール塗装部分改修工事 三中屋外バスケットゴール改修工事 四中受変電設備改修工事 多中ソフトボール用バックネット改修工事 蛇口ハンドル改修工事(全校)	施設保守点検業務委託 機械警備委託 給食用昇降機保守管理委託 浄化槽保守点検委託（三中） 自家用電気工作物保守管理委託 プールろ過機関係設備保守点検委託 消防設備保守点検委託 一般廃棄物収集運搬委託 大型廃棄物処理委託 受水槽高架水槽清掃業務委託 スズメ等駆除委託 校務システム・教育ネットワーク関係業務委託 樹木伐採・剪定業務委託
---	---

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	維持修繕工事（全校） 施設保守管理業務委託（全校）		維持修繕工事（全校） 施設保守管理業務委託（全校）	維持修繕工事（全校） 施設保守管理業務委託（全校）
	事業費	23,508	23,508	23,508
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	361	0	0
	一般財源	23,147	23,508	23,508

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	23,508 千円	令和3年度決算額	23,352 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	維持修繕工事 中学校施設維持に必須となる修繕・工事を実施した R1 修繕15件 工事14件 R2 修繕18件 工事12件 R3 修繕18件 工事14件	施設保守点検業務委託 中学校施設保守等に必須となる業務委託を実施した R1 委託26件 R2 委託22件 R3 委託23件		

【事業の評価】

【Check】 指標評価						
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	校舎等施設の維持修繕、コンピューターネットワークを始めとする各種設備の管理・点検・警備等について滞りなく行い、学校施設を適切に維持管理した。					
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各校から修繕・工事要望が多数あるが、その規模等から全てに対応できず保留とした。 ・校舎等の将来の改築と、現在行う必要のある修繕・工事の関係。 ・雨漏りの一因である、施工困難な高所の雨樋等の清掃不足。 ・雨樋詰まりの主因である、多くの超高木並びに危険木の伐採。 					
【Action】 今後の方向性・内容	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	施設等は年々劣化することから、修繕・工事件数が増加していくことが予想され、事業は拡大局面にある。しかし、施設劣化の主因である雨漏りの原因として雨樋等の清掃不足も挙げられる。今後は防水改修工事に先立ち清掃を行ったうえで、防水改修工事の可否を判断する。なお、雨樋の多くは高所にあり、直営での清掃は困難で、業者による施工が必要となる。 また、改修工事等においても、費用負担の平準化と手戻りを極力防ぐため、公共施設総合管理計画に基づき計画的に実施する方針とする。					
令和5年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎等雨樋清掃業務委託 ・各校危険樹木伐採業務委託 ・第一中学校プール周辺樹木伐採業務委託 ・第二中学校プール塗装工事 ・多々良中学校プールろ過器取替工事 					
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	※前年度比較		
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	129	重要事業	○	総合戦略		担当部署	教育総務課 施設整備係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・3・3	中学校施設整備事業			257,609 千円	54,018千円	58,014千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶1_学習環境や生活環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	良好な教育環境を確保するため老朽化した施設・設備の改修を行う。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
中学校施設整備事業【重要事業】 三中普通教室棟外壁改修工事 特別教室空調設備設置工事 四中トイレ改修工事設計業務委託 良好な教育環境を確保するため、老朽化した校舎の外壁改修、特別教室の空調設備設置、トイレ改修工事の設計を実施する。	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業スケジュール		三中普通教室棟外壁改修工事 四中トイレ改修工事設計業務委託 ※以下令和2年度繰越事業 特別教室空調設備設置工事	三中特別教室棟外壁改修工事 四中トイレ改修工事	特別教室空調設備設置工事 二中職員室等空調設備更新工事
	事業費	58,014	208,428	44,011
財源	国庫	0	27,792	13,674
	県費	0	0	0
	市債	41,200	145,650	27,400
	その他	0	0	0
	一般財源	16,814	34,986	2,937

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	70.34	目標値	73.56	75.17	76.78	78.39	80
	単位：%	実績値	70.79				
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	58,014 千円	令和3年度決算額	83,222 千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	トイレ改修設計、校舎屋根・外壁改修工事、屋内運動場大規模改修設計・工事、空調設備設置工事、GIGAスクールネットワーク構築業務委託、校内LAN改修工事 等 R1 業務委託1件 工事 7件 R2 業務委託1件 工事11件 R3 業務委託2件 工事 6件		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・ トイレ洋式化事業は、整備率が現状7割を超えていることから頭打ち傾向にあるが、今後いっそうの進捗を目指す。 ・ コロナ対策として有効な分散学習にも資する空調設備設置工事については、設置率は急ピッチで上昇している。 ・ GIGAスクール構想関連施設については遅滞なく整備した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校舎等の将来の改築と、現在行う必要のある修繕・工事の関係。 ・ 雨漏りの一因である、高所の雨樋等の清掃不足。 ・ 空調設備等新設における将来の更新費用の増大。
【Action】 今後の方向性・内容	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	公共施設総合管理計画に基づき、費用負担の平準化と手戻り防止を図るため、計画的に改修する方針とする。 改修工事に先んじて清掃等を行うことが長寿命化に非常に有効であることから、施設維持管理事業とバランスをとりながら本事業を推進する方針とする。
令和5年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第三中学校図書室空調設備更新工事 ・ 第四中学校図書室空調設備更新工事 ・ 第三中学校屋上防水改修工事
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	130	重要事業		総合戦略		担当部署	教育総務課 施設整備係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・4・1	幼稚園施設維持管理			13,953千円	13,893千円	14,282千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶1_学習環境や生活環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	施設の維持修繕工事、消防設備・昇降機の点検管理委託、機械警備委託、害虫駆除委託等を行い、幼稚園施設を適切に維持管理する。
----------------	--

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

維持修繕工事 園舎等設備改修工事、遊具改修工事 蛇口ハンドル改修工事(全園) 南幼稚園庇改修工事	施設保守点検業務委託 機械警備委託 給食用昇降機保守管理委託(東除く) 浄化槽保守点検委託(東、西) 消防設備保守点検委託 給食調理室消毒委託 遊具保守点検委託 一般廃棄物収集運搬委託 大型廃棄物処理委託 樹木伐採・剪定業務委託
--	--

【事業スケジュール】

(単位：千円)

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	維持修繕工事(全園) 施設保守管理業務委託(全園)		維持修繕工事(全園) 施設保守管理業務委託(全園)	維持修繕工事(全園) 施設保守管理業務委託(全園)
	事業費	14,282	14,282	14,282
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	14,282	14,282	14,282

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	14,282千円	令和3年度決算額	14,155千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	維持修繕工事 幼稚園施設維持に必須となる修繕・工事を実施した R1 修繕7件 工事12件 R2 修繕4件 工事 5件 R3 修繕6件 工事 7件	施設保守点検業務委託 幼稚園施設保守等に必須となる業務委託を実施した R1 委託14件 R2 委託16件 R3 委託15件		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	園舎等施設の維持修繕、各種設備の管理・点検・警備等を滞りなく行い、施設を適切に維持管理した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各園から修繕・工事要望が多数あるが、その規模等から全てに対応できず保留とした。 ・園舎等の将来の改築と、現在行う必要のある修繕・工事の関係。 ・雨漏りの一因である、施工困難な高所の雨樋等の清掃不足。 ・雨樋詰まりの主因である、多くの超高木並びに危険木の伐採。
【Action】 今後の方向性・内容	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	こども園化に伴い、今後各幼稚園舎は機能改修工事を実施するが、施設自体は年々劣化することから、修繕・工事が増加することが予想される。このことから、事業は拡大傾向にある。 しかし、施設劣化の主因である雨漏りの原因として雨樋等の清掃不足も挙げられる。今後は防水改修工事に先立ち清掃を行ったうえで、防水改修工事等の要否を判断する。なお、雨樋の多くは高所にあり、直営での清掃は困難で、業者による施工が必要となる。 また、改修工事等においても、費用負担の平準化と手戻りを極力防ぐため、公共施設総合管理計画に基づき計画的に実施する方針とする。
令和5年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎等雨樋清掃業務委託 ・各園危険樹木伐採業務委託 ・東幼稚園屋上防水改修工事
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	131	重要事業		総合戦略		担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・1・3	学校教育総務			2,605千円	6,194千円	9,530千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶1_学習環境や生活環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	学校教育運営に必要な事業（事務費等の経常的経費のほか、各種システムの運用、健診及び検査の実施、ICTの活用等）を行う。
----------------	---

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①学校教育運営（経常）	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題調査委員会の運営 いじめ対策に関し必要な助言を行う。法律や医療等の専門家5名で組織され、年3回程度実施（報酬あり）。 ・「C4th Home&School」の活用 スマートフォン等のアプリを使った情報発信ツールを導入し、学校ホームページや一斉配信メールでは実現が難しかったPDFファイルの送信、学年やクラスごとの便りの配信、行事の出欠席の集約や学校評価アンケートの配信及び集約、不審者情報や災害情報など、様々な情報を発信し、学校と家庭との連携を図っていく。
②学校教育運営	<ul style="list-style-type: none"> ・就学時健診の実施 小学校入学予定者の健康診断を行うことで、疾病の早期発見と早期治療による入学までの健康回復、知能検査結果による適切な教育の提供などを目指す。市内小学校11校で実施。 ・ICT活用支援業務委託 学校でのICT機器の効果的な活用や児童生徒の能力に応じた学びを進めるとともに、教職員の能力向上や負担軽減のためのサポートを行うためICT支援員を配置し、必要な学校へ巡回してもらう。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	①学校教育運営（経常） ・いじめ問題調査委員会の運営 ・「C4th Home&School」の活用		①学校教育運営（経常） ・いじめ問題調査委員会の運営 ・「C4th Home&School」の活用	①学校教育運営（経常） ・いじめ問題調査委員会の運営 ・「C4th Home&School」の活用
	②学校教育運営 ・就学時健診の実施 ・ICT活用支援業務委託		②学校教育運営 ・就学時健診の実施 ・ICT活用支援業務委託	②学校教育運営 ・就学時健診の実施 ・ICT活用支援業務委託
事業費		9,530	9,530	9,530
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	9,530	9,530	9,530

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度					
			R3	R4	R5	R6	R7	
総合計画 指標	学校における教育の情報化（統合型校務支援システム整備率）	100	目標値					
		単位：%	実績値					
総合計画 指標	学校における教育の情報化（教員のICT活用指導力）	82.9	目標値					
		単位：%	実績値					
活動指標	就学時健康診断の受診率	96.1	目標値	97.4	98.05	98.7	99.35	100
			単位：%	実績値	98.3			
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	9,530 千円	令和3年度決算額	12,333 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■いじめ問題調査委員会実施回数 令和元年度 2回 令和2年度 3回 令和3年度 1回 ■就学時健診の実施数 令和元年度 小学校 11校 (受診者540人/対象者562人) 令和2年度 小学校 11校 (受診者533人/対象者540人) 令和3年度 小学校 11校 (受診者530人/対象者539人) ■ICT活用支援業務委託 令和3年度 巡回校数 延べ237校 " ICT支援員数 5人			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	就学時健診では、次年度就学予定の子どもの健康状態や学習能力を把握し、適切な就学先の判断と入学後の適切な支援を進めることができた。またICT活用支援業務委託では、令和3年度からのGIGAスクール実施に伴い、円滑なICT教育の推進と教職員への適切なサポートを実施することができた。					
課題	・様々ないじめ課題に対し、教育委員会として有識者から指導助言を得るための機会の充実 ・ICT教育推進に当たり学校間での学力格差が生じないようなサポート体制の構築					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	児童生徒が安心安全に学校生活を送るための施策を行うとともに、ICTを効果的に活用した授業運営や教職員への適切なサポートを実施していく。					
令和5年度事業計画	・いじめ問題調査委員会の適宜開催 ・校務支援システム及び授業支援アプリの活用 ・就学時健診の実施 ・ICT活用支援業務委託 (令和4年度より縮小実施)					
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模	<input type="checkbox"/> 拡大	<input checked="" type="checkbox"/> 縮小	※前年度比較		
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	132	重要事業		総合戦略		担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・1・3	学校教育指導事業			2,688千円	2,249千円	2,933千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶1_学習環境や生活環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	社会の変化に主体的に対応できる心豊かでたくましい児童・生徒の育成や学校教育の課題解決を目指し、指導体制の充実を図る。
----------------	--

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①学校教育指導事業	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導助手の配置 日本語学級に在籍する外国籍の児童生徒に対し、日本語教育を充実させるための教員を臨時的に任用する（第十小学校、第三中学校に計3名配置）。 ・美術展及び書道展等の委託 <ul style="list-style-type: none"> <小中学生美術展> 小中学校長会主催で、児童生徒の造形作品を広く鑑賞する機会を設けるとともに、児童生徒の表現力や造形的な見方を伸ばし、図工美術教育の充実を図る。 <小中学生書道展> 小中学校長会主催で、児童生徒が文字を正しく整えて書く書写能力と心構えを養うため、広く作品鑑賞の機会を設けるもの。 <小中学生読書感想文編集事業> 優れた読書感想文集を作成し、国語の学習への活用や読書への興味関心を高める。 ・教職員研修会の実施 教職員の資質向上を目的に、テーマに合わせた講師を招聘し講演会を開催する（人権教育研修会と合同開催）。 テーマ：「防災教育の新たな潮流」 講師：片田敏孝（東京大学大学院特任教授・市防災アドバイザー）
-----------	---

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		①学校教育指導事業 ・日本語指導助手の配置 ・美術展及び書道展等の委託 ・教職員研修会の実施	①学校教育指導事業 ・日本語指導助手の配置 ・美術展及び書道展等の委託 ・教職員研修会の実施	①学校教育指導事業 ・日本語指導助手の配置 ・美術展及び書道展等の委託 ・教職員研修会の実施
事業費		2,933	2,933	2,933
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	2,933	2,933	2,933

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	指導主事による学校訪問の回数	目標値	145	145	145	145	145
		実績値	148				
活動指標	日本語指導を必要とする児童生徒数	目標値	39	40	40	40	40
		実績値	41				
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	2,933 千円	令和3年度決算額	3,216 千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【日本語指導助手】 令和元年度～令和3年度 第十小学校と第三小学校に各1名配置 【美術展・書道展】 令和元年度 三の丸芸術ホールで開催 令和2年度 中止（学校にて開催） 令和3年度 中止（学校にて開催） 【教職員研修会】 令和元年度 テーマ「『特別な教科 道徳』の指導方法・評価等について」 受講者数約400名 令和2年度 令和3年度 テーマ「防災教育の新たな潮流」 受講者数約400名（オンライン）		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A		
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
評価根拠	・指導主事による学校訪問を例年より多く実施し、学校での教育活動に対して指導助言を行う機会をつくることができた。 ・外国籍の児童生徒の増加に伴い、日本語指導が必要な子どもの人数も増加が見られる。 ・美術展や書道展は、新型コロナウイルスへの感染対策として2年ほど各校で開催している。 ・教職員研修（全教職員対象）では、令和3年度に市防災アドバイザーに学校での防災について講演いただき、教職員は自校においてオンラインで聴講した。		
課題	外国籍の児童・生徒が増加しており、日本語指導助手の不足が生じている。		
【Action】 今後の方向性・内容	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）		
	日本語指導に関しては、近年の外国籍児童生徒への対応が増加傾向であることから、現在の十小と三中だけでなく他校へも日本語指導助手の配置など増員を考えていく必要がある。		
令和5年度事業計画	令和4年度と同様だが日本語指導助手を増員する		
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較		
備考			

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	133	重要事業	○	総合戦略		担当部署	学校教育課 指導係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・1・3	学力向上対策事業			7,294千円	44,120千円	14,124千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶4_確かな学力と豊かな心を育む教育の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	基礎学力の向上を目指し、教育方法の改善・充実を図る。また学力診断を通じて児童生徒の学力を把握し、実践指導に活かす。
----------------	---

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①児童生徒学力向上対策事業【重要事業】

- ・学力診断の実施
学力診断を実施して児童生徒の学力を把握し、実践指導に生かす。
小学校(CRT) 3～6年(国語・算数)
小学校(CRT) 5～6年(社会・理科)
中学校(CRT) 1～2年(国語・社会・数学・理科・英語)
中学校(NRT) 1年(国語・社会・数学・理科・英語)
- 知能検査 中学1年
生徒の学習基礎能力を把握し、NRTの結果と組み合わせることで、実践指導や支援に生かす。
- ・オンライン学習「スタディサプリ」の実施
家庭学習の一助として小学3年生から中学3年生を対象にオンライン学習サービス「スタディサプリ」を実施する。
- ・要保護・準要保護児童生徒へのタブレット貸与
家庭でオンライン学習を行うにあたり、経済的な支援を必要とする要保護・準要保護世帯へタブレット端末を貸与する。

②校内・園内研修事業

- ・校内研修及び園内研修の充実を図る。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	①児童生徒学力向上対策事業【重】 ・学力診断の実施 ・オンライン学習「スタディサプリ」の実施 ・要保護・準要保護児童生徒へのタブレット貸与	①児童生徒学力向上対策事業【重】 ・学力診断の実施 ・オンライン学習「スタディサプリ」の実施 ・要保護・準要保護児童生徒へのタブレット貸与	①児童生徒学力向上対策事業【重】 ・学力診断の実施 ・オンライン学習「スタディサプリ」の実施 ・要保護・準要保護児童生徒へのタブレット貸与	①児童生徒学力向上対策事業【重】 ・学力診断の実施 ・オンライン学習「スタディサプリ」の実施 ・要保護・準要保護児童生徒へのタブレット貸与
	②校内・園内研修事業 ・校内研修及び園内研修の実施	②校内・園内研修事業 ・校内研修及び園内研修の実施	②校内・園内研修事業 ・校内研修及び園内研修の実施	②校内・園内研修事業 ・校内研修及び園内研修の実施
事業費		14,124	14,124	14,124
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	14,124	14,124	14,124

【関連する指標】

総合計画指標	指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標	標準学力テストで全国平均を上回る学校数（小学校）	11	目標値	11	11	11	11	11
		単位：校	実績値	7				
総合計画指標	標準学力テストで全国平均を上回る学校数（中学校）	3	目標値	4	4	4	5	5
		単位：校	実績値	4				
			目標値					
			単位：	実績値				

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	14,124千円	令和3年度決算額	12,718千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	<CRT>	令和元年度 小学生3～6年生 (3～4年：2教科、5～6年：4教科) 延べ7,630人 令和2年度 小学生3～6年生 (3～4年：2教科、5～6年：4教科) 延べ7,395人 中学生1～2年生 (5教科) 延べ6,011人 令和3年度 小学生3～6年生 (3～4年：2教科、5～6年：4教科) 延べ7,395人 中学生1～2年生 (5教科) 延べ6,011人	
	<NRT>	令和元年度 中学生1～3年生 (1年：4教科、2～3年：5教科) 延べ8,767人 令和2年度 中学生1年生 (4教科) 延べ2,444人 令和3年度 中学生1年生 (4教科) 延べ2,444人	
	令和元年度 提案授業公開 小学校英語 (第四小)、中学校社会 (多中) ※令和2年度 提案授業公開は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施せず。 令和3年度 提案授業公開 小学校算数 (第四小)、中学校英語 (多中) ※縮小開催		
	スタディサプリ登録率98.5% スタディサプリによる家庭学習の習慣化13.2% スタディサプリ到達度テスト (中学校数学1回実施)		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	B
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	指標については、標準学力テストで全国平均を上回る学校数が、年度目標に比べ、小学校では下回り、中学校では上回っている。小中学校ともに、結果を基に児童生徒の実態を把握し、個に応じた支援や授業改善に生かすことができている。
課題	標準学力テストの結果を分析し、新学習指導要領に則した授業改善により、児童生徒の学力向上をさらに図る必要がある。
【Action】 今後の方向性・内容	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止) ・児童生徒の学力向上と教師の授業改善を図るためには、成果と課題について数値データに基づく客観的な評価を継続していく必要がある。 ・CRTを小学校3年生以上での実施から、小学校1年生からの実施とし、低学年からの適切な指導や個に応じた支援を行い、基礎・基本の定着を図る。 ・スタディサプリについては、個別最適な学びを実現していくために、各単元の確認のために活用し、フォローアップ配信をするなど、児童生徒のつまづきに応じた学習に取り組めるようにし、基礎・基本の確実な定着を図る。 ・学校と家庭の学びをつなぎ、個別最適な学びを実現していくために、要保護・準要保護児童生徒へのタブレット貸与も継続していく必要がある。
令和5年度事業計画	①児童生徒学力向上対策事業 ・学力診断の実施 ・オンライン学習「スタディサプリ」の実施 ・要保護・準要保護児童生徒へのタブレット貸与 ②校内・園内研修事業 ・校内研修及び園内研修の実施
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	134	重要事業	○	総合戦略		担当部署	学校教育課 指導係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・1・3	英語教育推進事業			52,503千円	8,245千円	68,115千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶4_確かな学力と豊かな心を育む教育の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	児童生徒の英語力や学習意欲の向上を図るとともに、国際化社会に対応するため英語指導助手を配置し、国際理解教育を推進する。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
<p>①英語教育推進事業【重要事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館林版「英語村」の開催 ALTとの交流を豊かに体験できる機会を子ども達の身近な環境に設定し、英語でコミュニケーションを図る力を育成するために、4つの柱でプログラムを実施する。 ・英語検定料補助金 館林市内在住または市内の小中学校に在籍し、英検3級以上を受検した児童生徒の保護者を対象に、検定料の半額を助成する。 ただし、4,000円を上限とし、申請は1人につき年度内に1回とする。 <p>②小学校英語指導助手配置事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALT（直接任用）の配置 ・ALT（派遣）の配置 1校1名配置し、小学校における英語活動・英語科の全授業で日本人教師とのチームティーチングを行うとともに、教材作成や日本人教師の指導力向上を図るための研修を行う。また、館林版英語村プロジェクトにおいて活用する。 <p>③中学校英語指導助手配置事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALT（JET）の配置 1校1名配置し、英語によるコミュニケーション力を育成するとともに、国際社会で活躍できる子どもの育成のために活用する。 また、館林版英語村プロジェクトにおいて活用する。 	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		①英語教育推進事業【重】 ・館林版「英語村」の開催 ・英語検定料補助金 ②小学校英語指導助手配置事業 ・ALT（直接任用）の配置 ・ALT（派遣）の配置 ③中学校英語指導助手配置事業 ・ALT（JET）の配置	①英語教育推進事業【重】 ・館林版「英語村」の開催 ・英語検定料補助金 ②小学校英語指導助手配置事業 ・ALT（直接任用）の配置 ・ALT（派遣）の配置 ③中学校英語指導助手配置事業 ・ALT（JET）の配置	①英語教育推進事業【重】 ・館林版「英語村」の開催 ・英語検定料補助金 ②小学校英語指導助手配置事業 ・ALT（直接任用）の配置 ・ALT（派遣）の配置 ③中学校英語指導助手配置事業 ・ALT（JET）の配置
事業費		68,115	68,115	68,115
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	68,115	68,115	68,115

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	ALTの配置校数（置籍校）	10	目標値	12	13	14	15	16
		単位：校	実績値	15				
活動指標	英語検定料補助金交付者数（市内学校）	0	目標値	100	150	200	250	300
		単位：人	実績値	245				
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	68,115 千円	令和3年度決算額	63,460 千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	英語教育推進事業【令和3年度より開始】 (1) 館林版「英語村」として以下の4つの事業を行った。 ①夏休み英語イベント(小・中)別: 小学校では169名、中学校では12名の申し込みがあった。 ②授業時間以外での英語にふれる活動: 全小中学校において、掲示物の作成や活動を行っている様子が見られた。 ③オンライン英検対策: 市内中学生10名まで、英検対策として実施した。 ④All English Day: 3~5名のALTが全小中学校を訪問し、子どもたちと英語でふれあう活動を実施した。 (2) 英語検定料補助金 館林市内在住の245名の子どもたちに交付を行った。 (3) 市内全校へのALTの配置 全校配置を行うことにより、各校での英語にふれる環境整備を推進できた。また、授業における担当教員との打合せをしやすくなった。		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	多くの新規事業を行い、各事業におけるアンケートでも高評価が得られた。特に夏休み英語イベント(小・中別): 小学校では169名、中学校では12名の申し込みがあった。また授業時間以外での英語にふれる活動: 全小中学校において、掲示物の作成や活動を行っている様子が見られた。オンライン英語講座では市内中学生10名まで英検対策として実施したが、応募者が少なく定員割れとなった。					
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生に向けたイベントでは、単に「楽しい」というだけではなく「参加するとどのようなことが学べるか」ということを知らせるべきだった。 ・オンライン英検対策では、周知が不徹底であった。 					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	<ul style="list-style-type: none"> ・英語のイベントを行う際、「何を学べるか、得られるか」を明確にし、それをチラシ等に掲載する。 ・イベント周知に関しては、全生徒にチラシを配付するなど周知を徹底する。 					
令和5年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・館林版「英語村」の実施 ・英語検定料補助 ・市内全校へのALTの配置 					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	135	重要事業		総合戦略		担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・1・3	現職教育研究事業			580千円	361千円	580千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶4_確かな学力と豊かな心を育む教育の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	知・徳・体の調和の取れた、たくましく人間性豊かな児童生徒の育成を図るため、小・中学校長会へ研究事業を委託し、各領域に沿った研究実践を推進する。
----------------	---

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- ①現職教育研究事業
- ・小学校長会委託事業
教科研究事業（合同研修、理科、事務、新聞等）、体育実技研究事業の実施
 - ・中学校長会委託事業
教科等研究事業（教科研究、美術科研究、理科実験研究等）、体験学習・進路対策調査事業の実施

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		①現職教育研究事業 ・小学校長会委託事業 ・中学校長会委託事業	①現職教育研究事業 ・小学校長会委託事業 ・中学校長会委託事業	①現職教育研究事業 ・小学校長会委託事業 ・中学校長会委託事業
事業費		580	580	580
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	580	580	580

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	校長会委託事業の実施率	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	87.5				
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	580 千円	令和3年度決算額	477 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■委託の発注状況 【令和元年度】 ・小学校長会への委託 4事業（教科研究、生活科実技講習会、社会科フィールドワーク、体育実技研究） ・中学校長会への委託 6事業（教科等研究、美術科研究、理科実験研究、技術家庭研究、体験学習、進路対策調査） 【令和2年度】 ・小学校長会への委託 2事業（教科研究、体育実技研究） ・中学校長会への委託 5事業（教科研究、美術科研究、理科実験研究、体験学習、進路対策調査） ※技術家庭研究は感染防止の観点から中止 【令和3年度】 ・小学校長会への委託 2事業（教科研究、体育実技研究） ・中学校長会への委託 5事業（教科研究、美術科研究、理科実験研究、体験学習、進路対策調査） ※技術家庭研究は感染防止の観点から中止			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	B					
事業の必要性	■ 高	政策の推進において不可欠な事業である	□ 中	政策の推進に寄与している事業である	□ 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	■ 高	成果が高水準にある	□ 中	適切な成果が得られている	□ 低	成果が低水準にある
事業の効率性	□ 高	費用対効果が高水準にある	■ 中	適切な費用対効果が得られている	□ 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	新型コロナウイルス感染防止のため一部事業が中止となり、指標では現状値を若干下回ったが、ほとんどの事業では実施ができており、教職員の資質向上や授業運営等の改善などに資することができている。					
課題	例年同じ事業が実施されているが、ある程度の期間ごとに事業の見直し（新規や廃止、統合等）を行う必要がある。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）					
	授業研究会や研修会、実技講習の実施により教職員の教育的視野を広げ、指導方法の改善や充実を図ることで児童生徒へ適切な教育を行っていく必要があることから継続していく必要がある。					
令和5年度事業計画	小学校長会委託 2事業 中学校長会委託 6事業					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	136	重要事業		総合戦略		担当部署	学校教育課 指導係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・1・3	学校体育事業			875千円	0千円	875千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶2_夢と希望の実現に向けた支援の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	各小学校から選抜された児童が、走る・跳ぶ・投げる・泳ぐの各領域で自己記録の更新等を目指し、向上していくことを促進する。
----------------	---

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①学校体育事業	<ul style="list-style-type: none"> ・市水泳記録会及び市陸上記録会の開催 水泳及び陸上記録会の賞品購入、記録証の作成、大会送迎用バスの手配。 ・県水泳記録会及び県陸上記録会への派遣 代表児童用ユニフォーム作成、大会送迎用バスの手配。
---------	---

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		①学校体育事業 ・市水泳記録会及び市陸上記録会の開催 ・県水泳記録会及び県陸上記録会への派遣	①学校体育事業 ・市水泳記録会及び市陸上記録会の開催 ・県水泳記録会及び県陸上記録会への派遣	①学校体育事業 ・市水泳記録会及び市陸上記録会の開催 ・県水泳記録会及び県陸上記録会への派遣
事業費		875	875	875
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	875	875	875

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度					
			R3	R4	R5	R6	R7	
総合計画 指標	新体力テストで全国平均を上回る学校 数	男6・女5	目標値	男8・女7	男8・女8	男9・女10	男10・女10	男11・女11
		単位：校	実績値	男6・女5				
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	875 千円	令和3年度決算額	0 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	令和元年度 ・市水泳記録会開催、県水泳記録会選手派遣 ・市陸上記録会開催、県陸上記録会選手派遣 令和2年度 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市水泳記録会及び県水泳記録会中止 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市陸上記録会及び県陸上記録会中止 令和3年度 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市水泳記録会及び県水泳記録会中止 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市陸上記録会及び県陸上記録会中止			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D					
事業の 必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進におい て不可欠な事業で ある	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与 している事業であ る	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有 無について検討の余地がある
事業の 有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得ら れている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の 効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水 準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果 が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	小学校水泳記録会及び陸上記録会をととして、児童の基礎体力及び基礎技能の向上を目指し、館林市教育大綱 施策目的である、「自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身に付けた未来を担う子どもが育つまち」の実現を 目指すために、今年度と同等の規模で継続する必要があると考える。 ※令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から事業が中止となった。					
課題	・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う児童の運動機会の減少は否めない。感染症対策を講じながら、児童の 運動機会の確保並びに体力向上を目指していく必要がある。 ・感染症対策のため、輸送バス1台あたりの乗車児童数の削減とそれに伴うバスの増便を継続する必要がある。					
【Action】 今後の 方向性 ・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	新型コロナウイルス感染症対策に伴う児童の運動機会の減少及びそれに伴う基礎体力の低下の改善を図るため には、児童が意欲をもって体を動かす機会を設定することが不可欠である。本事業は、児童が自己記録の更新 を目指し、意欲的に体を動かす機会と言える。今後も、児童の体力向上を図るための機会として、本事業の継 続は意義深いと考える。					
令和5年 度事業計 画	令和4年度と同様					
予算規模 見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	※前年度比較		
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	137	重要事業		総合戦略		担当部署	学校教育課 指導係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・1・3	人権教育推進事業			113千円	13千円	118千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶4_確かな学力と豊かな心を育む教育の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	各教科・道徳・学級活動等の全教育活動を通じた人権教育の推進及び人権に視点を当てた年間指導計画の改善と充実を図る。
----------------	--

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- ①学校人権教育の推進事業
- ・人権教育研修会の開催
群馬県が掲げる人権教育に関わる重要課題について教職員の見識を高めるとともに、児童生徒への指導力向上を図る。
 - ＜対象＞市立幼稚園、小中学校教職員、社会教育委員、人権擁護委員 等
 - ＜講師等＞
 - ・演題「海外にルーツを持つ子どもたちの現状と人権課題」
 - ・講師 特定非営利活動法人 青少年自立援助センター 田中 宝紀 氏
 - ・人権週間ポスター等コンクールの開催
幼児児童生徒の人権への理解と意識の向上を図るため、人権教育に関する内容の作文、標語、ポスター（図画）の募集を行う。
 - ＜募集点数＞
 - ・中学校（各校） 作文・標語・ポスター 各3点
 - ・小学校（各校） 作文・標語・ポスター（低学年は図画） 各3点
 - ・幼稚園（各園） 図画 3点
- ※作品は市役所市民ホールに展示。応募者には参加賞を贈呈。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		①学校人権教育の推進事業 ・人権教育研修会の開催 ・人権週間ポスター等コンクールの開催	①学校人権教育の推進事業 ・人権教育研修会の開催 ・人権週間ポスター等コンクールの開催	①学校人権教育の推進事業 ・人権教育研修会の開催 ・人権週間ポスター等コンクールの開催
事業費		118	118	118
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	118	118	118

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	人権教育研修の参加率	目標値	100	100	100	100	100
		実績値	100				
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	118 千円	令和3年度決算額	89 千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	○学校人権教育推進委員会 年2回 ○人権擁護作品展の賞状・応募賞品の配付 ○教職員人権全体研修会の開催 ・令和元年度【⑦ HIV感染者等の人たち】 「子どもたちのいのち・こころ・からだを守る思春期の教育」 講師：東京医療保健大学 医療保健学部 看護学科 教授 渡會 睦子 様 ・令和2年度【⑥ 外国籍の人たち】 「海外にルーツを持つ子どもたちの現状と人権課題～立ちはだかる言葉、制度、心の壁とは～」 講師：特定非営利活動法人 青少年自立援助センター 定住外国人支援事業部 田中 宝紀 様 →令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 ・令和3年度【⑥ 外国籍の人たち】 「海外にルーツを持つ子どもたちの現状と人権課題～立ちはだかる言葉、制度、心の壁とは～」 講師：特定非営利活動法人 青少年自立援助センター 定住外国人支援事業部 田中 宝紀 様		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A		
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
評価根拠	学校人権教育推進委員会や教職員人権全体研修会の開催をとおして、11項目の重要課題についての教職員の見識を高めるとともに、幼児児童生徒への指導力向上を図った。		
課題	様々な人権課題に対する教職員の見識の高め方や、幼児児童生徒への指導力向上を図る方策。		
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)		
	継続して教職員の人権意識を高め、人権教育に関わる資質能力の育成を図り、指導力向上を目指していく必要がある。		
令和5年度事業計画	令和4年度と同様		
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小	※前年度比較	
備考			

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	138	重要事業		総合戦略		担当部署	学校教育課 指導係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・1・3	特別支援教育指導事業			571千円	395千円	571千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶5_「自助」や「共助」の意識を育む教育の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	児童生徒にとって望ましい学びの場を判断し、特別支援教育活動を推進するため、市教育支援委員会活動を実施する。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
<p>①特別支援教育活動の推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育支援委員会の開催 小中学校在籍児童生徒の就学や支援に関わる判断を行う。年2回程度実施。委員数：20名（特別支援学級設置校長、養護教諭、家庭児童相談員、医師等で構成） ・特別支援教育啓発紙の作成 特別支援教育の啓発を図るため、館林市特別支援教育推進委員会啓発部において啓発紙「ちから」を作成し毎戸配布を行う。 	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		①特別支援教育活動の推進事業 ・教育支援委員会の開催 ・特別支援教育啓発紙の作成	①特別支援教育活動の推進事業 ・教育支援委員会の開催 ・特別支援教育啓発紙の作成	①特別支援教育活動の推進事業 ・教育支援委員会の開催 ・特別支援教育啓発紙の作成
	事業費	571	571	571
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	571	571	571

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	特別支援教育及び教育支援等会議の実施数	10	目標値	10	10	10	10	10
			単位：回	実績値	9			
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	571 千円	令和3年度決算額	436 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	令和元年度 教育支援委員会3回、教育支援小委員会2回 開催 令和2年度 教育支援委員会2回、教育支援小委員会1回 開催 →令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、回数を減らして開催 令和3年度 教育支援委員会3回、教育支援小委員会2回 開催 →令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、規模を縮小して開催 令和元～令和3年度 特別支援教育啓発紙「ちから」の発行（毎戸配布）			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	B					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	個別の教育支援計画、指導計画の整備と活用を推進し、一人一人の教育的ニーズに応じた相談、支援をした。ただし令和3年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から規模を縮小した。					
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教育支援を必要とする幼児・児童・生徒が増加している。 ・障害や特性の多様化に伴い、他課との連携が必要である。 ・課題に対応するため、新しい検査用紙等（WISC-4やS-M社会生活能力検査第三版等）や手引書を購入していく必要がある。 					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）					
	教育的ニーズや幼児児童生徒の実態に応じた多様な学びの場の柔軟な検討を行うため、継続した取組が必要である。					
令和5年度事業計画	令和4年度と同じ					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	※前年度比較		
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	139	重要事業		総合戦略		担当部署	学校教育課 指導係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・1・3	生き方教育推進事業			48千円	9千円	48千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶2_夢と希望の実現に向けた支援の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	人間としての生き方の自覚を深める進路指導のあり方について研究・実践を行う。
----------------	---------------------------------------

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- ①生き方教育推進事業
- ・生き方教育講演会の開催（各中学校）
 - ・進路指針表（夢カード）の作成（小学1年生に配布）

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		①生き方教育推進事業 ・生き方教育講演会の開催（各中学校） ・進路指針表（夢カード）の作成（小学1年生に配布）	①生き方教育推進事業 ・生き方教育講演会の開催（各中学校） ・進路指針表（夢カード）の作成（小学1年生に配布）	①生き方教育推進事業 ・生き方教育講演会の開催（各中学校） ・進路指針表（夢カード）の作成（小学1年生に配布）
事業費		48	48	48
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	48	48	48

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度					
			R3	R4	R5	R6	R7	
活動指標	学校評価 進路・生き方に関する評価 項目の評価 A段階	7	目標値	10	12	13	15	16
		単位：校	実績値	10				
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	48千円	令和3年度決算額	19千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【進路指針表（夢カード）の作成】 令和元年度 小学1年生570名 令和2年度 小学1年生520名 令和3年度 小学1年生497名 【進路案内の作成】 令和元年度 中学3年生673名 令和2年度 中学3年生635名 令和3年度 中学3年生662名		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	学校評価アンケートの結果より、多くの児童生徒に対し、社会的・職業的自立に向け、基盤となる必要な能力や態度を育てる教育を推進することができている。
課題	夢カードは市内全校で使用されているが、年度当初と年度末の使用にとどまっている学校もあり、使用方法に課題が見られる。 生き方教育講演会、職場体験学習は、コロナ禍のこともあり、昨年度は実施できていない。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）
	キャリア教育担当者会議を通じ、「夢カード」の活用方法と意義を伝えていく。 職場体験学習は、令和4年度は実施予定である。各学校に情報提供を行っていく。
令和5年度事業計画	①進路指針表（夢カード）の作成 今後、県から一人1台端末を活用した進路指針表の作成が示されれば、現行の紙媒体からデジタルに移行することも視野に入れていく ②キャリア教育担当者会議を年2回開催 ③職場体験学習の充実のための館林商工会議所や各種事業所との連携
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	140	重要事業		総合戦略		担当部署	学校教育課 指導係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・1・3	自然学習教室事業			1,682千円	554千円	1,384千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶4_確かな学力と豊かな心を育む教育の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	各種自然学習教室を実施し、貴重な自然の大切さや保護の意識を育むとともに、環境問題等への関心を高める。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
<p>①自然学習教室事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足尾フィールドワークの実施 社会科副読本「のびゆく館林」で学習する足尾鉛毒事件関連施設等を見学し、自然の大切さや環境問題を学ぶ。 8月中実施。対象：市内小学5・6年生30名程度（公募） ・尾瀬ネイチャーラーニング事業の実施 尾瀬の自然環境や観光資源の魅力を生かした学びと体験によるSTEAM教育を実践することを目的として、ガイドを伴った体験活動を行う。ガイド料とバス借上げ料を補助対象として、「ぐんま5つのゼロ宣言」を行っている本市では補助率2/3。 ※令和3年度：2校実施予定 	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		①自然学習教室事業 ・足尾フィールドワークの実施 ・尾瀬ネイチャーラーニング事業の実施	①自然学習教室事業 ・足尾フィールドワークの実施 ・尾瀬ネイチャーラーニング事業の実施	①自然学習教室事業 ・足尾フィールドワークの実施 ・尾瀬ネイチャーラーニング事業の実施
事業費		1,384	1,384	1,384
財源	国庫	0	0	0
	県費	1,316	1,316	1,316
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	68	68	68

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
活動指標 尾瀬ネイチャーラーニング（尾瀬学校）の参加学校数	2	目標値	2	2	2	2	2
	単位：校	実績値	1				
活動指標 足尾フィールドワークの参加者数	36	目標値	37	38	39	39	40
	単位：人	実績値	0				
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	1,384 千円	令和3年度決算額	528 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	令和元年度 尾瀬学校 (2校)、昆虫の森 (9校)、足尾フィールドワーク (児童参加者24名) 令和2年度 尾瀬学校 (2校) 足尾フィールドワーク→新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 令和3年度 尾瀬ネイチャーラーニング (1校) 足尾フィールドワーク→新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D					
事業の必要性	<input type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input checked="" type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	足尾フィールドワークについては、令和2年度以降新型コロナウイルス感染防止の観点から事業中止となっている。また、この足尾フィールドワークは同様の事業が他課でも実施されているので、事業の整理が必要と思われる。 尾瀬ネイチャーラーニングについては毎年2校が実施しており、今後も継続していく予定である。					
課題	足尾フィールドワークについては、児童の実態や健康・安全面を考慮し、改善を図る必要がある。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	足尾フィールドワークに関しては、同様の事業が他課で実施されていることを踏まえ検討する。 尾瀬ネイチャーラーニングについては継続実施。					
令和5年度事業計画	尾瀬ネイチャーラーニング (希望校)					
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	141	重要事業		総合戦略		担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・1・3	看護師設置事業			5,099千円	4,907千円	5,376千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶1_学習環境や生活環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	小中学校において、障害等により医療行為を要する児童生徒が、安全安心に学校生活を送るため、日常生活の介助や教育活動上の支援を行う看護師を臨時的に配置する。
----------------	--

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①看護師設置事業 ・看護師の配置	小学校において、障害等により医療行為を必要とする児童が安全安心な学校生活を送れるよう、教育活動上の支援を行う看護師を配置する（小学校2名予定）。
---------------------	--

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	①看護師設置事業 ・看護師の配置		①看護師設置事業 ・看護師の配置	①看護師設置事業 ・看護師の配置
事業費		5,376	5,376	5,376
財源	国庫	2,688	2,688	2,688
	県費	1,344	1,344	1,344
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	1,344	1,344	1,344

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	医療的ケアの看護師の充足率	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	100				
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	5,376 千円	令和3年度決算額	2,647 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■看護師の配置数 令和元年度 小学校1校1人、中学校1校1人 令和2年度 小学校1校1人 令和3年度 小学校1校1人 ※医療的ケアを必要とする児童が年度途中で転入したが、自宅療養が続いており配置はなかった。			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	配置数は少ないが、医療的ケアの必要な児童生徒が安心して学校生活を送るために不可欠な事業である。これまでも必要な児童生徒に配置され、安全安心な学校生活に資することができた。					
課題	必要なタイミングで看護師資格を有する人材の確保ができるか不透明である。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	引き続き、学校生活を送るにあたり医療的ケアを必要とする児童生徒に看護師の配置を行っていく。					
令和5年度事業計画	小学校2校に各1名配置予定					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	142	重要事業	○	総合戦略		担当部署	学校教育課 指導係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・1・3	学校運営協議会事業			2,092千円	1,801千円	3,571千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶3_地域の教育力を生かした学校運営

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	地域の教育力を学校運営に活かしていくため、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入し、学校が地域住民や保護者と教育目標を共有し、組織的・継続的な連携を図れるようにする。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
①学校運営協議会事業【重要事業】	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の設置 令和4年度、小中全学校のコミュニティ・スクール化に向け、令和2年度までにコミュニティ・スクールとなっている第四小学校、第十小学校、第九小学校に加え、令和3年度は第五小学校、第七小学校に学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を設置する。 ・CSディレクターの配置 学校運営協議会の運営や関係者との連絡調整を円滑に進めるため、CSディレクターを3名配置する。 	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		①学校運営協議会事業 ・学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を新たに2校設置（計5校） ・CSディレクターの配置	①学校運営協議会事業 ・学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を小中全学校（16校）に設置。 ・CSディレクターの配置	①学校運営協議会事業 ・学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を小中全学校（16校）に設置。 ・CSディレクターの配置
事業費		3,571	3,571	3,571
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	3,571	3,571	3,571

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度					
			R3	R4	R5	R6	R7	
総合計画 指標	小中学生の豊かな心の育成の達成度	5	目標値	9	10	12	14	16
		単位：校	実績値	6				
活動指標	各校での学校運営協議会の実施（年間）	4	目標値	4	4	4	4	4
		単位：回	実績値	4				
			目標値					
			実績値					
			目標値					
			実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	3,571 千円	令和3年度決算額	2,824 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	令和元年度 第四小学校に加え、新たに第十小学校に学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を設置し、コミュニティ・スクールを2校とした。各校に1名ずつ、計2名のCSディレクターを配置した。 令和2年度 第四小学校、第十小学校に加え、新たに第九小学校に学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を設置し、コミュニティ・スクールを3校とした。第四小に1名、第九小・第十小兼任で1名、計2名のCSディレクターを配置した。 令和3年度 第四小学校、第十小学校、第九小学校に加え、新たに第五小学校、第七小学校に学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を設置し、コミュニティ・スクールを5校とした。第四小・第五小兼任で1名、第九小・第十小兼任で1名、第七小学校に1名、計3名のCSディレクターを配置した。			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	C
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	市内5校に段階的に学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）を導入し、各校で年4回の学校運営協議会を実施することができた。学校運営協議会での熟議や「コミュニティ・スクールだより」、「学校通信」等で取組を発信することを通して、地域住民や保護者と教育目標を共有し、連携を図ることができた。ただし、「豊かな心の育成」に向け、地域の教育力を活用し、あいさつの励行や温かな人間関係づくり等において課題が見られる。
課題	地域住民や保護者と協働し、地域の教育力を生かした魅力ある学校づくりを推進することを通して、あいさつの励行や温かな人間関係づくり、自己有用感の向上など、「豊かな心の育成」に取り組む必要がある。コミュニティ・スクールの推進に寄与するCSディレクターを、より多く配置できるようにする。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）
	令和4年度より、市内小中全16校に学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）を導入しする。各校で熟議を行い、地域住民や保護者と教育目標を共有し、目指す児童生徒像の達成に向け、組織的・継続的な連携を図れるようにする。
令和5年度事業計画	市内小中全16校において、学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）を継続する。コミュニティ・スクールの推進に寄与するCSディレクターについて、適した人材を発掘し、現状より多くのCSディレクターを雇用・配置する。
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	143	重要事業		総合戦略		担当部署	学校教育課 教育研究所
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・1・4	研究所運営			8,867千円	8,516千円	9,314千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶4_確かな学力と豊かな心を育む教育の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	教育研究所の運営に必要な相談、教職員研修、班別研究といった事業を行う。
----------------	-------------------------------------

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- ①研究所運営事業
- ・相談員、事務員の雇用
研究所運営に必要な相談員・事務員、一般（相談員3人、事務員1人）4人、短時間（相談員）1人の雇用
 - ・教育研究事業
班別研究や教職員の研修（教育相談初級研修講座・特別支援教育研修講座）を行う。
 - ・教育相談事業
子ども相談室や適応指導教室「ふれあい学級」の運営を行う。
群馬県教育研究所連盟、群馬県市町村適応指導教室連絡協議会に加盟する。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
事業 スケジュール	①研究所運営事業 ・相談員・事務員の雇用 ・教育研究事業 ・教育相談事業		①研究所運営事業 ・相談員・事務員の雇用 ・教育研究事業 ・教育相談事業	①研究所運営事業 ・相談員・事務員の雇用 ・教育研究事業 ・教育相談事業	
	事業費	9,314	9,314	9,314	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
その他		0	0	0	
	一般財源	9,314	9,314	9,314	

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	研修における教職員等の満足度（4段階：-2～+2）	1.9	目標値	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9
		単位：	実績値	1.9				
活動指標	相談事業における相談件数	476	目標値	484	488	492	496	500
		単位：件	実績値	447				
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	9,314 千円	令和3年度決算額	8,888 千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	令和元年度	嘱託職員4名(相談員3名、事務員1名)、臨時職員(相談員1名) (子ども相談室)電話相談101件 来所相談179件 訪問相談189件 適応指導教室 在籍児童生徒7名	
	令和2年度 1名	月給制会計年度任用職員4名(相談員3名、事務員1名)、時給制会計年度任用職員(相談員) (子ども相談室)電話相談143件 来所相談248件 訪問相談71件 適応指導教室 在籍児童生徒11名	
	令和3年度 1名	月給制会計年度任用職員4名(相談員3名、事務員1名)、時給制会計年度任用職員(相談員) (子ども相談室)電話相談54件 来所相談243件 訪問相談143件 適応指導教室 在籍児童生徒9名	

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D
事業の 必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の 有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の 効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	<p>相談事業の1つである、来所相談における相談件数は、昨年度と同様、多くの件数であった。他に訪問相談では、学校が抱えている教育相談に関する問題に相談員を派遣し、昨年度より多くの対応件数であった。また、適応指導教室においては、9名の児童生徒が在籍し、登所児童生徒の意思に合わせつつ、社会的自立に向けて、個に応じた支援を行うことができた。</p>
課題	<p>不登校等に悩む児童生徒やその保護者が増加する中で、個に応じたきめ細かな支援や多様なニーズにこたえることが必要となっている。児童生徒の社会的自立や学校復帰等、児童生徒の意思を丁寧に確認しつつ、どのような支援ができるのか、また、他関係機関との連携した支援も必要である。不登校対策等、研究所から学校に発信していくことも必要である。</p>
【Action】 今後の 方向性 ・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	<p>教育相談事業の充実のため、学校ごとの課題を把握し、学校と連携して、適切な支援ができるようにしていく。 教育研究事業では、職員のニーズを把握し、必要感に応じた内容を企画していく。</p>
令和5年 度事業計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・会計年度任用職員の任用し、効果的な教育相談事業の実施 ・教職員対象の研修講座の実施 ・還元性のある班別研究の実施
予算規模 見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	144	重要事業		総合戦略		担当部署	学校教育課 教育研究所
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・1・4	教育相談事業			271千円	474千円	645千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶4_確かな学力と豊かな心を育む教育の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	子どもの不登校や心の問題に関し、適応指導教室やコンサルテーション、オンラインフリースクール委託事業を行う。
----------------	---

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①教育相談事業（継続的適応指導）

- ・教育相談
適応指導教室「ふれあい学級」や子ども相談室の運営
学校教育相談（コンサルテーション） 不登校問題に関心がある保護者の集い「明日へのいっぽ」
- ・オンラインフリースクール委託事業
オンラインフリースクール「風のがっこう」、保護者相談事業スピーカ

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		①教育相談事業（継続的適応指導） ・教育相談 ・オンラインフリースクール委託事業	①教育相談事業（継続的適応指導） ・教育相談 ・オンラインフリースクール委託事業	①教育相談事業（継続的適応指導） ・教育相談 ・オンラインフリースクール委託事業
事業費		645	645	645
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	645	645	645

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度					
			R3	R4	R5	R6	R7	
活動指標	適応指導や相談事業における保護者アンケートの満足度（4段階：-2～+2）	1.75	目標値	1.77	1.77	1.78	1.79	1.8
		単位：	実績値	1.67				
活動指標	不登校問題に関心がある保護者の集い「明日へのいっぽ」の実施回数	3	目標値	3	3	3	3	3
		単位：回	実績値	2				
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	645 千円	令和3年度決算額	503 千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	令和元年度	適応指導教室 在籍児童生徒7名 (子ども相談室) 電話相談101件 来所相談179件 訪問相談189件 学校教育相談(コンサルテーション) 小学校65件 中学校109件 不登校問題に関心がある保護者の集い 3回実施 26名参加	
	令和2年度	適応指導教室 在籍児童生徒11名 (子ども相談室) 電話相談143件 来所相談248件 訪問相談71件 学校教育相談(コンサルテーション) 小学校69件 中学校61件 不登校問題に関心がある保護者の集い 3回実施 15名参加	
	令和3年度	適応指導教室 在籍児童生徒9名 (子ども相談室) 電話相談54件 来所相談243件 訪問相談143件 学校教育相談(コンサルテーション) 小学校180件 中学校100件 不登校問題に関心がある保護者の集い 2回実施 10名参加	

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	訪問相談やコンサルテーションの件数は増加している。そのため、教育相談事業においては、必要不可欠となっている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き学校と連携し、教育相談を行っていく。 ・不登校問題に関心がある保護者の集い「明日へのいっぽ」を活性化していく。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	それぞれのニーズに応じた教育相談等を継続して実施していく。
令和5年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談 適応指導教室「ふれあい学級」や子ども相談室の運営 学校教育相談(コンサルテーション) 不登校問題に関心がある保護者の集い「明日へのいっぽ」 ・オンラインフリースクール委託事業
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	145	重要事業	総合戦略	担当部署	学校教育課 教育研究所	
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)
10・1・4	「心の教室相談員」配置事業			4,750千円	4,630千円	4,748千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶4_確かな学力と豊かな心を育む教育の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	中学生が抱える悩み等を気軽に話せる「心の教室相談員」を中学校に配置し、その活用と効果に関する調査研究を行う。
----------------	--

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- ①「心の教室相談員」配置事業
- ・中学校全校配置による学校相談室の機能の充実
心の教室相談員：原則として月～金曜日の勤務（一日5時間、年間200日）
生徒指導担当嘱託員（県費）の配置校以外の学校に配置する。
 - ・相談室訪問による機能の充実
研究所指導主事が市内中学校相談室を定期的に訪問し、実態把握をもとに、課題について指導助言していく。
 - ・学校相談員連絡協議会（年5回）
各中学校の学校相談員（生徒指導担当嘱託員・心の教室相談員）と研究所相談員が定期的に研修を行い、事例検討や情報交換、資質向上の講義を行う場として設営。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		①「心の教室相談員」配置事業 ・中学校全校配置による学校相談室の機能の充実 ・相談室訪問による機能の充実 ・学校相談員連絡協議会（年間5回）	①「心の教室相談員」配置事業 ・中学校全校配置による学校相談室の機能の充実 ・相談室訪問による機能の充実 ・学校相談員連絡協議会（年間5回）	①「心の教室相談員」配置事業 ・中学校全校配置による学校相談室の機能の充実 ・相談室訪問による機能の充実 ・学校相談員連絡協議会（年間5回）
事業費		4,748	4,748	4,748
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	4,748	4,748	4,748

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	連絡会議等の実施回数	目標値	5	5	5	5	5
		実績値	3				
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	4,748 千円	令和3年度決算額	4,577 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	・心の教室相談員の中学校配置 (※生徒指導担当嘱託員配置校は除く) ・学校相談員連絡協議会の実施 (3回) ・中学校相談室訪問 (1・2学期各1回実施)			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	C					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	相談室における相談件数は多く、教育相談主任と連携した支援を行っていく。					
課題	相談室利用の生徒に対し、引き続き組織的な支援が求められる。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	相談室利用の生徒に対しての支援を継続していく。					
令和5年度事業計画	各中学校に心の教室相談員を配置する。					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	146	重要事業		総合戦略		担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・2・1	小学校運営			7,260千円	31,579千円	7,119千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶1_学習環境や生活環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	小学校の運営を円滑に行うため、病休補助教員の配置や学校評議員の委嘱、新入学児童への祝い品及び卒業記念品購入、災害共済給付等の事業を行う。
----------------	--

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- ①【細事業名】小学校運営
- ・病休補助教員の配置
小学校の教員が病気やけがで長期の療養が必要となった場合に、補助教員を臨時的に任用する。
 - ・卒業記念品の購入
6年生（卒業生）への卒業祝品として英語辞書を購入する。
 - ・日本スポーツ振興センター負担金
学校での事故等に対し医療費や見舞金等の災害共済給付を行うための掛金。歳入に保護者負担金あり。全児童加入。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
事業 スケジュール	①【細事業名】小学校運営 ・病休補助教員の配置 ・卒業記念品の購入 ・日本スポーツ振興センター負担金	①【細事業名】小学校運営 ・病休補助教員の配置 ・卒業記念品の購入 ・日本スポーツ振興センター負担金	①【細事業名】小学校運営 ・病休補助教員の配置 ・卒業記念品の購入 ・日本スポーツ振興センター負担金	①【細事業名】小学校運営 ・病休補助教員の配置 ・卒業記念品の購入 ・日本スポーツ振興センター負担金	
	事業費	7,119	7,119	7,119	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
その他		1,271	1,271	1,271	
	一般財源	5,848	5,848	5,848	

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度					
			R3	R4	R5	R6	R7	
活動指標	校長会議の開催数	12	目標値	11	11	11	11	11
		単位：回	実績値	11				
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	7,119 千円	令和3年度決算額	18,643 千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■ 病休補助教員配置数 【令和元年度】 1人 【令和2年度】 2人 【令和3年度】 0人 ■ 卒業記念品購入数（卒業生数） 【令和元年度】 654個 【令和2年度】 662個 【令和3年度】 619個 ■ 日本スポーツ振興センター加入状況 【令和元年度】 3,795人（一般3,574人、準要保護195人、要保護9人、途中加入17人） 【令和2年度】 3,679人（一般3,663人、要保護9人、途中加入7人） 【令和3年度】 3,573人（一般3,551人、要保護8人、途中加入14人） ■ 新型コロナウイルス感染症対策事業（小学校） 【令和元年度】 なし 【令和2年度】 第一小学校～美園小学校 11校 【令和3年度】 第一小学校～美園小学校 11校		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	■ 高	政策の推進において不可欠な事業である	□ 中	政策の推進に寄与している事業である	□ 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	■ 高	成果が高水準にある	□ 中	適切な成果が得られている	□ 低	成果が低水準にある
事業の効率性	□ 高	費用対効果が高水準にある	■ 中	適切な費用対効果が得られている	□ 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	校長会議を月1回程度開催することで、学校教育課と学校との連携や情報共有、学校への各種依頼などを円滑に行うことができた。また本事業は小学校の運営に対する経常的な経費であり必要不可欠なものとなっている。					
課題	・ 会計年度任用職員（病休補助教員）の任用は緊急で必要となった場合に生じるため、予算執行の有無や支出額の算定が難しい。 ・ 学校における感染症対策事業にあたる学校配当予算の執行は各校で行っており、その事務の不慣れな学校職員による執行誤りが多い。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）					
	小学校における経常的な経費のため、本事業は継続的に実施していく必要がある。 新型コロナウイルス感染症対策経費（学校配当予算）は、今後の感染状況を見据えたうえで予算化していく。					
令和5年度事業計画	・ 会計年度任用職員（病休補助教員）の必要に応じた任用 ・ 入学・卒業記念品の購入 ・ 日本スポーツ振興センター負担金等事務 ・ 新型コロナウイルス感染症対策（学校配当予算） ※必要に応じて					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	147	重要事業		総合戦略		担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・2・1	児童・教職員健康管理対策事業			5,441千円	5,014千円	5,458千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶2_夢と希望の実現に向けた支援の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	児童及び教職員の健康管理のため、各種検査・健診等を委託実施する。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
①児童及び教職員健康管理対策事業 ・児童の健康事業 尿検査（全員）、心臓疾患X線検査（1年）、心臓検診（1・4年）、結核精密検査（該当者） ・教職員の健康事業 定期健康診断（人間ドック未受診者）、胃がん検診（35歳以上の希望者）、HBワクチン（劇症肝炎）接種、ストレスチェック（全員）	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		①児童及び教職員健康管理対策事業 ・児童の健康事業 ・教職員の健康事業	①児童及び教職員健康管理対策事業 ・児童の健康事業 ・教職員の健康事業	①児童及び教職員健康管理対策事業 ・児童の健康事業 ・教職員の健康事業
	事業費	5,458	5,458	5,458
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	5,458	5,458	5,458

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	児童への健康事業の充足率	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	100				
活動指標	教職員への健康事業の充足率	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	100				
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	5,458千円	令和3年度決算額	4,866千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	<児童> ・令和元年度：尿検査（全学年）3,776人、心臓検診（1・4年）1,206人、胸部エックス線撮影（1年）522人、結核精密検査（該当者）3人 ・令和2年度：尿検査（全学年）3,666人、心臓検診（1・4年）1,191人、胸部エックス線撮影（1年）475人、結核精密検査（該当者）14人 ・令和3年度：尿検査（全学年）3,544人、心臓検診（1・4年）1,111人、胸部エックス線撮影（1年）476人、結核精密検査（該当者）7人 <教職員> ・令和元年度：定期健診（人間ドック受診者以外）95人、胃がん検診（希望者）6人、B型肝炎ワクチン（養護教諭の希望者）2人、ストレスチェック（全員）251人 ・令和2年度：定期健診（人間ドック受診者以外）97人、胃がん検診（希望者）11人、B型肝炎ワクチン（養護教諭の希望者）3人、ストレスチェック（全員）252人 ・令和3年度：定期健診（人間ドック受診者以外）91人、胃がん検診（希望者）7人、B型肝炎ワクチン（養護教諭の希望者）1人、ストレスチェック（全員）253人			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	児童が健康に学校生活を送るため、また教職員が健康に勤務できるよう、児童・教職員自身の健康状態を把握・維持するために必要な事業である。					
課題	・限られた日程・期間の中で各種検査日や会場を調整すること ・外国籍、特に日本語での会話が難しい児童全員に受診させること					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）					
	児童及び教職員の健康管理のため、必要となる検査等を継続して実施していく。					
令和5年度事業計画	令和4年度と同様					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	※前年度比較		
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	148	重要事業	○	総合戦略		担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・2・1	教諭補助員設置事業			8,501千円	7,336千円	9,177千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶4_確かな学力と豊かな心を育む教育の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	きめ細やかな学習指導や生活指導を行い、児童一人一人が確かな学力を身に付け、心身ともに健やかな学校生活を送れるようにする。
----------------	--

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- ①教諭補助員設置事業
 ・小学校への教諭補助員の配置
 教諭補助員 3名（第四小学校ほか2校）

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		①教諭補助員設置事業 ・小学校への教諭補助員の配置	①教諭補助員設置事業 ・小学校への教諭補助員の配置	①教諭補助員設置事業 ・小学校への教諭補助員の配置
事業費		9,177	9,177	9,177
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	9,177	9,177	9,177

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度					
			R3	R4	R5	R6	R7	
総合計画 指標	標準学力テストで全国平均を上回る学 校数	11	目標値	11	11	11	11	11
		単位：校	実績値	7				
活動指標	教諭補助員の充足率（人数）	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	100				
			目標値					
			実績値					
			目標値					
			実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	9,177 千円	令和3年度決算額	5,356 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【配置数】 令和元年度 延べ5名配置 令和2年度 3名配置 令和3年度 3名配置			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	B					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	県費負担の教員だけでは賅いきれない部分を補うため配置するものであり、適切な学校運営と子どもたちの学習の保障の観点から必要である。					
課題	必要に応じて求人を行うも応募者が少ない、あるいは全くいないといったことが多く見られる。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	県費負担の教員をサポートし、子どもたちの学習の保障や学力の向上を推進していくため現在の配置数の確保は必要不可欠である。					
令和5年度事業計画	令和4年度と同様					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	149	重要事業	○	総合戦略		担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・2・1	特別支援教育介助員設置事業			44,781千円	41,031千円	47,343千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶1_学習環境や生活環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	小学校において障がい等により配慮を要する児童が、安全安心な学校生活を送れるよう、日常生活の介助や教育活動上の支援を行うため臨時的に配置する。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
①特別支援教育介助員設置事業 ・小学校への特別支援教育介助員の配置 特別支援教育介助員 24名（第一小学校ほか8校）	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
事業 スケジュール	①特別支援教育介助員設置事業 ・小学校への特別支援教育介助員の配置		①特別支援教育介助員設置事業 ・小学校への特別支援教育介助員の配置	①特別支援教育介助員設置事業 ・小学校への特別支援教育介助員の配置	
	事業費	47,343	47,343	47,343	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
その他		0	0	0	
	一般財源	47,343	47,343	47,343	

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画 指標	2	目標値	3	4	4	5	5
	単位：校	実績値	3				
活動指標	100	目標値	100	100	100	100	100
	単位：%	実績値	100				
		目標値					
		単位：	実績値				
		目標値					
		単位：	実績値				

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	47,343 千円	令和3年度決算額	46,735 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【介助員配置数】 令和元年度 22名 令和2年度 24名 令和3年度 24名			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	各校で支援を必要とする児童に配置することで、安心安全な学校生活を確保することができている。					
課題	心身に様々なハンデを有する児童は多く、現状の配置数でも不足している。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	各校から出される介助員の配置依頼が現在の配置数の2倍程度あり、学校だけでなく保護者にも学校生活において安心感を得られるよう事業の拡大(増員)が必要。					
令和5年度事業計画	令和4年度より増員					
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	150	重要事業		総合戦略		担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・2・1	ICT学習指導員設置事業			0千円	0千円	4,816千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶1_学習環境や生活環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	学校での1人1台端末をはじめとするICTを活用した授業を円滑に進めるため必要な人員を配置する。
----------------	---

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- 各校1名のICT学習指導員の配置
 ・県DXスタッフ未配置校へICT学習指導員を配置し、授業等で学習支援を行う。
 小学校7校

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		○ICT学習指導員の配置 県DXスタッフ未配置校7校に配置 ※令和3年度補正予算	○ICT学習指導員の配置 11校に配置	○ICT学習指導員の配置 11校に配置
	事業費	4,816	4,816	4,816
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	4,816	4,816	4,816

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度					
			R3	R4	R5	R6	R7	
総合計画 指標	学校における教育の情報化（教員のICT活用指導力）	82.9	目標値					
		単位：%	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	4,816 千円	令和3年度決算額	3,583 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	・ ICT学習指導員配置校 (7/7校)			

【事業の評価】

【Check】 指標評価						
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	GIGAスクール構想の前倒し実施に伴い、円滑なICT教育の推進と教職員への適切なサポートを実施することができた。					
課題	指導員によってICT活用力に差があるため、指導員向け研修会を実施するなど、スキル向上を図る必要がある。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	ICTを効果的に活用した授業運営や教職員への適切なサポート、児童への操作支援を実施していく。					
令和5年度事業計画	県費ICT学習支援員未配置校への配置					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	151	重要事業		総合戦略		担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・2・2	教育振興事業			25,850千円	24,509千円	1,119千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶5_「自助」や「共助」の意識を育む教育の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	指導用の教科書や副読本等を活用して教育の振興を図る。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
①教育振興事業（一般経費） ・教師用教科書及び指導書の購入 各校にて不足する分の教師用教科書及び指導書を購入する	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		①教育振興事業（一般経費） ・教師用教科書及び指導書の購入	①教育振興事業（一般経費） ・教師用教科書及び指導書の購入	①教育振興事業（一般経費） ・教師用教科書及び指導書の購入
事業費		1,119	1,119	1,119
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	1,119	1,119	1,119

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	教師用教科書及び指導書の配付率	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	100				
活動指標	副読本の配付率	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	100				
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	1,119 千円	令和3年度決算額	1,076 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【令和元年度】 教師用教科書購入、社会科副読本「のびゆく館林」編集委託及び作製委託 【令和2年度】 教師用教科書及び指導書購入（全面改訂） 【令和3年度】 教師用教科書及び指導書購入			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	教職員が児童へ適切な指導を行うため、また児童の学習のために必要である。					
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や指導書の給与・購入のための事務が煩雑 ・学習指導要領の改訂ごとに予算の支出が大きくなる 					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	学校での授業等において必要不可欠なものであり、今後も継続していく必要がある。					
令和5年度事業計画	令和4年度と同様					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	152	重要事業		総合戦略		担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・2・2	就学奨励（援助）事業			21,736千円	20,868千円	24,141千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶2_夢と希望の実現に向けた支援の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	経済的な理由により就学が困難な児童の保護者に対し、学校生活に必要な費用を援助する。
----------------	---

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

【細事業名】児童の就学奨励事業 ※特別支援教育就学奨励費を含む

- ・ 要保護及び準要保護児童援助費
 <内容>
 「学校教育法」の規定に基づき、経済的理由のため就学困難と認められる市内に在住する児童の保護者に対し、申請方式により、以下の品目を支給することで援助を行う。
 <支給品目>
 学用品費、通学用品費、校外活動費、修学旅行費、給食費、新入学児童生徒学用品費、通学費、医療費、クラブ活動費、生徒会費、PTA会費
- ・ 特別支援教育就学奨励費
 <内容>
 「特別支援学校への就学奨励に関する法律」の規定に基づき、障害のある児童生徒等への経済的負担を軽減するため、市内に在住する児童の保護者に対し、申請方式により、以下の品目を支給することで援助を行う。
 <支給品目>
 学用品費、通学用品費、校外活動費、修学旅行費、給食費、新入学児童生徒学用品費、通学費

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	【細事業名】児童の就学奨励事業	【細事業名】児童の就学奨励事業	【細事業名】児童の就学奨励事業	【細事業名】児童の就学奨励事業
	・ 要保護及び準要保護児童援助費	・ 要保護及び準要保護児童援助費	・ 要保護及び準要保護児童援助費	・ 要保護及び準要保護児童援助費
	・ 特別支援教育就学奨励費	・ 特別支援教育就学奨励費	・ 特別支援教育就学奨励費	・ 特別支援教育就学奨励費
	事業費	24,141	24,141	24,141
	財源			
	国庫	1,488	1,488	1,488
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	22,653	22,653	22,653

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	小学生保護者に対する制度周知回数	目標値	2	2	2	2	2
		実績値	2				
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	24,141千円	令和3年度決算額	22,392千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【要保護及び準要保護児童援助費】 令和元年度 対象者218名 給付額15,375,751円 令和2年度 対象者258名 給付額15,901,963円 令和3年度 対象者268名 給付額18,664,601円			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	経済的な理由等により就学が難しい世帯へ給付することで、児童の就学機会を確保することができた。また新型コロナウイルス感染症の流行により家計がひっ迫した世帯に対しても柔軟な認定を行うことで、就学支援の一助とすることができた。					
課題	新型コロナウイルス感染症の流行により対象者が増加したことに伴い、財政負担の増加が見られる。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	新型コロナウイルス感染症の影響に加え、物価高騰などの要因で家計がひっ迫する世帯の増加が想定されることから、引き続き必要な世帯に支援を行っていく。					
令和5年度事業計画	令和4年度と同様					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	153	重要事業		総合戦略		担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・2・2	被災児童就学援助事業			364千円	121千円	204千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶2_夢と希望の実現に向けた支援の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	東日本大震災により被災し、経済的理由から就学等が困難となった児童に対し、交付金として経費の全額(10/10)を支援する。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
被災児童就学援助事業	
<p><内容></p> <p>東日本大震災により被災し、経済的理由から就学困難となった市内に在住する児童の保護者に対し、申請方式により、以下の品目を支給することで家庭の教育負担の軽減を行う。</p> <p><支給品目></p> <p>学用品費、通学用品費、校外活動費、修学旅行費、給食費、新入学児童生徒学用品費、通学費、医療費、クラブ活動費、生徒会費、PTA会費</p>	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
事業 スケジュール	被災児童就学援助事業 ・被災児童就学援助費		被災児童就学援助事業 ・被災児童就学援助費	被災児童就学援助事業 ・被災児童就学援助費	
	事業費	204	204	204	
	財源	国庫	204	204	204
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
その他		0	0	0	
	一般財源	0	0	0	

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	援助者に対する充足率	100	目標値	100	100	100	100	100
			実績値	-				
			目標値					
			実績値					
			目標値					
			実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	204千円	令和3年度決算額	0千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【被災児童就学援助費】 令和元年度 対象者2名 給付額130,175円 令和2年度 対象者2名 給付額121,000円 令和3年度 対象者0名 給付額0円 ※令和3年度は対象者が認定要件に該当しなかった			

【事業の評価】

【Check】 指標評価						
事業の必要性	<input type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input checked="" type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	震災や原発事故により館林市へ避難している世帯に必要な就学支援を行うことができた。令和3年度は申請のあった世帯で認定要件に当てはまらなかったため否認定となった。					
課題	避難者がいつ転入するか、また市内在住の避難者が今後申請し認定になるかなど不確定要素が多く、結果的に予算執行なしという状況もあり得る。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	避難者の転入や市内在住者が次年度以降認定になる可能性もあり、その際は支援が必要な世帯への給付を引き続き行っていく必要がある。					
令和5年度事業計画	令和4年度と同様					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	154	重要事業		総合戦略		担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・3・1	中学校運営			3,972千円	14,315千円	3,965千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶1_学習環境や生活環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	中学校の円滑な運営のため、病休補助教員の配置や学校評議員の委嘱、卒業記念品の購入、災害共済給付等必要な事業を行う。
----------------	---

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①中学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・病休補助教員の配置 中学校の教員が病気やけがで長期の療養が必要となった場合に、補助教員を臨時的に任用する。 ・卒業記念品の購入 3年生（卒業生）への卒業祝品として印鑑を購入する。 ・日本スポーツ振興センター負担金 学校での事故等に対し医療費や見舞金等の災害共済給付を行うための掛金。歳入に保護者負担金あり。全生徒加入。
--------	--

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
事業 スケジュール	①中学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・病休補助教員の配置 ・卒業記念品の購入 ・日本スポーツ振興センター負担金 	<ul style="list-style-type: none"> ・病休補助教員の配置 ・卒業記念品の購入 ・日本スポーツ振興センター負担金 	<ul style="list-style-type: none"> ・病休補助教員の配置 ・卒業記念品の購入 ・日本スポーツ振興センター負担金 	
	事業費	3,965	3,965	3,965	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
その他		696	696	696	
	一般財源	3,269	3,269	3,269	

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度					
			R3	R4	R5	R6	R7	
活動指標	校長会議の開催数	12	目標値	11	11	11	11	11
		単位：回	実績値	11				
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	3,965 千円	令和3年度決算額	8,493 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■ 病休補助教員配置数 【令和元年度】 0人 【令和2年度】 0人 【令和3年度】 0人 ■ 卒業記念品購入数（卒業生数） 【令和元年度】 673個 【令和2年度】 635個 【令和3年度】 664個 ■ 日本スポーツ振興センター加入状況 【令和元年度】 1,964人（一般1,834人、要保護126人、途中加入4人） 【令和2年度】 1,918人（一般1,913人、要保護4人、途中加入1人） 【令和3年度】 1,928人（一般1,920人、要保護4人、途中加入4人） ■ 新型コロナウイルス感染症対策事業（中学校） 【令和元年度】 なし 【令和2年度】 第一中学校～多々良中学校 5校 【令和3年度】 第一中学校～多々良中学校 5校			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	■ 高	政策の推進において不可欠な事業である	□ 中	政策の推進に寄与している事業である	□ 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	■ 高	成果が高水準にある	□ 中	適切な成果が得られている	□ 低	成果が低水準にある
事業の効率性	□ 高	費用対効果が高水準にある	■ 中	適切な費用対効果が得られている	□ 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	校長会議を月1回程度開催することで、学校教育課と学校との連携や情報共有、学校への各種依頼などを円滑に行うことができた。また本事業は中学校の運営に対する経常的な経費であり、必要不可欠なものとなっている。					
課題	・ 会計年度任用職員（病休補助教員）の任用は緊急で必要となった場合に生じるため、予算執行の有無や支出額の算定が難しい。 ・ 学校における感染症対策事業にあたる学校配当予算の執行は各校で行っており、その事務の不慣れな学校職員による執行誤りが多い。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）					
	中学校における経常的な経費のため、本事業は継続的に実施していく必要がある。新型コロナウイルス感染症対策経費（学校配当予算）は、今後の感染状況を見据えたうえで予算化していく。					
令和5年度事業計画	・ 会計年度任用職員（病休補助教員）の必要に応じた任用 ・ 入学・卒業記念品の購入 ・ 日本スポーツ振興センター負担金等事務 ・ 新型コロナウイルス感染症対策（学校配当予算） ※必要に応じて					
予算規模見込み	■ 同規模	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	※前年度比較		
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	155	重要事業		総合戦略		担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・3・1	生徒・教職員健康管理対策事業			3,023千円	2,567千円	3,077千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶2_夢と希望の実現に向けた支援の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	生徒及び教職員の健康管理のため、各種検査・健診等を委託実施する。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
①生徒及び教職員健康管理対策事業 ・生徒の健康事業 尿検査（全員）、心臓検診（1年）、貧血検査（2年）、結核精密検査（該当者） ・教職員の健康事業 定期健康診断（人間ドック未受診者）、胃がん検診（35歳以上の希望者）、HBワクチン（劇症肝炎）接種、ストレスチェック（全員）	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		①生徒及び教職員健康管理対策事業 ・生徒の健康事業 ・教職員の健康事業	①生徒及び教職員健康管理対策事業 ・生徒の健康事業 ・教職員の健康事業	①生徒及び教職員健康管理対策事業 ・生徒の健康事業 ・教職員の健康事業
事業費		3,077	3,077	3,077
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	3,077	3,077	3,077

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	生徒への健康事業の充足率	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	100				
活動指標	教職員への健康事業の充足率	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	100				
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	3,077 千円	令和3年度決算額	2,638 千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	<生徒> ・令和元年度：尿検査（全学年）1,897人、心臓検診（1年）658人、貧血検査（2年）583人、結核精密検査（該当者）4人 ・令和2年度：尿検査（全学年）1,856人、心臓検診（1年）618人、貧血検査（2年）578人、結核精密検査（該当者）3人 ・令和3年度：尿検査（全学年）1,873人、心臓検診（1年）630人、貧血検査（2年）567人、結核精密検査（該当者）1人 <教職員> ・令和元年度：定期健診（人間ドック受診者以外）49人、胃がん検診（希望者）2人、ストレスチェック（全員）144人 ・令和2年度：定期健診（人間ドック受診者以外）49人、胃がん検診（希望者）1人、ストレスチェック（全員）142人 ・令和3年度：定期健診（人間ドック受診者以外）44人、ストレスチェック（全員）142人		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A		
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中
評価根拠	生徒が健康に学校生活を送るため、また教職員が健康に勤務できるよう、生徒・教職員自身の健康状態を把握・維持するために必要な事業である。		
課題	・限られた日程・期間の中で各種検査日や会場を調整すること ・外国籍、特に日本語での会話が難しい生徒全員に受診させること		
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）		
	生徒及び教職員の健康管理のため、必要となる検査等を継続して実施していく。		
令和5年度事業計画	令和4年度と同様		
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小
備考	※前年度比較		

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	156	重要事業	○	総合戦略		担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・3・1	中学校学習等支援教諭補助員設置事業			14,166千円	13,956千円	15,143千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶4_確かな学力と豊かな心を育む教育の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	きめ細やかな学習指導や生活指導を行い、生徒一人一人が確かな学力を身に付け、心身ともに健やかな学校生活を送れるようにする。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
①中学校学習等支援教諭補助員設置事業 ・中学校への教諭補助員の配置 教諭補助員 5名（第一中学校ほか4校）	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
事業 スケジュール	①中学校学習等支援教諭補助員設置事業 ・中学校への教諭補助員の配置		①中学校学習等支援教諭補助員設置事業 ・中学校への教諭補助員の配置	①中学校学習等支援教諭補助員設置事業 ・中学校への教諭補助員の配置	
	事業費	15,143	15,143	15,143	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
その他		0	0	0	
	一般財源	15,143	15,143	15,143	

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度					
			R3	R4	R5	R6	R7	
総合計画 指標	標準学力テストで全国平均を上回る学校数	3	目標値	4	4	4	5	5
		単位：校	実績値	4				
活動指標	教諭補助員の充足率（人数）	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	100				
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	15,143 千円	令和3年度決算額	13,118 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【配置数】 令和元年度 2名配置 令和2年度 5名配置 令和3年度 5名配置			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	県費負担の教員だけでは賅いきれない部分を補うため配置するものであり、適切な学校運営と子どもたちの学習の保障の観点から必要である。					
課題	必要に応じて求人を行うも応募者が少ない、あるいは全くいないといったことが多く見られる。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	県費負担の教員をサポートし、子どもたちの学習の保障や学力の向上を推進していくため現在の配置数の確保は必要不可欠である。					
令和5年度事業計画	令和4年度と同様					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	157	重要事業	○	総合戦略		担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・3・1	特別支援教育介助員設置事業			9,638千円	8,925千円	10,162千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶2_夢と希望の実現に向けた支援の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	中学校において障がい等により配慮を要する児童が、安全安心な学校生活を送れるよう、日常生活の介助や教育活動上の支援を行うため臨時的に配置する。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
①特別支援教育介助員設置事業 ・中学校への特別支援教育介助員の配置 特別支援教育介助員 5名（第一中学校ほか4校）	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		①特別支援教育介助員設置事業 ・中学校への特別支援教育介助員の配置	①特別支援教育介助員設置事業 ・中学校への特別支援教育介助員の配置	①特別支援教育介助員設置事業 ・中学校への特別支援教育介助員の配置
	事業費	10,162	10,162	10,162
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	10,162	10,162	10,162

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度					
			R3	R4	R5	R6	R7	
総合計画 指標	小中学生の豊かな心の育成の達成度	2	目標値	3	4	4	5	5
		単位：校	実績値	3				
活動指標	特別支援教育介助員の充足率（人数）	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	100				
			目標値					
			実績値					
			目標値					
			実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	10,162 千円	令和3年度決算額	9,217 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【介助員配置数】 令和元年度 延べ6名 令和2年度 4名 令和3年度 5名			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	各校で支援を必要とする生徒に配置することで、安心安全な学校生活を確保することができている。
課題	心身に様々なハンデを有する生徒は多く、現状の配置数でも不足している。
【Action】 今後の方向性・内容	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	各校から出される介助員の配置依頼が現在の配置数の2倍程度あり、学校だけでなく保護者にも学校生活において安心感を得られるよう事業の拡大(増員)が必要。
令和5年度事業計画	令和4年度より増員
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	158	重要事業		総合戦略		担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・3・1	ICT学習指導員設置事業			0千円	0千円	1,377千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶1_学習環境や生活環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	学校での1人1台端末をはじめとするICTを活用した授業を円滑に進めるため必要な人員を配置する。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
○各校1名のICT学習指導員の配置 ・県DXスタッフ未配置校へICT学習指導員を配置し、授業等で学習支援を行う。 中学校2校	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		○ICT学習指導員の配置 県DXスタッフ未配置校2校に配置 ※令和3年度補正予算	○ICT学習指導員の配置 5校に配置	○ICT学習指導員の配置 5校に配置
	事業費	1,377	1,377	1,377
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	1,377	1,377	1,377

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度					
			R3	R4	R5	R6	R7	
総合計画 指標	学校における教育の情報化（教員のICT活用指導力）	82.9	目標値					
		単位：%	実績値					
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	1,377 千円	令和3年度決算額	1,012 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	・ ICT学習指導員配置校 (2/2校)			

【事業の評価】

【Check】 指標評価						
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	GIGAスクール構想の前倒し実施に伴い、円滑なICT教育の推進と教職員への適切なサポートを実施することができた。					
課題	指導員によってICT活用力に差があるため、指導員向け研修会を実施するなど、スキル向上を図る必要がある。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	ICTを効果的に活用した授業運営や教職員への適切なサポート、生徒への操作支援を実施していく。					
令和5年度事業計画	県費ICT学習支援員未配置校への配置					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	159	重要事業		総合戦略		担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・3・2	教育振興事業			2,156千円	577千円	9,642千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶5_「自助」や「共助」の意識を育む教育の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	指導用の教科書や特活副読本等を活用して教育の振興を図る。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
①教育振興事業 ・教師用教科書及び指導書、特活副読本の購入 教科書の採択替えに伴い教師用教科書及び指導書を購入する。また特別活動副読本「明るい学級」を購入する。	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		①教育振興事業 ・教師用教科書及び指導書、特活副読本の購入	①教育振興事業 ・教師用教科書及び指導書、特活副読本の購入	①教育振興事業 ・教師用教科書及び指導書、特活副読本の購入
	事業費	9,642	9,642	9,642
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	9,642	9,642	9,642

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度					
			R3	R4	R5	R6	R7	
活動指標	教師用教科書及び指導書の配付率	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	100				
活動指標	副読本の配付率	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	100				
			目標値					
			実績値					
			目標値					
			実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	9,642 千円	令和3年度決算額	8,257 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【令和元年度】 教師用教科書及び指導書購入、特別活動副読本「あかるい学級」購入 【令和2年度】 教師用教科書及び指導書購入、特別活動副読本「あかるい学級」購入 【令和3年度】 教師用教科書及び指導書購入（教科用図書の新採択替え）			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	教職員が生徒へ適切な指導を行うため、また生徒の学習のために必要である。					
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や指導書の給与・購入のための事務が煩雑 ・学習指導要領の改訂ごとに予算の支出が大きくなる 					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）					
	学校での授業等において必要不可欠なものであり、今後も継続していく必要がある。					
令和5年度事業計画	令和4年度と同内容に加え、特別活動副読本の新規購入を行う。					
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	160	重要事業		総合戦略		担当部署	学校教育課 指導係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・3・2	部活動振興事業			5,963千円	2,125千円	5,962千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶2_夢と希望の実現に向けた支援の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	中学校における生徒の健全育成や体力向上のため、民間指導者を派遣し部活動の充実を図る。
----------------	--

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①部活動の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動指導員及び部活動外部指導者の配置 部活動を安全安心に実施することに加え、教職員の負担軽減のため部活動指導員及び部活動外部指導者を配置する。 ○部活動指導員 5名（必要校） ○部活動外部指導者 21名（5校・計25名）
・吹奏楽の部活動に関する事業	吹奏楽講習会の開催や県内大会等への派遣（東部大会、県大会）

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		①部活動の振興 ・部活動指導員及び部活動外部指導者の配置 ・吹奏楽の部活動に関する事業	①部活動の振興 ・部活動指導員及び部活動外部指導者の配置 ・吹奏楽の部活動に関する事業	①部活動の振興 ・部活動指導員及び部活動外部指導者の配置 ・吹奏楽の部活動に関する事業
事業費		5,962	5,962	5,962
財源	国庫	500	500	500
	県費	500	500	500
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	4,962	4,962	4,962

【関連する指標】

総合計画 指標	指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
	新体力テストで全国平均を上回る学校数（中学校）	男2・女3	目標値	男3・女4	男4・女4	男4・女4	男5・女5	男5・女5
		単位：校	実績値	男2・女3				
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	5,962 千円	令和3年度決算額	2,924 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【部活動指導者数】 令和元年度 25名 令和2年度 18名 令和3年度 17名 【吹奏楽部の実績】 令和元年度 東部地区大会、県大会 令和2年度 中止 令和3年度 東部地区大会、県大会			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	民間指導者を派遣による部活動の充実から、生徒の健全育成や体力向上が図られている。併せて、安全な部活動運営も図られている。 ※令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で部活動実施に制限があった。					
課題	生徒の健全育成や体力向上についての指導を担う、適切な人材の確保が困難である。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	生徒の健全育成や体力向上及び部活動の安全な運営を図るため、継続が必要な事業である。					
令和5年度事業計画	令和4年度と同様					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	161	重要事業		総合戦略		担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・3・2	就学奨励（援助）事業			24,488千円	19,487千円	28,419千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶2_夢と希望の実現に向けた支援の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	経済的な理由により就学が困難な生徒の保護者に対し、学校生活に必要な費用を援助する。
----------------	---

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

【細事業名】生徒の就学奨励事業 ※特別支援教育就学奨励費を含む

- ・要保護及び準要保護生徒援助費
 <内容>
 「学校教育法」の規定に基づき、経済的理由のため就学困難と認められる市内に在住する生徒の保護者に対し、申請方式により、以下の品目を支給することで援助を行う。
 <支給品目>
 学用品費、通学用品費、校外活動費、修学旅行費、給食費、新入学児童生徒学用品費、通学費、医療費、クラブ活動費、生徒会費、PTA会費
- ・特別支援教育就学奨励費
 <内容>
 「特別支援学校への就学奨励に関する法律」の規定に基づき、障害のある児童生徒等への経済的負担を軽減するため、市内に在住する生徒の保護者に対し、申請方式により、以下の品目を支給することで援助を行う。
 <支給品目>
 学用品費、通学用品費、校外活動費、修学旅行費、給食費、新入学児童生徒学用品費、通学費

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	【細事業名】 生徒の就学奨励事業	<ul style="list-style-type: none"> ・要保護及び準要保護生徒援助費 ・特別支援教育就学奨励費 	<ul style="list-style-type: none"> ・要保護及び準要保護生徒援助費 ・特別支援教育就学奨励費 	<ul style="list-style-type: none"> ・要保護及び準要保護生徒援助費 ・特別支援教育就学奨励費
	事業費	28,419	28,419	28,419
財源	国庫	1,087	1,087	1,087
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	27,332	27,332	27,332

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	中学生保護者に対する制度周知回数	目標値	2	2	2	2	2
		実績値	2				
	単位：	目標値					
		実績値					
	単位：	目標値					
		実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	28,419 千円	令和3年度決算額	21,671 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【要保護及び準要保護生徒援助費】 令和元年度 対象者140名 給付額19,350,262円 令和2年度 対象者168名 給付額17,332,102円 令和3年度 対象者170名 給付額19,972,956円			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	経済的な理由等により就学が難しい世帯へ給付することで、生徒の就学機会を確保することができた。また新型コロナウイルス感染症の流行により家計がひっ迫した世帯に対しても柔軟な認定を行うことで、就学支援の一助とすることができた。					
課題	新型コロナウイルス感染症の流行により対象者が増加したことに伴い、財政負担の増加が見られる。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	新型コロナウイルス感染症の影響に加え、物価高騰などの要因で家計がひっ迫する世帯の増加が想定されることから、引き続き必要な世帯に支援を行っていく。					
令和5年度事業計画	令和4年度と同様					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	162	重要事業		総合戦略		担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・3・2	被災生徒就学援助事業			363千円	0千円	307千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶2_夢と希望の実現に向けた支援の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	東日本大震災により被災し、経済的理由から就学等が困難となった生徒に対し、交付金として経費の全額(10/10)を支援する。
----------------	--

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

【細事業名】被災児童生徒援助事業

<内容>

東日本大震災により被災し、経済的理由から就学困難となった市内に在住する生徒の保護者に対し、申請方式により、以下の品目を支給することで家庭の教育負担の軽減を行う。

<支給品目>

学用品費、通学用品費、校外活動費、修学旅行費、給食費、新入学児童生徒学用品費、通学費、医療費、クラブ活動費、生徒会費、PTA会費

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	【細事業名】被災生徒就学援助事業	【細事業名】被災生徒就学援助事業	【細事業名】被災生徒就学援助事業	【細事業名】被災生徒就学援助事業
	・被災生徒就学援助費	・被災生徒就学援助費	・被災生徒就学援助費	・被災生徒就学援助費
事業費		307	307	307
財源	国庫	307	307	307
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	0	0	0

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	援助者に対する充足率	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	-				
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	307 千円	令和3年度決算額	0 千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【被災生徒就学援助費】 令和元年度 対象者0名 給付額0円 令和2年度 対象者0名 給付額0円 令和3年度 対象者0名 給付額0円		

【事業の評価】

【Check】 指標評価			
事業の必要性	<input type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input checked="" type="checkbox"/> 中
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中
評価根拠	震災や原発事故により館林市へ避難している世帯に必要な就学支援を行うことができた。令和元年度から2年度は該当の生徒がいなかったため支出はなく、令和3年度は申請のあった世帯が認定要件に該当しなかったため否認認定となった。		
課題	避難者がいつ転入するか、また市内在住の避難者が今後申請し認定になるかなど不確定要素が多く、結果的に予算執行なしという状況もあり得る。		
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)		
	避難者の転入や市内在住者が次年度以降認定になる可能性もあり、その際は支援が必要な世帯への給付を引き続き行っていく必要がある。		
令和5年度事業計画	令和4年度と同様		
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較		
備考			

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	163	重要事業		総合戦略		担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・4・1	幼稚園運営			52,504千円	49,347千円	58,051千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶1_学習環境や生活環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	給食用食材の購入や災害共済給付等により幼稚園の円滑な運営を進めるほか、幼稚園保育料の無償化により子育て世帯の経済的負担軽減を図る。
----------------	---

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①幼稚園運営	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカー教室及びラグビー教室の実施 幼児向けのサッカーやラグビーを体験させ、協調性を養うとともに健康な体づくりを目指す。 ・給食用食材等の購入 公立幼稚園の給食で使用する食材、調理用の白衣、食器や調理器具などを購入する。 ・幼稚園型一時預かり事業委託の実施 館林市子ども・子育て支援事業計画に基づき、家庭での保育が一時的にできなくなった在園児を一時的に預かる事業。委託先は常楽幼稚園（私立）。 ・施設型給付費 幼稚園の運営に係る費用を公定価格に基づき算出し補填するもの。園児数等により額の変動がある。 ・施設等利用給付費 子ども・子育て新制度に移行していない幼稚園に通う園児の利用料を上限内で支給するもの。また幼稚園に通う保護者が就労等の条件を満たした場合、保育料を上限内で補填するもの。 ・実費徴収に係る補足給付費 幼稚園に通う経済的な支援を必要とする世帯に対し、教材費や園行事に係る費用、給食費（副食費）等を一定額援助するもの。
--------	--

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	①幼稚園運営 ・サッカー教室及びラグビー教室の実施 ・給食用食材等の購入 ・幼稚園型一時預かり事業委託の実施 ・施設型給付費 ・施設等利用給付費 ・実費徴収に係る補足給付費			
	事業費	58,051	58,051	58,051
	財源			
	国庫	14,869	14,869	14,869
	県費	11,859	11,859	11,859
市債	0	0	0	
その他	10,398	10,398	10,398	
一般財源	20,925	20,925	20,925	

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度					
			R3	R4	R5	R6	R7	
活動指標	幼稚園への指導回数	15	目標値	15	15	15	15	15
		単位：回	実績値	15				
活動指標	園長会議の開催数	5	目標値	5	5	5	5	5
		単位：回	実績値	5				
			目標値					
			実績値					
			目標値					
			実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	58,051千円	令和3年度決算額	57,382千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■サッカー教室及びラグビー教室講師謝礼 ・令和3年度までの累計実績 270,000円 内訳(令和元年度 0円 令和2年度 135,000円 令和3年度 135,000円) ■給食用賄材料費 ・令和3年度までの累計実績 38,442,956円 内訳(令和元年度 14,631,370円 令和2年度 11,170,191円 令和3年度 12,641,395円) ■幼稚園型一時預かり事業委託費 ・令和3年度までの累計実績 1,956,000円 内訳(令和元年度 0円 令和2年度 973,000円 令和3年度 983,000円) ■施設型給付費 ・令和3年度までの累計実績 57,980,588円 内訳(令和元年度 0円 令和2年度 24,766,120円 令和3年度 33,214,468円) ■施設等利用給付費 ※対象者(延) ・令和3年度までの累計実績 508人 4,214,410円 内訳(令和元年度:58人 457,740円 令和2年度:163人 1,842,270円 令和3年度:187人 1,914,400円) ■実費徴収に係る補足給付費 ※対象者(延) ・令和3年度までの累計実績 64人 151,490円 内訳(令和元年度:0人 令和2年度:31人 68,445円 令和3年度:33人 83,045円)		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	活動指標である園長会議の開催数については、目標値とは別に自主園長会を開催し、各園の共通理解を深め、教育の質を高めるために活動することが出来た。
課題	公立幼稚園のこども園化に向け、運営水準や教育の質が落ちないように気を付ける。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止) 今後も幼稚園の運営が円滑に運ぶように事業を行う。公立幼稚園は認定こども園化を控えているため、こども園化後も運営が円滑に運ぶよう尽力する。
令和5年度事業計画	①幼稚園運営 ・サッカー教室及びラグビー教室の実施 幼児向きのサッカーやラグビーを体験させ、協調性を養うとともに健康な体づくりを目指す。 ・給食用食材等の購入 公立幼稚園の給食で使用する食材、調理用の白衣、食器や調理器具などを購入する。 ・幼稚園型一時預かり事業委託の実施 館林市子ども・子育て支援事業計画に基づき、家庭での保育が一時的にできなくなった在園児を一時的に預かる事業。委託先は常楽幼稚園(私立)。 ・施設型給付費 幼稚園の運営に係る費用を公定価格に基づき算出し補填するもの。園児数等により額の変動がある。 ・施設等利用給付費 子ども・子育て新制度に移行していない幼稚園に通う園児の利用料を上限内で支給するもの。また幼稚園に通う保護者が就労等の条件を満たした場合、保育料を上限内で補填するもの。 ・実費徴収に係る補足給付費 幼稚園に通う経済的な支援を必要とする世帯に対し、教材費や園行事に係る費用、給食費(副食費)等を一定額援助するもの。
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	164	重要事業		総合戦略		担当部署	学校教育課 指導係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・6・1	保健体育総務			6,460千円	2,719千円	6,462千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶2_夢と希望の実現に向けた支援の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	中学生にスポーツ実践の機会を与え、技能の向上とスポーツ精神の高揚を図り、心身ともに健全な中学生を育成するとともに、生徒相互の親睦とスポーツの振興を図る。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
①学校体育スポーツ指導事業 ・中学校体育連盟交付金 中学校5校で組織され、各種大会の運営経費や県大会等への選手派遣に係る経費などを対象とし、交付要綱に基づき予算の範囲内で交付する。	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業スケジュール		①学校体育スポーツ指導事業 ・中学校体育連盟交付金	①学校体育スポーツ指導事業 ・中学校体育連盟交付金	①学校体育スポーツ指導事業 ・中学校体育連盟交付金
事業費		6,462	6,462	6,462
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	6,462	6,462	6,462

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	中体連主催大会の開催数	目標値	3	3	3	3	3
		実績値	2				
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	6,462 千円	令和3年度決算額	3,951 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	<中体連> 令和元年度 交付金6,082,984円 令和2年度 交付金2,544,441円 令和3年度 交付金5,643,000円			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	C					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	体育やスポーツの振興、生徒に実践する機会の提供などにより、技能向上やスポーツ精神の高揚を図るために必要である。					
課題	中体連交付金は、コロナ禍を除き例年バス賃借料分が高額になるため、当初予算が不足し補正対応となっている。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	中学生にスポーツ実践の機会を与え、技能の向上とスポーツ精神の高揚を図り、心身ともに健全な中学生を育成するとともに、生徒相互の親睦とスポーツの振興を図るために、継続が必要な事業である。					
令和5年度事業計画	令和4年度と同様					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	165	重要事業		総合戦略		担当部署	学校教育課 指導係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・6・1	体育・スポーツの振興			180千円	0千円	180千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶2_夢と希望の実現に向けた支援の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	県大会を勝ち抜いた選手に広くスポーツの実践の機会を与えるとともに、保護者の負担軽減を図る。
----------------	---

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①全国・関東・体育事業派遣 ・中学生ブロック大会参加補助金	関東大会や全国大会へ参加する中学生の経費（交通費、宿泊費等）のうち、県中体連派遣費助成金を差し引いた2/3を市が補助する。
----------------------------------	---

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		①全国・関東・体育事業派遣 ・中学生ブロック大会参加補助金	①全国・関東・体育事業派遣 ・中学生ブロック大会参加補助金	①全国・関東・体育事業派遣 ・中学生ブロック大会参加補助金
	事業費	180	180	180
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	180	180	180

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	学校別関東大会・全国大会等への出場 総競技数	11	目標値	12	13	14	14	15
			実績値	7				
			目標値					
			実績値					
			目標値					
			実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	180 千円	令和3年度決算額	225 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	・令和元年度 水泳・陸上・剣道・柔道・駅伝 45名 418,000円 ・令和2年度 新型コロナウイルス感染流行のため各種大会中止 ・令和3年度 水泳・陸上・柔道・体操・ソフトテニス 26名 225,000円			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D					
事業の 必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進におい て不可欠な事業で ある	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与 している事業であ る	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有 無について検討の余地がある
事業の 有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得ら れている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の 効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水 準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果 が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	県大会を勝ち抜き上位の大会へと進んだ生徒に一層のスポーツ実践の機会を与え、保護者の負担軽減を図る必要がある。 ※令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催された大会が少なかった。					
課題	コロナ禍を除けば、年度ごとに上位大会に参加する種目や選手数、開催地が異なり、予算不足になることから補正予算で対応している。					
【Action】 今後の 方向性 ・内容	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	コロナ禍を除き、過去の実績で毎年補正増しているため、事業の拡大が必要である。 ・平成30年度 359,000円 ・令和元年度 418,000円 ・令和2年度 新型コロナウイルス感染流行のため中止 ・令和3年度 225,000円					
令和5年 度事業計 画	水泳、陸上等 30名程度 300,000円					
予算規模 見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	166	重要事業	○	総合戦略		担当部署	向井千秋記念子ども科学館 事業係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・5・10	向井千秋記念子ども科学館ROCKET事業			3,875 千円	3,709 千円	3,874 千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
	▶14_生涯にわたって学び続けることができ、生きがいと活力に満ちたまちになる
施策の方向	▶2_夢と希望の実現に向けた支援の充実
	▶4_確かな学力と豊かな心を育む教育の推進
	▶1_生涯学習理念の普及啓発

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	東京大学のROCKET事業と連携し、「個性は可能性」という考えのもと、現状の教育環境に馴染めない子どもたちに、新しい学びの場を提供し、個性にあった支援を行う。 加えて、ROCKETの学びを活かした「里沼 (SATO-NUMA) プログラム」を開発し、本市の特色を生かしたROCKETプロジェクトの推進を図る。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
○ROCKETの学びを活かした「里沼 (SATO-NUMA) プログラム」の実施（6回） 科学クラブに「里沼チーム」を新設（オリエンテーション1回、Balloon [®] ougham 3回、Submarine [®] ougham 2回） ○ROCKETの学びを活かした個別支援の実施（タブレット等を活用した学習支援）（通年） ○学校（相談室）と連携を密にしたROCKET Labの実施（17回） ○トップランナートーク（2回）	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		<ul style="list-style-type: none"> ・里沼 (SATO-NUMA) プログラム (Balloon[®] ougham ・Submarine[®] ougham) ・タブレット等を活用した 学習支援 ・ROCKET Lab ・トップランナートーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・里沼 (SATO-NUMA) プログラム ・タブレット等を活用した 学習支援 ・ROCKET Lab ・トップランナートーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・里沼 (SATO-NUMA) プログラム ・タブレット等を活用した 学習支援 ・ROCKET Lab ・トップランナートーク
	事業費	3,874	1,308	1,308
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	3,874	1,308	1,308

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度					
			R3	R4	R5	R6	R7	
総合計画 指標	向井千秋記念子ども科学館利用者数 (入館者)	62,812	目標値	63,875	64,406	64,937	65,469	66,000
		単位：人	実績値	36,583				
総合計画 指標	向井千秋記念子ども科学館利用者数 (観覧者)	25,006	目標値	25,671	26,003	26,335	26,668	27,000
		単位：人	実績値	16,291				
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	3,874 千円	令和3年度決算額	3,750 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	・ Submarine ⁷ ougham	R1: 15人	R2: —	R3: 35人 (2回)
	・ Balloon ⁷ ougham	R1: 35人 (3回)	R2: 30人 (3回)	R3: 50人 (3回)
	・ ICT等を活用した学習支援	R1: 53人	R2: 63人	R3: 83人
	・ ROCKET Lab	R1: 287人 (14回)	R2: 269人 (13回)	R3: 153人 (17回)
	・ トップランナートーク in館林 (信)	R1: 110人	R2: 15人	R3: 206人 (2回) (動画配 信)

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D					
事業の 必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進におい て不可欠な事業で ある	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与し ている事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有 無について検討の余地がある
事業の 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られ ている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の 効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水 準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が 得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	参加者及び保護者、担当教諭へのアンケートから、「いろいろな人とのコミュニケーションがとれるようになってきた」「自分の出来ることが見つけられた」「家族や先生と話をする機会が増えた」「やりたいことを自分のペースで参加し、活動できて良い」などの回答を得ている。参加者の成長や自立を促す居場所の一つとして機能している。また新規事業の「里沼 (SATO-NUMA) プログラム」においては、アンケートの結果より、館林の新しい発見・さらなる魅力に気づいた子どもが多く見られた。					
課題	連携シートにより、活動の様子を担当等へ情報共有しているが、学校によってはうまく活用されておらず、本事業への周知もまだ不足している状況も見られる。学校や教育委員会各課との連携をさらに深める必要がある。またシビックプライドの醸造はまだ不十分といえ、連続性のあるプログラムによる、長期にわたる研究的な学びの検討も必要である。					
【Action】 今後の 方向性 ・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	東京大学のROCKET事業と連携して行ってきたこれまでの実践を基に、本市の特色を生かした館林ROCKETプロジェクトの推進を図る。					
令和5年 度事業計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ ROCKETの学びを活かした「里沼 (SATO-NUMA) プログラム」の実施 ・ ROCKETの学びを活かした個別支援の実施 (ICT等を活用した学習支援) ・ 学校 (相談室) と連携を密にしたROCKET Labの実施 ・ トップランナートーク など 					
予算規模 見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	167	重要事業	○	総合戦略		担当部署	学校給食センター 給食係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・6・3	給食センター運営			333,413千円	246,870千円	335,449千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶6_教育活動における食育の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	児童生徒に対し、安全安心で栄養バランスのとれた給食を安定的に提供するとともに、食生活や生活環境の変化に伴い、学校給食の目的が「食生活の改善」から「食育の推進」を重視したものとなったことを受け、児童・生徒の食に対する偏りを修正し、保護者の食育への理解を深めるため、栄養教諭等による食に関する指導の一層の充実を図り、次世代を担う親子への望ましい食習慣づくりを推進する。 また、学校給食は食育の生きた教材であり、食育推進に取り組む環境を整備するため、子育て世代が抱えている経済的負担の軽減を図る。
----------------	--

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- ①食育の推進
 - ・学校、家庭及び学校給食センターの連携により、学校訪問による各教科等の中での食育の推進（栄養、食事マナー、食文化・伝統、食材流通の経路と労働への感謝、運動との関わり等）
 - ・施設見学、調理実習等を通じた保護者（家庭）への食育の推進
 - ・食育ブログ等による食育の推進及び学校給食の情報提供
- ②アレルギー対応食の提供
 - ・対象者：医師の診断・指示により、家庭でも除去を行っている児童生徒
 - ・除去品目：卵
 - ・提供開始：令和3年4月～ ※新小学1年生については令和3年8月（2学期）から提供開始
 - ・アレルギー対応食の献立：通常食と同様の献立
- ③学校給食費の徴収管理
 - ・学校と情報共有しながら学校給食費の適正賦課及び徴収
 - ・第3子以降の学校給食費の無料化

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		<ul style="list-style-type: none"> ・学校での食育授業の実施 ・給食時訪問による食育の実施 ・施設見学、調理実習等の実施 ・食育ブログ等による食育の推進及び学校給食の情報提供 ・学校給食費の徴収管理 ・通常食、アレルギー対応食の提供及びアレルギー対応品目の検討 ・第3子以降の学校給食費の無料化 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での食育授業の実施 ・給食時訪問による食育の実施 ・施設見学、調理実習等の実施 ・食育ブログ等による食育の推進及び学校給食の情報提供 ・学校給食費の徴収管理 ・通常食、アレルギー対応食の提供及びアレルギー対応品目の検討 ・第3子以降の学校給食費の無料化 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での食育授業の実施 ・給食時訪問による食育の実施 ・施設見学、調理実習等の実施 ・食育ブログ等による食育の推進及び学校給食の情報提供 ・学校給食費の徴収管理 ・通常食、アレルギー対応食の提供及びアレルギー対応品目の検討 ・第3子以降の学校給食費の無料化
事業費		335,449	335,090	335,090
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	335,449	335,090	335,090

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	学校訪問の訪問率	目標値	100	100	100	100	100
		実績値	43.3				
活動指標	施設見学回数	目標値	24	26	27	29	30
		実績値	13				
活動指標	地場産農作物使用率（使用農作物全体に占める地場産の割合：重量）	目標値	39.3	39.4	39.6	39.8	40.0
		実績値	38.2				
		目標値					
		実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	335,449 千円	令和3年度決算額	313,282 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学校訪問の訪問率 <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年度実績 43.3% 内訳 (令和元年度: 100%、令和2年度: 59.8%、令和3年度: 43.3%) ■ 施設見学回数 <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年度実績 21回 内訳 (令和元年度: 21回、令和2年度: 13回、令和3年度: 13回) ■ 地場産農作物使用率 <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年度実績 38.9% 内訳 (令和元年度: 38.9%、令和2年度: 38.8%、令和3年度: 38.2%) 			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	指標については、いずれも年度目標を下回っている。要因としては、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に係る措置として、不可抗力によるものである。
課題	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の収束の兆しが見えるとともに、実績値は明らかに上昇に転じる見込みであるが、食育の推進やアレルギー対応食の提供においては、通常食の提供に影響を及ぼさないためにも、栄養士のさらなる配置が必要である。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	学校給食センターにおける調理及び施設の維持管理運営に関しては、SPC（特別目的会社）が行うこととなっているが、献立の作成、使用食材の発注及び検収、学校給食費実費徴収金の徴収管理、各学校への訪問を通じた食育への働きかけ等、学校給食の根幹をなす部分については引き続き市が実施するとともに、安心安全な給食を今後も提供していかなければならない。
令和5年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校に対する食育活動の実施 ・ 通常食及び食物アレルギー対応食の提供 ・ 学校給食実費徴収金の徴収管理 ・ 第3子以降学校給食費無料化
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	168	重要事業		総合戦略		担当部署	学校給食センター 給食係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・6・3	給食センターPFI運営事業			424,879千円	422,253千円	419,770千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶6_教育活動における食育の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	平成30年度2学期より施設の供用を開始したPFI法に基づき整備された学校給食センターにおいて、令和15年8月までの15年間当該施設の維持管理、調理業務等の運営をSPCに業務委託し、安全安心な給食を安定的に提供する。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
①市が提示した要求水準書の履行確認のためのモニタリング ・SPCによるセルフモニタリング報告書の確認 ・日常における維持管理業務及び運営業務のモニタリング ・PFI事業協議会の開催 ②SPCが提示した提案書の履行確認のためのモニタリング ・SPCによるセルフモニタリング報告書の確認 ・日常における維持管理業務及び運営業務のモニタリング ・PFI事業協議会の開催 ③SPCの財務モニタリング ・年度明けに提出されたSPCの財務諸表のモニタリング及び市ホームページへのモニタリング結果の公表	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		①市の要求の水準書のモニタリング ②SPCの提案書のモニタリング （①②共通） ・SPCによるセルフモニタリング報告書の確認 ・日常における維持管理業務及び運営業務のモニタリング ・PFI事業協議会の開催 ③SPCの財務モニタリング ・年度明けに提出されたSPCの財務諸表のモニタリング及び市ホームページへのモニタリング結果の公表	①市の要求の水準書のモニタリング ②SPCの提案書のモニタリング （①②共通） ・SPCによるセルフモニタリング報告書の確認 ・日常における維持管理業務及び運営業務のモニタリング ・PFI事業協議会の開催 ③SPCの財務モニタリング ・年度明けに提出されたSPCの財務諸表のモニタリング及び市ホームページへのモニタリング結果の公表	①市の要求の水準書のモニタリング ②SPCの提案書のモニタリング （①②共通） ・SPCによるセルフモニタリング報告書の確認 ・日常における維持管理業務及び運営業務のモニタリング ・PFI事業協議会の開催 ③SPCの財務モニタリング ・年度明けに提出されたSPCの財務諸表のモニタリング及び市ホームページへのモニタリング結果の公表
事業費		419,770	415,735	415,817
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	419,770	415,735	415,817

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	419,770 千円	令和3年度決算額	418,275 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■ H30年度～ ・維持管理業務・運営業務・事業契約・財務書類に係るモニタリングの実施 ・SPCによる施設の適正な維持管理、保守点検及び不具合箇所の修繕及びセルフモニタリングの実施			

【事業の評価】

【Check】 指標評価						
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	本事業は、安全安心な給食を継続的に提供するために不可欠であり、その実現に向け市側におけるモニタリングは適正に実施されていると考える。					
課題	安全安心な給食の継続的な提供を脅かす要因を排除するため、引き続きモニタリングを強化していく必要がある。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	安全安心な給食の継続的な提供のため、モニタリングを適正に実施していく。					
令和5年度事業計画	・市が提示した要求水準書の履行確認のためのモニタリング ・SPCが提示した提案書の履行確認のためのモニタリング ・新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症陽性者や災害等発生時の対応					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	169	重要事業		総合戦略		担当部署	生涯学習課 青少年係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
2・1・7	国際都市間交流事業			245 千円	35千円	2,449 千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶13_心身ともに健全な子どもが育つ家庭や地域の教育力が高いまちになる
施策の方向	▶2_子どもの健全育成を促進する学びの機会の提供

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	小学生・中学生を対象に、異なる地域の文化や歴史、風土を学ぶ貴重な体験機会として、友好都市である沖縄県名護市と交流を行う。
----------------	--

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

青少年健全育成4団体（PTA、青少推、補導員会、市子連）が連携して実施する。

互いの市へ隔年で訪問し、令和3年度は館林市が名護市へ訪問する。

児童生徒20名、引率者7名（団体5名、職員2名）の計27名が参加予定である。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	名護市へ訪問		名護市より受入れ	名護市へ訪問
	①事前研修 3回（9～11月） ②事業実施（11月27～29日） ③事後研修（12月）		①事前研修 ②事業実施	①事前研修 ②事業実施 ③事後研修
事業費		2,449	245	2,500
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	2,449	245	2,500

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	名護市館林市児童交流事業参加人数	53 (H30)	目標値	50	50	50	50	50
		単位：人	実績値	0				
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	2,449千円	令和3年度決算額	5千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	●名護市館林市児童交流事業 平成29年度（名護市へ訪問）：33名参加（児童のみ、館林市19名・名護市14名） 平成30年度（館林市へ来訪）：53名参加（児童のみ、館林市29名・名護市24名） 令和元年度（名護市へ訪問）：台風接近のため、中止 令和2年度（リモートにて実施）：32名参加（児童のみ、館林市20名・名護市12名） 令和3年度（名護市へ訪問）：コロナウイルス感染拡大防止のため、中止 ※隔年で訪問、隔年で来訪		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D		
事業の必要性	<input type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 低
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 低
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 低
評価根拠	小学生・中学生が異なる地域の文化、歴史及び風土を学び、または体験することができる貴重な機会を得ることができる事業である。友好都市である沖縄県名護市においては、風土や文化の特色が強く、青少年への良好な学習効果が期待できる。一方、費用面においては、名護市への訪問時に遠方が故、約250万円の費用を要する。		
課題	青少年への学習効果が強く期待できる一方、多額の費用を要する。また、事業実施においては、新型コロナウイルス感染症の拡大状況や台風等の天候にされるため、中止になる可能性がある。		
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）		
	友好都市との交流事業であり、青少年を対象とした類似事業も無く、子どもの学びの機会や健全育成の効果が見込まれるため、継続する。		
令和5年度事業計画	青少年健全育成4団体（PTA、青少推、補導員会、市子連）が連携して実施する。 互いの市へ隔年で訪問し、令和5年度は館林市が名護市へ訪問する。 児童生徒20名、引率者7名（団体5名、職員2名）の計27名が参加予定である。		
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較		
備考	R3年度とR5年度は訪問年度のため当初予算額は同等。R3年度は事業中止のため補正減。		

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	171	重要事業	○	総合戦略		担当部署	生涯学習課 青少年係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・5・3	青少年健全育成事業			1,288千円	682千円	1,636千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶13_心身ともに健全な子どもが育つ家庭や地域の教育力が高いまちになる
施策の方向	▶2_子どもの健全育成を促進する学びの機会の提供

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	青少年の居場所づくり事業、青少年育成指導者の養成や青少年育成団体への活動支援を行い、地域に根ざした自主的な青少年健全育成活動を広める。
<p>①放課後子ども教室【重要事業】 放課後に子どもたちの安全・安心な居場所を作り、地域住民等の協力を得て、様々な交流や体験、学習の機会を提供する。</p> <p>②青少年指導者養成講座 子ども会等の青少年団体活動を指導援助できる地域指導者を養成する。</p> <p>③小学生インリーダー研修会 赤城の雄大な自然の中、地域の子どもの中心として活躍できるリーダーの育成を図る。</p> <p>④通学合宿 共同生活や地域での体験活動を通じて、人とのふれあいやありがたさを実感し、生きる力を育む。</p>	

【事業スケジュール】

(単位：千円)

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	①放課後子ども教室 (重) 新規開設1箇所 <三野谷公民館・七小地区>		①放課後子ども教室 (重) 新規開設1箇所 <西公民館・十小地区>	①放課後子ども教室 (重) 新規開設1箇所 <未定>
	②青少年指導者養成講座開催 (年1回)		②青少年指導者養成講座開催 (年1回)	②青少年指導者養成講座開催 (年1回)
	③小学生インリーダー研修会開催 (年1回)		③小学生インリーダー研修会開催 (年1回)	③小学生インリーダー研修会開催 (年1回)
	④通学合宿開催 (4地区)		④通学合宿開催 (4地区)	④通学合宿開催 (4地区)
	事業費	1,636	2,048	2,048
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	484	484
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	1,636	1,564	1,564

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度					
			R3	R4	R5	R6	R7	
総合計画 指標	放課後子ども教室開設数	1	目標値	2	3	4	5	6
		単位：箇所	実績値	2				
活動指標	青少年指導者養成講座参加人数	25	目標値	25	25	25	25	25
		単位：人	実績値	0				
活動指標	小学生インリーダー研修会参加人数	19 (R2)	目標値	20	20	20	20	20
		単位：人	実績値	0				
活動指標	通学合宿参加人数	58	目標値	60	60	60	60	60
		単位：人	実績値	0				

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	1,636千円	令和3年度決算額	765千円			
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ●夏季教育キャンプ 令和元年度：32名参加 令和2年度：中止 令和3年度：中止 ●小学生インリーダー研修会 令和元年度：中止 令和2年度：19名参加 令和3年度：中止 ●青少年指導者養成講座 令和元年度：25名参加 令和2年度：23名参加 令和3年度：中止 ●放課後子ども教室開設 令和3年度：1箇所開設 26名参加 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ●少年の主張館林市大会 令和元年度：294名参加 令和2年度：中止 令和3年度：60名参加 ●青少年育成運動推進大会 令和元年度：218名参加 令和2年度：70名参加 令和3年度：158名参加 ●通学合宿 令和元年度：58名参加 令和2年度：中止 令和3年度：中止 </td> </tr> </table>				<ul style="list-style-type: none"> ●夏季教育キャンプ 令和元年度：32名参加 令和2年度：中止 令和3年度：中止 ●小学生インリーダー研修会 令和元年度：中止 令和2年度：19名参加 令和3年度：中止 ●青少年指導者養成講座 令和元年度：25名参加 令和2年度：23名参加 令和3年度：中止 ●放課後子ども教室開設 令和3年度：1箇所開設 26名参加 	<ul style="list-style-type: none"> ●少年の主張館林市大会 令和元年度：294名参加 令和2年度：中止 令和3年度：60名参加 ●青少年育成運動推進大会 令和元年度：218名参加 令和2年度：70名参加 令和3年度：158名参加 ●通学合宿 令和元年度：58名参加 令和2年度：中止 令和3年度：中止
<ul style="list-style-type: none"> ●夏季教育キャンプ 令和元年度：32名参加 令和2年度：中止 令和3年度：中止 ●小学生インリーダー研修会 令和元年度：中止 令和2年度：19名参加 令和3年度：中止 ●青少年指導者養成講座 令和元年度：25名参加 令和2年度：23名参加 令和3年度：中止 ●放課後子ども教室開設 令和3年度：1箇所開設 26名参加 	<ul style="list-style-type: none"> ●少年の主張館林市大会 令和元年度：294名参加 令和2年度：中止 令和3年度：60名参加 ●青少年育成運動推進大会 令和元年度：218名参加 令和2年度：70名参加 令和3年度：158名参加 ●通学合宿 令和元年度：58名参加 令和2年度：中止 令和3年度：中止 					

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	地域の中での子育てを推進するためにも、担い手となる青少年育成団体の支援や指導者養成は今後も必要なため、政策の推進において不可欠な事業と言える。 放課後子ども教室<新規事業>を実施することで、子どもたちに交流の場や、体験及び学習の機会を提供すると同時に、地域力向上が期待できるため、適切な効果が得られている。
課題	この事業の大半が人との交流を主としているため、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、中止になっている。特に、キャンプ等の宿泊を伴う事業は密になり易く、多人数での食事を行うため、事業を継続することが困難。 新型コロナウイルス感染症の状況に応じ、感染症対策を行ったうえで、可能な範囲内で事業を継続する必要がある。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	既存の実施可能な事業を継続させつつ、新規事業である「放課後子ども教室」を拡充し、子どもたちの様々な交流、体験や学習の機会を提供し、あわせて地域力の向上を目指す。
令和5年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年指導者養成講座開催 (年1回) ・小学生インリーダー研修会開催 (年1回) ・少年の主張館林市大会開催 (年1回) ・通学合宿実施支援 (3地区) ・青少年育成運動推進大会 (年1回) ・放課後子ども教室開設 (1か所増)
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	放課後子ども教室開設数増の計画だが、キャンプ等の事業が縮小見込みのため同額の予算規模を見込む。

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	170	重要事業		総合戦略		担当部署	生涯学習課 生涯学習係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・5・2	社会教育活動促進事業 (学級講座)			736千円	277千円	713千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶13_心身ともに健全な子どもが育つ家庭や地域の教育力が高いまちになる
施策の方向	▶1_家庭の教育力回復を図る取組

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	自己実現を図るために、市民一人ひとりが個性や能力を最大限に伸ばし、環境の変化に対応できる生きがいのある充実した生活が送れるよう、ライフステージに合った各種学級講座等とおして生涯学習にわたる学習の継続と自己学習力の向上を目指す。特に家庭教育への支援を進め、家庭の教育力の向上に努める。 生涯学習研究集会、小学校家庭教育学級合同講演会、小学校新入学期子育て講座、中学校思春期子育て講座、東洋大学オープン講座、すくすくサポート隊などを開催。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
生涯学習研究集会 各種学級講座の参加者と担当者による年間事業の評価する場として開催及びたてばやしふるさとアカデミアを作成する。	
小学校家庭教育学級合同講演会 各公民館・各小学校で実施している家庭教育学級生を一堂に会し、より深い学習機会と交流の場として開催する。	
小学校新入学期子育て講座 家庭教育指導員による、小学校入学前に実施される入学説明会の際に取り入れている子育て講座を開催する	
すくすくサポート隊 児童館等が近くにない公民館にて、ボランティアのサポート隊員による子育て支援の場とする。	
家庭教育相談 家庭教育指導員の予約制による子育て相談の機会を開設する。	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	生涯学習研究集会（たてばやしふるさとアカデミア作成） 小学校家庭教育学級合同講演会 小学校新入学期子育て講座 すくすくサポート隊			
事業費		713	713	713
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	713	713	713

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	生涯学習事業実績延べ回数	目標値	740	735	730	725	720
		実績値	759				
活動指標	すくすくサポート隊開設回数	目標値	87	88	88	89	90
		実績値	67				
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	713 千円	令和3年度決算額	382 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	生涯学習研究集会 令和元年度：142人 令和2年度：書面開催 令和3年度：書面開催 小学校新入学期子育て講座 令和元年度：539人 令和2年度：416人 令和3年度：529人 小学校家庭教育学級合同講演会 令和元年度：120人 令和2年度：16人 令和3年度：26人 すくすくサポート隊 令和元年度：延べ552人参加 令和2年度：延べ552人参加 令和3年度：延べ242人参加			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	C					
事業の 必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進におい て不可欠な事業で ある	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与 している事業であ る	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有 無について検討の余地がある
事業の 有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得ら れている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の 効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水 準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果 が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	研究集会は書面開催となつたものの、各年代に応じた学習機会が計画的に実施され、その成果は、一堂に会することはできなくても、冊子としてまとめられ、学習内容が精査されているほか、次年度の参考書となっており、学び方が研究されている。 また、家庭教育力の低下が危惧されているなか、乳幼児とその保護者(父母・祖父母など)がボランティアで行って来ているサポート隊のメンバーと一緒に、子どもと遊びながら、子育て中の心配事や疑問点について気軽に相談したり、仲間づくりを行っており、子育てのサポートの体制が整備されている。					
課題	各種講座等については、参加者数の減少があげられており、課題に対する学習内容とニーズのある学習内容の配分に苦慮している。また、5公民館で行われているすくすくサポート隊では、サポート隊員の高齢化が進み、サポート隊員となる協力者の増員が課題である。					
【Action】 今後の 方向性 ・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	学習内容の研究をすることは、今後の社会教育の方法に必要不可欠である。また子どもの年齢に応じた家庭教育力の向上を目指し、親子関係のあり方、子どもを取り巻く家庭環境、社会環境等についての情報交換や学習する機会を維持し続けることが必要不可欠なため。 更に、高度な学習機会として、学術機関との連携を図り、その知的財産が市民に還元されることにより更なる学習機会が提供されるため。					
令和5年 度事業計 画	生涯学習研究集会 小学校新入学期子育て講座 中学校思春期子育て講座 東洋大学オープン講座 すくすくサポート隊					
予算規模 見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	172	重要事業		総合戦略		担当部署	生涯学習課 青少年係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・5・3	青少年問題対策事業			1,076 千円	977千円	1,076 千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶13_心身ともに健全な子どもが育つ家庭や地域の教育力が高いまちになる
施策の方向	▶3_地域社会における子どもの安全安心の確保

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	地域全体で、青少年の安全確保と非行防止活動や有害となる社会環境対策を行えるよう、青少年育成団体への活動奨励や支援を行うとともに、子ども自身の悩みや保護者の子育て上の悩みに対応した相談体制を確保する。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
<p>①青少年育成推進委員の活動支援 青少年健全育成及び非行防止対策を推進するため、青少年対策の推進者としての活動を促進する。</p> <p>②子ども安全協力の家 登下校中の児童・生徒が、身に危険を感じたときや急病などで困ったときに、地域で子どもを手助けし安全を守る。</p> <p>③中学校訪問 学校との連携を深めて地域活動を充実させるため、中学校との情報交換会を実施する。</p> <p>④青少年カウンセリング講座 家庭教育や青少年団体指導等におけるカウンセリングに関する基本的な理論や技法を習得する。</p>	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	①青少年育成推進委員の活動支援（通年）	①青少年育成推進委員の活動支援（通年）	①青少年育成推進委員の活動支援（通年）	①青少年育成推進委員の活動支援（通年）
	②子ども安全協力の家（通年）	②子ども安全協力の家（通年）	②子ども安全協力の家（通年）	②子ども安全協力の家（通年）
	③中学校訪問実施（年1回、5校）	③中学校訪問実施（年1回、5校）	③中学校訪問実施（年1回、5校）	③中学校訪問実施（年1回、5校）
	④青少年カウンセリング講座開催（年5回）	④青少年カウンセリング講座開催（年5回）	④青少年カウンセリング講座開催（年5回）	④青少年カウンセリング講座開催（年5回）
事業費		1,076	1,076	1,076
財源	国庫	0	0	0
	県費	214	214	214
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	862	862	862

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	子ども安全協力の家件数	407	目標値	404	403	402	401	400
		単位：件	実績値	376				
活動指標	中学校訪問数	5	目標値	5	5	5	5	5
		単位：校	実績値	4				
活動指標	青少年カウンセリング講座参加者数	32	目標値	31	31	31	30	30
		単位：人	実績値	15				
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	1,076 千円	令和3年度決算額	849 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	●青少年育成推進員委嘱者数 令和元年度：143名 令和2年度：143名 令和3年度：143名 ●中学校訪問情報交換会の開催 令和元年度：全5校実施 令和2年度：1校実施 令和3年度：4校実施 ●子ども安全協力の家協力戸数 令和元年度：407戸 令和2年度：376戸 令和3年度：376戸 ●青少年カウンセリング講座 令和元年度：32名参加 令和2年度：15名参加 令和3年度：15名参加			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	C					
事業の必要性	<input type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input checked="" type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	青少年育成推進員や青少年センター補導員、地域の青少年対策委員会等の地道な活動により、青少年が犯罪者や被害者となるような深刻な事件を発生させないための抑止力効果があるため、今後も事業は継続すべきである。					
課題	青少年カウンセリング講座の受講者を募り、「よき相談者・理解者」として適切な対応ができる人材の育成を目指す必要がある。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	地域全体で、青少年の安全確保と非行防止活動を行うため、青少年育成団体への活動奨励や支援を継続する。また、子ども自身の悩みや保護者の子育て上の悩みに対応できる相談体制を築くため講座等を継続して行う。					
令和5年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・市青少推、地域青少年対策委員会の活動支援（通年） ・中学校訪問情報交換会開催（年1回、中学校5校） ・子ども安全協力の家事業（通年） ・青少年カウンセリング講座開催（年5回） 					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	173	重要事業	総合戦略	担当部署	生涯学習課 青少年係	
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)
10・5・3	青少年センター運営事業			6,473 千円	5,340千円	6,752 千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶13_心身ともに健全な子どもが育つ家庭や地域の教育力が高いまちになる
施策の方向	▶3_地域社会における子どもの安全安心の確保

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	青少年の非行を防止し健全な育成を図るため、青少年センターを設置し、青少年補導、青少年相談、青少年情報提供、青少年の健全育成及び非行防止に必要な事業を行う。
----------------	---

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①補導員補導活動	青少年の問題行動の早期発見、早期指導及び子どもの安全確保のため、補導員による効果的な指導活動を推進する。
②青色回転灯防犯パトロール実施者研修	実施者が適正かつ確かなパトロールのあり方を学ぶことによって、指導者の資質向上を図る。
③子ども相談室	子どもの日常生活で発生する様々な悩み事や、保護者の悩み事の相談窓口として、市民の要望に応じていく。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	①補導員補導活動（通年） 定例巡回補導、協力店補導、下校時補導、列車内補導、小学校区特別補導		①補導員補導活動（通年） 定例巡回補導、協力店補導、下校時補導、列車内補導、小学校区特別補導	①補導員補導活動（通年） 定例巡回補導、協力店補導、下校時補導、列車内補導、小学校区特別補導
	②青色回転灯防犯パトロール実施者研修実施（2回）		②青色回転灯防犯パトロール実施者研修実施（2回）	②青色回転灯防犯パトロール実施者研修実施（2回）
	③子ども相談室（通年） 面接相談、電話相談、メール相談		③子ども相談室（通年） 面接相談、電話相談、メール相談	③子ども相談室（通年） 面接相談、電話相談、メール相談
	事業費	6,752	6,692	6,692
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	6,752	6,692	6,692

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
活動指標 補導員補導活動延べ従事者数	656	目標値	671	678	685	693	700
	単位：人	実績値	475				
活動指標 青色回転灯防犯パトロール実施者研修開催数	2	目標値	2	2	2	2	2
	単位：回	実績値	2				
活動指標 相談員による電話・Eメール相談応答率	100	目標値	100	100	100	100	100
	単位：%	実績値	100				
		目標値					
	単位：	実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	6,752 千円	令和3年度決算額	5,914 千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	●青少年センター補導員委嘱者数 令和元年度：100名 令和2年度：98名 令和3年度：93名 ●補導員補導活動延べ従事者数 令和元年度：656名 令和2年度：300名 令和3年度：475名 ●少年の日・家庭の日ポスター等応募点数 令和元年度：303点 令和2年度：209点 令和3年度：239点（絵画51点、標語188点） ●青色回転灯防犯パトロール実施者研修開催 令和元年度：2回開催 令和2年度：2回開催 令和3年度：2回開催		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	C		
事業の必要性	<input type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 低
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 低
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 低
評価根拠	補導員による「声かけ」補導活動は、地域の大人の見守りであり、青少年の非行防止には有効と言える。また、困った時に相談できる場所があることも、青少年の非行防止や健全育成に不可欠なため、適切な効果が得られている。補導員会の活動や青少年相談活動を支える青少年センター運営事業は継続すべきである。		
課題	補導員の担い手の確保や、青少年センターの指導員や相談員等の確保等、活動や業務に適した人材確保が困難になりつつある。		
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）		
	青少年の非行を防止し健全な育成を図るための機能を有する「青少年センター」の業務を継続し、青少年補導や青少年相談等の各種事業を行う。		
令和5年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年補導員の指導及び活動支援 ・定例補導防犯パトロール実施（通年） ・特別補導等実施（全小学校区で春、夏、冬）、健全育成協力店巡回、下校時補導等 ・子ども相談室の運営（通年） ・少年の日・家庭の日の普及啓発 		
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較		
備考			

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	174	重要事業		総合戦略		担当部署	生涯学習課 青少年係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・5・3	二十歳のつどい事業			1,012 千円	1,414千円	1,498 千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶13_心身ともに健全な子どもが育つ家庭や地域の教育力が高いまちになる
施策の方向	▶2_子どもの健全育成を促進する学びの機会の提供

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	二十歳の節目を祝福する式典を行うことにより、自覚と責任、社会貢献を考える機会とする。
----------------	--

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①式典の開催 ＜令和3年度＞ 新型コロナウイルス感染症の拡大防止策として、2部制で開催する。来場できない新成人向けにオンライン配信を実施し、入場できない保護者向けにパブリックビューイング会場を設置する。 ＜令和4年度～＞ 民法の一部改正に伴い、令和4年4月1日から成年年齢が20歳から18歳に引き下げられるが、「成人式」を「二十歳のつどい」に改称し、引き続き20歳となる人を対象に開催する。
②実行委員会支援 成人式の進行、アトラクションなどの企画運営を行う実行委員を募集し、活動を支援する。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	①式典準備（7月～）		①式典準備（7月～）	①式典準備（7月～）
	②実行委員会開催（9月～）		②実行委員会開催（9月～）	②実行委員会開催（9月～）
	③式典開催（1月）		③式典開催（1月）	③式典開催（1月）
事業費		1,498	1,591	1,591
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	1,498	1,591	1,591

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度					
			R3	R4	R5	R6	R7	
活動指標	式典出席率	80.2	目標値	80	80	80	80	80
		単位：%	実績値	75				
活動指標	実行委員数	6	目標値	6	7	7	8	8
		単位：人	実績値	9				
			目標値					
			実績値					
			目標値					
			実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	1,498 千円	令和3年度決算額	1,270 千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	●成人式出席率 (出席者/対象者) 令和元年度：80.2% (578/721) 令和2年度：71.4% (584/818) 令和3年度：74.8% (573/766) ●二十歳のつどい実行委員数 令和元年度：6名 令和2年度：5名 令和3年度：9名		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	市をあげての新成人の門出を祝う式典であり、新成人としての自覚と責任、社会貢献を促す節目にもなるため、適切な効果が得られる。					
課題	令和2年度からは新型コロナウイルス感染症の拡大防止策として、2部制で開催。会場内においても、検温の実施、体調チェックシートの提出、マスク着用、換気・消毒等を実施。来場できない新成人向けにオンライン配信を実施し、入場できない保護者向けにパブリックビューイング会場を設置。 令和4年度も同内容での開催を要する。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努め、可能な限り事業を実施する。					
令和5年度事業計画	・民法の一部改正に伴い、令和4年4月1日から成年年齢が20歳から18歳に引き下げられ、「成人式」を「二十歳のつどい」に改称し、引き続き20歳となる人を対象に開催する。 ・二十歳のつどい(旧称：成人式)の開催 ・二十歳のつどい実行委員会委員募集及び活動(6月～)					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	175	重要事業	○	総合戦略		担当部署	生涯学習課 生涯学習係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・5・4	公民館学級講座開設事業			3,072千円	1,604千円	2,943 千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶13_心身ともに健全な子どもが育つ家庭や地域の教育力が高いまちになる
	▶14_生涯にわたって学び続けることができ、生きがいと活力に満ちたまちになる
施策の方向	▶1_家庭の教育力回復を図る取組
	▶3_課題解決型の学習活動の促進と人材の育成・活用

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	少年教室、小学校家庭教育学級、女性セミナー、高齢者教室、各公民館独自のオープン講座等において、社会の課題に対応した多種多様な学級講座をライフステージごとに提供する。そして、それぞれの講座の参加者が学習をとおして仲間を作り、体験し、課題を共有し、解決しながら自己実現を目指す。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
公民館学級講座開設事業【重要事業】	
少年少女教室 各公民館担当となる小学校エリアを主軸においた小学生を対象とし、主に体験学習を通して仲間づくり・居場所づくりの場とする。	
小学校家庭教育学級 各公民館が担当する小学校に通う保護者を対象に、家庭教育の向上を目指す講座を開設し、家庭教育の支援や仲間づくりの場とする。	
女性セミナー 各公民館が担当となる地域住民の特に女性を対象とした学級講座を開設し、地域課題の解決や仲間づくりの場とする。	
高齢者教室 各公民館が担当となる地域住民の特に高齢者を対象とした学級講座を開設し、健康づくりや生きがいづくり、仲間づくりの場とする。	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		少年少女教室の開催 小学校家庭教育学級の開催 女性セミナーの開催 高齢者教室の開催 各種学級講座の開催	少年少女教室の開催 小学校家庭教育学級の開催 女性セミナーの開催 高齢者教室の開催 各種学級講座の開催	少年少女教室の開催 小学校家庭教育学級の開催 女性セミナーの開催 高齢者教室の開催 各種学級講座の開催
	事業費	2,943	3,300	3,300
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	2,943	3,300	3,300

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	学級講座数	95	目標値	97	97	98	99	100
		単位：学級	実績値	86				
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	2,943 千円	令和3年度決算額	1,829 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	小学校家庭教育学級 令和元年度：延べ1,156人参加 令和2年度：延べ 495人参加 令和3年度：延べ 706人参加 少年少女教室 令和元年度：延べ1,697人参加 令和2年度：延べ 582人参加 令和3年度：延べ 964人参加 女性セミナー 令和元年度：延べ2,542人参加 令和2年度：延べ1,365人参加 令和3年度：延べ1,526人参加 高齢者教室 令和元年度：延べ3,478人参加 令和2年度：延べ1,859人参加 令和3年度：延べ2,027人参加			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	小学校家庭教育学級は、子育て中の心配事や疑問点について学級講座を通じて学級生同士が情報交換し、仲間づくりをすることによりその悩みや課題を解決する糸口となっている。その他の学級講座等についても、事業等を通じてライフステージごとの悩みを仲間と共有し、その解決策を仲間とともに図り、生涯学習をととした学びが、地域社会の一員としてまちづくりや生きがいの一助となっている。
課題	公民館だより、市のホームページ等で学級講座生の募集を図っているが、各学級講座とも、学級生の確保が難しくなかなか人数が集まらない。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	各公民館地域ごとの開催や老若男女を対象としていることにより、地域コミュニティの形成に大きな役割を持っているため。
令和5年度事業計画	小学校家庭教育学級 少年少女教室 女性セミナー 高齢者教室 各公民館自主事業（オープン参加）
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	176	重要事業	総合戦略	担当部署	生涯学習課 生涯学習係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)
10・5・1	社会教育総務		5,659千円	15,982千円	5,929千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶14_生涯にわたって学び続けることができ、生きがいと活力に満ちたまちになる
施策の方向	▶1_生涯学習理念の普及啓発

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	社会教育委員会議において、本市の社会教育に関する事業を精査し、新たな課題の洗いだしや事業の推進を図るほか、社会教育団体への財政支援をとおして、各団体がまちづくりの中核を担えるよう支援をする。
----------------	---

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

社会教育委員会議	社会教育委員会議の開催・研修会の参加への啓発を行う。
社会教育功労者表彰	館林市教育委員会の表彰規定により、社会教育功労者の表彰式の開催する。
社会教育主事資格取得講習へ派遣する。	
社会教育団体補助	社会教育4団体への事務局として支援・協力及び補助金の交付を行う。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
事業 スケジュール	社会教育委員会議 社会教育功労者表彰 社会教育主事資格取得 社会教育団体補助・支援		社会教育委員会議 社会教育功労者表彰 社会教育主事資格取得 社会教育団体補助・支援	社会教育委員会議 社会教育功労者表彰 社会教育主事資格取得 社会教育団体補助・支援	
	事業費	5,929	5,929	5,929	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
その他		0	0	0	
	一般財源	5,929	5,929	5,929	

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	社会教育委員会議の開催数	2	目標値	2	2	2	2	2
		単位：回	実績値	1				
活動指標	社会教育団体補助団体数	4	目標値	4	4	4	4	4
		単位：団体	実績値	4				
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	5,929 千円	令和3年度決算額	5,438 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	社会教育委員会議 令和元年度：2回延べ24人 令和2年度：2回延べ24人 令和3年度：1回延べ11人 社会教育功労者表彰 令和元年度：被表彰者個人18 令和2年度：被表彰者個人21・団体2 令和3年度：被表彰者個人7・団体1 社会教育主事資格取得講習 各年：1人（令和2年度：0人） 社会教育団体補助 館林市婦人会連絡協議会：各年180,000円 館林市小中学校PTA連合会：各年200,000円 館林ユネスコ協会：各年30,000円 生涯学習館林市民の会：各年180,000円			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	C					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	社会教育委員会議において、本市の社会教育の方向性が精査されており、社会教育功労者表彰式では、他の見本となる被表彰者への感謝と努力をたたえる場となり、社会教育分野の活動者の励みとなっている。特に社会教育団体の活動は、多様な社会活動のつながりと学習意欲を高め、社会教育だけでなく生涯学習社会を牽引している。					
課題	社会教育活動団体において、新型コロナウイルス感染症の影響により、活動ができない状況が長引いたことより、会員の意欲の低下も起因し会員数が減少するなど、今後の活動への影響が懸念される。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）					
	社会教育委員のほか社会教育関係機関と、館林市第6次総合計画、館林市教育大綱に基づく事業を協議し計画を推進していく。社会教育団体を育成指導することは、まちづくりの中核を担う指導者や活動に直結しているため、今後も組織活性化のため育成指導に努める。					
令和5年度事業計画	社会教育委員会議等の実施 社会教育功労者表彰式の開催 社会教育主事資格取得講習への派遣 社会教育団体補助					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	※前年度比較		
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	177	重要事業	総合戦略	担当部署	生涯学習課 生涯学習係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)
10・5・1	生涯学習推進事業		1,260千円	150千円	1,277千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶14_生涯にわたって学び続けることができ、生きがいと活力に満ちたまちになる
施策の方向	▶1_生涯学習理念の普及啓発

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	生涯学習社会の実現のため、学ぶよろこびや豊かな心を育むまちを目指し、生涯学習意欲の喚起や生涯学習需要にこたえるため、生涯学習情報紙「まなびい」・ふるさとづくり市民フェスティバルを開催し、個人の学びを夢や希望、生きがいを膨らませる成果の場とすることを目的とする。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
<p>ふるさとづくり市民フェスティバル 生涯学習活動をしている個人や団体を対象に多くの人の参加を促し、実行委員会体制で学習したことの成果発表の場、市民交流の場として開催する。</p> <p>生涯学習情報紙「まなびい」 市民の誰もが、生涯のうちのいつでもどこでも学ぶ機会が得られるよう、学習情報紙を発行し提供する。また学習者が講師となって学びの社会還元ができる体制づくりを構築する。</p> <p>ふるさとづくり出前講座 広く市民の学習機会に、本市が発信したい情報をメニューとして掲げ、提供、啓発の機会とする。</p>	

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	ふるさとづくり市民フェスティバル 生涯学習情報紙「まなびい」の発行 ふるさとづくり出前講座		ふるさとづくり市民フェスティバル 生涯学習情報紙「まなびい」の発行 ふるさとづくり出前講座	ふるさとづくり市民フェスティバル 生涯学習情報紙「まなびい」の発行 ふるさとづくり出前講座
	事業費	1,277	1,277	1,277
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	1,277	1,277	1,277

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度					
			R3	R4	R5	R6	R7	
活動指標	ふるさとづくり出前講座の回数	198	目標値	198	199	199	200	200
		単位：回	実績値	95				
活動指標			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	1,277 千円	令和3年度決算額	159 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	ふるさとづくり市民フェスティバル 令和元年度：延べ 9,853人参加 令和2年度：中止 令和3年度：中止 生涯学習情報紙「まなびい」・ふるさとづくり出前講座 令和元年度：198回延べ9,179人 令和2年度：80回延べ2,977人 令和3年度：95回延べ4,275人			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D			
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている
評価根拠	ふるさとづくり市民フェスティバルは、中止となってしまったものの、生涯学習の循環においては、重要な事業である。 生涯学習情報紙「まなびい」やふるさとづくり出前講座においては、ニーズも多く、市民の学ぶ意欲に応えると同時に、市の伝えたい情報を学びにつなぐ場となっている。			
課題	「ふるさとづくり市民フェスティバル」は実行委員会を組織しており、その実行委員が主体となって計画・立案・講師選定等を行っている。実行委員はボランティアで行っている。実行委員の高齢化や参加者の減少などの問題を抱えている。 まなびい情報に登録いただいているボランティア講師の登録者が、減少傾向にあり、ニーズに応えられない状態がある。			
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)			
	生涯学習社会の実現のため、学びたい人が、学びたい時に、学びたい内容の学習機会を提供できる学習相談の体制づくりが必要。また、学んだ成果を発表する場を設けることにより達成感や充足感より学習意欲の向上を図り、その学びの連鎖が地域課題の解決につながると考えるため。			
令和5年度事業計画	ふるさとづくり市民フェスティバル 生涯学習情報紙「まなびい」 ふるさとづくり出前講座 両毛広域生涯学習ネットワーク推進			
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	※前年度比較
備考				

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	178	重要事業		総合戦略		担当部署	生涯学習課 生涯学習係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・5・1	社会教育活動促進事業 (市民大学講座)			3,000千円	3千円	3,000千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶14_生涯にわたって学び続けることができ、生きがいと活力に満ちたまちになる
施策の方向	▶4_多様化する学習ニーズへの対応と個性に応じた学びの場の創出

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	「市民大学講座」を開催し、各分野で活躍している方々を講師として招き、その経験や知識を通して、現代社会における様々な必要課題への市民の学習意欲を高めることを目的としている。全5回開催。
----------------	---

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

市民大学講座の開催 現代的課題や学習ニーズを捉え、高度な学習機会、市民の学習意欲を高める場として、年5回を実行委員会に委託する。	
---	--

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	市民大学講座の開催		市民大学講座の開催	市民大学講座の開催
	事業費	3,000	3,000	3,000
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	1,500	1,500	1,500
	一般財源	1,500	1,500	1,500

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	参加者延べ人数	目標値	1,763	1,697	1,631	1,566	1,500
		実績値	0				
	単位：	目標値					
		実績値					
	単位：	目標値					
		実績値					
	単位：	目標値					
		実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	3,000 千円	令和3年度決算額	197 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	市民大学講座 平成元年度：延べ1,894人参加 令和2年度：中止 令和3年度：中止			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	新型コロナウイルスの影響により、2年連続し中止となつてはいるものの、各分野で活躍している著名人を招き開催してきた本講座は、申込者に対する当日出席者の割合が高い数字を示すほどニーズがあり、市民の学習意欲に答えている。また実行委員会での主体的活動により開催されていることも評価できる。					
課題	「市民大学講座」は実行委員会を組織しており、その実行委員が主体となって計画・立案・講師選定等を行っている。実行委員はボランティアで行っている。その実行委員について、会員不足、高齢化などの問題を抱えている。また、コロナ禍での開催方法が大きな問題となっている。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	「生きるということ」をテーマに各分野で活躍している著名人を招き開催し、毎年申込者に対する当日出席者の割合は高い数字を示している。今後も、市民の学習ニーズや社会問題を的確にとらえた講座を開催し、参加者の知的欲求を満たす教育活動を推進していく。					
令和5年度事業計画	市民大学講座（全5回）					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	179	重要事業	○	総合戦略		担当部署	生涯学習課 生涯学習係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・5・4	公民館運営			128,899千円	143,739千円	138,873千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶14_生涯にわたって学び続けることができ、生きがいと活力に満ちたまちになる
施策の方向	▶5_生涯学習・社会教育施設の適正な維持更新と機能充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	公民館は、実生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、住民の教養の向上、健康の管理、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
公民館活動推進委員会 各公民館において、公民館活動推進委員会を開催し、公民館の運営方針の決定や地域活動の情報交換の場とする。	
公民館改修工事【重要事業】 郷谷公民館2階講堂等空調設備改修工事 分福公民館南面外壁改修工事 城沼公民館1階ホール等空調設備改修工事 城沼公民館高圧気中開閉器等取替工事	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	公民館活動推進委員会 公民館修繕・工事【重】		公民館活動推進委員会 公民館修繕・工事【重】	公民館活動推進委員会 公民館修繕・工事【重】
事業費		138,873	150,000	150,000
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	16,800		
	一般財源	122,073	150,000	150,000

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	公民館活動推進委員会議の開催	22	目標値	22	22	22	22	22
		単位：回	実績値	22				
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	138,873 千円	令和3年度決算額	141,225 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	主な工事 令和元年度：22,494,220円（城沼公民館(2階)空調設備改修工事ほか） 令和2年度：28,365,700円（赤羽公民館講堂空調改修工事ほか） 15,466,220円（コロナ対策工事：トイレ自動水栓化、Wi-Fi設置工事ほか） 令和3年度：27,284,400円（城沼公民館1階ホール等空調設備改修工事ほか）			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	地域コミュニティの拠点として公民館が運営されており、住民の教養の向上、健康の管理、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進が図られている。					
課題	建築後25年以上経過した施設が大半を占めており、館の老朽化に伴う修繕、工事が急激に増大していると同時に、利用者に対しても不便をかけるような状況も度々発生しているのが実情である。 また、少子高齢化に起因した各世代における各学級講座等の運営方法、各公民館同士の連携協力が必要である。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）					
令和5年度事業計画	公民館空調改修工事、エレベーター改修工事ほか					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	180	重要事業	○	総合戦略		担当部署	生涯学習課 生涯学習係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・5・4	公民館学級講座開設事業			3,072千円	1,604千円	2,943千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶13_心身ともに健全な子どもが育つ家庭や地域の教育力が高いまちになる
	▶14_生涯にわたって学び続けることができ、生きがいと活力に満ちたまちになる
施策の方向	▶1_家庭の教育力回復を図る取組
	▶3_課題解決型の学習活動の促進と人材の育成・活用

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	少年教室、小学校家庭教育学級、女性セミナー、高齢者教室、各公民館独自のオープン講座等において、社会の課題に対応した多種多様な学級講座をライフステージごとに提供する。そして、それぞれの講座の参加者が学習をとおして仲間を作り、体験し、課題を共有し、解決しながら自己実現を目指す。
----------------	---

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
公民館学級講座開設事業【重要事業】	
少年少女教室	各公民館担当となる小学校エリアを主軸においた小学生を対象とし、主に体験学習を通して仲間づくり・居場所づくりの場とする。
小学校家庭教育学級	各公民館が担当する小学校に通う保護者を対象に、家庭教育の向上を目指す講座を開設し、家庭教育の支援や仲間づくりの場とする。
女性セミナー	各公民館が担当となる地域住民の特に女性を対象とした学級講座を開設し、地域課題の解決や仲間づくりの場とする。
高齢者教室	各公民館が担当となる地域住民の特に高齢者を対象とした学級講座を開設し、健康づくりや生きがいづくり、仲間づく

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	公民館学級講座開設事業【重】	公民館学級講座開設事業【重】	公民館学級講座開設事業【重】	公民館学級講座開設事業【重】
	少年少女教室の開催	少年少女教室の開催	少年少女教室の開催	少年少女教室の開催
	小学校家庭教育学級の開催	小学校家庭教育学級の開催	小学校家庭教育学級の開催	小学校家庭教育学級の開催
	女性セミナーの開催	女性セミナーの開催	女性セミナーの開催	女性セミナーの開催
	高齢者教室の開催	高齢者教室の開催	高齢者教室の開催	高齢者教室の開催
事業費		2,943	3,300	3,300
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	2,943	3,300	3,300

【関連する指標】

活動指標	指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
学級講座数		95	目標値	97	97	98	99	100
	単位：学級		実績値	86				
			目標値					
	単位：		実績値					
			目標値					
	単位：		実績値					
			目標値					
	単位：		実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	2,943 千円	令和3年度決算額	1,829 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	少年少女教室 令和元年度：延べ1,697人参加 令和2年度：延べ 582人参加 令和3年度：延べ 964人参加 小学校家庭教育学級 令和元年度：延べ1,156人参加 令和2年度：延べ 495人参加 令和3年度：延べ 706人参加 女性セミナー 令和元年度：延べ2,542人参加 令和2年度：延べ1,365人参加 令和3年度：延べ1,526人参加 高齢者教室 令和元年度：延べ3,478人参加 令和2年度：延べ1,859人参加 令和3年度：延べ2,027人参加			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D					
事業の 必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進にお いて不可欠な事業で ある	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与 している事業であ る	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有 無について検討の余地がある
事業の 有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得ら れている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の 効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水 準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果 が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	小学校家庭教育学級は、子育て中の心配事や疑問点について学級講座を通じて学級生同士が情報交換し、仲間づくりをすることによりその悩みや課題を解決する糸口となっている。その他の学級講座等についても、事業等を通じてライフステージごとの悩みを仲間と共有し、その解決策を仲間とともに図り、生涯学習をおとした学びが、地域社会の一員としてまちづくりや生きがいの一助となっている。					
課題	公民館だより、市のホームページ等で学級講座生の募集を図っているが、各学級講座とも、学級生の確保が難しくなかなか人数が集まらない。					
【Action】 今後の 方向性 ・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
令和5年 度事業計 画	小学校家庭教育学級 少年少女教室 女性セミナー 高齢者教室 各公民館自主事業（オープン参加）					
予算規模 見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	※前年度比較		
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	181	重要事業	総合戦略	担当部署	生涯学習課 生涯学習係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)
10・5・4	ふれあい稲作体験事業		520千円	520千円	520千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶14_生涯にわたって学び続けることができ、生きがいと活力に満ちたまちになる
施策の方向	▶4_多様化する学習ニーズへの対応と個性に応じた学びの場の創出

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	農業が盛んな館林市に育つ子どもたちも、普段何気なく主食としている米が、どのように生産されるかを知らない状況にある。このことから、田植えや稲刈り等の米作りを体験し、農家の米作りに対する工夫や努力、そして食文化や自然を学ぶ。併せて親子のふれあいや地域とのふれあいの場とする。中部公民館、大島公民館、三野谷公民館、分福公民館の4館にて実施。
----------------	---

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

稲作体験事業	<p>4学級を開設（中部・大島・三野谷・分福）し、事前学習、生育観察、田植え・稲刈り体験、かかし作り、収穫祭、野菜作りをとおして、農業を学ぶ機会のほか、親子や住民の交流の場とする。</p>
--------	--

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業スケジュール	4学級開催		4学級開催	4学級開催
	事業費	520	520	520
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	520	520	520

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	参加者延べ人数	1,318	目標値	1,279	1,259	1,240	1,220	1,200
		単位：人	実績値	1,189				
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	520 千円	令和3年度決算額	520 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	4学級 令和元年度：延べ1,318人 令和2年度：延べ 825人 令和3年度：延べ1,189人			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	B					
事業の 必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進におい て不可欠な事業で ある	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与 している事業であ る	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有 無について検討の余地がある
事業の 有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得ら れている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の 効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水 準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果 が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	地域ボランティア指導者のもと、田起こしから田植え、稲刈り、脱穀等一連の作業について米作りの事前学習 や、米作りの実際の体験をすることは農業を理解するにはこの上ない体験学習の機会である。また収穫祭を実施し、 自分で収穫した米を食べるということは、食べ物を育てる大変さを実感すると同時に充実感を学ぶこと のできる貴重な体験学習であるため。					
課題	農業体験には、地域の指導者・協力者が必要不可欠であるが、今後、高齢化による指導者不足が予測されるため、 新たな運営について研究していく必要がある。					
【Action】 今後の 方向性 ・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
令和5年 度事業計 画	中部公民館「わんぱく米づくり隊」 大島公民館「おおしまむら★米作りにチャレンジ!!」 三野谷公民館「七小ふれあい稲作体験事業」 分福公民館「分福ふれあい稲作体験教室こめこめクラブ」					
予算規模 見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	182	重要事業	総合戦略	担当部署	向井千秋記念子ども科学館 事業係
款・項・目	事業名		当初予算額(R2)	決算額(R2)	当初予算額(R3)
10・5・10	向井千秋記念子ども科学館運営		96,624千円	82,612千円	99,319千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶14_生涯にわたって学び続けることができ生きがいと活力に満ちたまちになる
施策の方向	▶1_生涯学習理念の普及啓発
施策の方向	▶2_生涯学習情報提供・相談体制の充実
施策の方向	▶3_課題解決型の学習活動の促進と人材の育成・活用
施策の方向	▶4_多様化する学習ニーズへの対応と個性に応じた学びの場の創出
施策の方向	▶5_生涯学習・社会教育施設の適正な維持更新と機能充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	設備、展示物等の維持管理に努め、適切な施設運営を図る。 常設展示、プラネタリウムの投影、各種講座等を実施し、青少年の科学への興味・関心を高め、豊かな創造性を育む。
令和3年度事業計画(主要な事業とその取組内容)	
<ul style="list-style-type: none"> ○常設展示(通年) ○プラネタリウム投影(通年) ○各種講座 <ul style="list-style-type: none"> ・夜間天体観望会(年12回(特別天体観望会含む)) ・サイエンスショー(年24回) ・科学講座(年10回) ・親子いきもの探検隊(年8回) ・公開天文台(年5回) ・理科工作教室(年8回) ・科学クラブ(年10回) ・プログラミング関連講座(年11回)他 	

【事業スケジュール】

(単位：千円)

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
事業 スケジュール	事業	<ul style="list-style-type: none"> ○常設展示(通年) ○プラネタリウム投影(通年) ○各種講座 <ul style="list-style-type: none"> ・夜間天体観望会(年12回(特別天体観望会含む)) ・公開天文台(年5回) ・サイエンスショー(年24回) ・理科工作教室(年8回) ・科学講座(年10回) ・科学クラブ(年10回) ・親子いきもの探検隊(年8回) ・プログラミング関連講座(年11回)他 	<ul style="list-style-type: none"> ○常設展示(通年) ○プラネタリウム投影(通年) ○各種講座 <ul style="list-style-type: none"> ・夜間天体観望会(年12回(特別天体観望会含む)) ・公開天文台(年5回) ・サイエンスショー(年24回) ・理科工作教室(年8回) ・科学講座(年10回) ・科学クラブ(年10回) ・親子いきもの探検隊(年8回) ・プログラミング関連講座(年11回)他 	<ul style="list-style-type: none"> ○常設展示(通年) ○プラネタリウム投影(通年) ○各種講座 <ul style="list-style-type: none"> ・夜間天体観望会(年12回(特別天体観望会含む)) ・公開天文台(年5回) ・サイエンスショー(年24回) ・理科工作教室(年8回) ・科学講座(年10回) ・科学クラブ(年10回) ・親子いきもの探検隊(年8回) ・プログラミング関連講座(年11回)他 	
	事業費	99,319	99,319	99,319	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
その他		0	0	0	
	一般財源	99,319	99,319	99,319	

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画 指標	向井千秋記念子ども科学館利用者数 (入館者)	目標値	63,875	64,406	64,937	65,469	66,000
		実績値	36,583				
総合計画 指標	向井千秋記念子ども科学館利用者数 (観覧者)	目標値	25,671	26,003	26,335	26,668	27,000
		実績値	16,291				
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	99,319 千円	令和3年度決算額	89,447 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	○入館者数	R1: 52,961人	R2: 22,986人	R3: 36,583人
	○プラネタリウム観覧者数	R1: 22,558人	R2: 10,599人	R3: 16,291人
	○使用料収入	R1: 9,949,180円	R2: 4,757,570円	R3: 8,559,060円
	○各種講座			
	・夜間天体観望会 (特別天体観望会含む)	R1: 11回 939人	R2: 8回 289人	R3: 7回 274人
	・公開天文台	R1: 7回 345人	R2: 1回 39人	R3: 1回 36人
	・サイエンスショー	R1: 19回 1,312人	R2: 14回 313人	R3: 13回 354人
	・理科工作教室	R1: 7回 1,564人	R2: 4回 161人	R3: 3回 173人
	・科学講座	R1: 8回 208人	R2: 3回 66人	R3: 6回 99人
	・科学クラブ	R1: 10回 1,370人	R2: 24回 509人	R3: 30回 558人
・親子いきもの探検隊	R1: 10回 155人	R2: 6回 93人	R3: 7回 99人	
・プログラミング関連講座	R1: 9回 145人	R2: 6回 81人	R3: 7回 89人	

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D			
事業の 必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進におい て不可欠な事業で ある	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与 している事業であ る
事業の 有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得ら れている
事業の 効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水 準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果 が得られている
評価根拠	コロナ禍において、開館時間の短縮やプラネタリウムの投影回数削減等があったため低調ではあるが、次第に回復傾向にあり、各種講座においては参加者の募集枠がすぐに埋まるなどニーズは高く、事業の効果は出ている。			
課題	ウィズコロナ時代に対応した、適切な施設の維持管理や展示物の更新、見せ方の工夫などを検討する他、デジタルプラネタリウムを生かした番組の選択、話題性のある企画展の開催など、利用者拡大や満足度向上につながる事業展開を図っていく必要がある。また、各種講座においても小中学校の理科教員をはじめ、高校や大学、企業とも連携を密にし、内容の充実や参加者の満足度向上のため、講師の確保や新規講座の開発に努める必要がある。			
【Action】 今後の 方向性 ・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)			
	引き続きコストの削減と労力の軽減を図りながら、ウィズコロナ、アフターコロナに即した事業運営を検討し、入館者増のため話題性・適時性のある事業を導入していく必要があるため。			
令和5年 度事業計 画	○常設展示(通年) ○プラネタリウム投影(通年) ○各種講座 ・夜間天体観望会(年12回(特別天体観望会含む)) ・公開天文台(年5回) ・サイエンスショー(年24回) ・理科工作教室(年8回) ・科学講座(年10回) ・科学クラブ(年10回) ・親子いきもの探検隊(年8回) ・プログラミング関連講座(年11回)他			
予算規模 見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較			
備考				

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	183	重要事業	総合戦略	担当部署	向井千秋記念子ども科学館 事業係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)
10・5・10	向井千秋記念子ども科学館特別企画事業		618 千円	103 千円	1,000 千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶14_生涯にわたって学び続けることができ、生きがいと活力に満ちたまちになる
施策の方向	▶1_生涯学習理念の普及啓発

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	開館30周年記念事業を実施し、科学館に求められているもの、進むべき報告について探り、地域に根差した科学館としてより一層の事業内容の満足度向上を図る。また、宇宙でのミッションが予定されている日本人宇宙飛行士と引き続き探査が続く「はやぶさ2」をはじめとした日本の宇宙探査について紹介する事業を実施する。
----------------	---

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- 開館30周年記念事業
 - ・開館30周年記念講演会
 - ・科学館の歩み写真展
 - ・クイズラリー
- 小惑星探査機「はやぶさ2」帰還カプセル巡回展
 - ・帰還カプセルの実機展示
 - ・「はやぶさ2」実物大模型展示
 - ・プラネタリウム特別投影
- プラネタリウムヒーリング「星月夜★宙がたり ～星座生解説と朗読とピアノのひととき～」
- 全国科学館連携協議会巡回展
 - ・「環境DNA博士と水辺の生き物を調査せよ！」
 - ・「錯視」で生活に潤いを
 - ・「いのちってなに？」
 - ・「急変する北極が世界にもたらす影響と日本の北極研究の取組み」

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		○開館30周年記念事業 ○小惑星探査機「はやぶさ2」 帰還カプセル巡回展 ○プラネタリウムヒーリング 「星月夜★宙がたり ～星座生解説と朗読と ピアノのひととき～」 ○全国科学館連携協議会巡回展	○星空生解説「爆笑！ 星兄プラネタリウムショー」 ○全国科学館連携協議会巡回展 ○国立科学博物館巡回展 ○国立天文台パネル展 ○プラネタリウムヒーリング	○全国科学館連携協議会巡回展 ○プラネタリウムヒーリング ○企画展「里沼」 ○宇宙に関する講演会
事業費		1,000	345	345
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	1,000	345	345

【関連する指標】

総合計画 指標	指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
総合計画 指標	向井千秋記念子ども科学館利用者数 (入館者)	62,812	目標値	63,875	64,406	64,937	65,469	66,000
		単位：人	実績値	36,583				
総合計画 指標	向井千秋記念子ども科学館利用者数 (観覧者)	25,006	目標値	25,671	26,003	26,335	26,668	27,000
		単位：人	実績値	16,291				
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	1,000 千円	令和3年度決算額	2,876 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	○開館30周年記念事業 科学館の歩み写真展 12,541人 クイズラリー 3,673人 ○小惑星探査機「はやぶさ2」帰還カプセル巡回展 帰還カプセルの実機&「はやぶさ2」実物大模型展示 2,735人 プラネタリウム特別投影 1,357人			
	企画展 R1: 23,896人 R2: 15,228人 R3: 5,876人 巡回展 R1: 36,842人 R2: 38,225人 R3: 34,957人 講演会 R1: 52人 R2: 65人 R3: 155人 プラネタリウムヒーリング R1: 120人 R2: 43人 R3: 111人			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D					
事業の必要性	<input type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input checked="" type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	開館30周年記念事業や「はやぶさ2」帰還カプセル巡回展といった話題性のある企画により、常設展示の更新がなかなか進められない中、新規の来館者獲得やリピーターを呼び込む原動力となった。					
課題	引き続き、話題性、適時性のある事業を企画し、常設展示やプラネタリウム投影を補完し利用者拡大につなげていく必要がある。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	開館30周年記念事業や「はやぶさ2」帰還カプセル巡回展といった特別な事業がなくなり、規模を縮小しながらも新たな話題性、適時性のある事業を企画・実施する。					
令和5年度事業計画	宇宙や身近な科学をテーマとした企画展等の実施					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	184	重要事業	○	総合戦略		担当部署	向井千秋記念子ども科学館 事業係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・5・10	向井千秋記念子ども科学館ROCKET事業			3,875 千円	3,709 千円	3,874 千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
	▶14_生涯にわたって学び続けることができ、生きがいと活力に満ちたまちになる
施策の方向	▶2_夢と希望の実現に向けた支援の充実
	▶4_確かな学力と豊かな心を育む教育の推進
	▶1_生涯学習理念の普及啓発

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	<p>東京大学のROCKET事業と連携し、「個性は可能性」という考えのもと、現状の教育環境に馴染めない子どもたちに、新しい学びの場を提供し、個性にあった支援を行う。</p> <p>加えて、ROCKETの学びを活かした「里沼 (SATO-NUMA) プログラム」を開発し、本市の特色を生かしたROCKETプロジェクトの推進を図る。</p>
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
<p>○ROCKETの学びを活かした「里沼 (SATO-NUMA) プログラム」の実施（6回） <small>科学クラブに「里沼チーム」を新設（オリエンテーション1回、Balloon[®] ougham 3回、Submarine[®] ougham 2回）</small></p> <p>○ROCKETの学びを活かした個別支援の実施（タブレット等を活用した学習支援）（通年）</p> <p>○学校（相談室）と連携を密にしたROCKET Labの実施（17回）</p> <p>○トップランナートーク（2回）</p>	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		<ul style="list-style-type: none"> ・里沼 (SATO-NUMA) プログラム <small>(Balloon[®] ougham ・ Submarine[®] ougham)</small> ・タブレット等を活用した学習支援 ・ROCKET Lab ・トップランナートーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・里沼 (SATO-NUMA) プログラム ・タブレット等を活用した学習支援 ・ROCKET Lab ・トップランナートーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・里沼 (SATO-NUMA) プログラム ・タブレット等を活用した学習支援 ・ROCKET Lab ・トップランナートーク
	事業費	3,874	1,308	1,308
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	3,874	1,308	1,308

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画 指標	向井千秋記念子ども科学館利用者数 (入館者)	目標値	63,875	64,406	64,937	65,469	66,000
		実績値	36,583				
総合計画 指標	向井千秋記念子ども科学館利用者数 (観覧者)	目標値	25,671	26,003	26,335	26,668	27,000
		実績値	16,291				
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	3,874 千円	令和3年度決算額	3,750 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	・ Submarineﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	R1: 15人	R2: ー	R3: 35人 (2回)
	・ Balloonﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	R1: 35人 (3回)	R2: 30人 (3回)	R3: 50人 (3回)
	・ ICT等を活用した学習支援	R1: 53人	R2: 63人	R3: 83人
	・ ROCKET Lab	R1: 287人 (14回)	R2: 269人 (13回)	R3: 153人 (17回)
	・ トップランナートーク in館林 (信)	R1: 110人	R2: 15人	R3: 206人 (2回) (動画配 信)

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D					
事業の 必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進におい て不可欠な事業で ある	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与し ている事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有 無について検討の余地がある
事業の 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られ ている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の 効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水 準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が 得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	参加者及び保護者、担当教諭へのアンケートから、「いろいろな人とのコミュニケーションがとれるようになってきた」「自分の出来ることを見つけられた」「家族や先生と話をする機会が増えた」「やりたいことを自分のペースで参加し、活動できて良い」などの回答を得ている。参加者の成長や自立を促す居場所の一つとして機能している。また新規事業の「里沼 (SATO-NUMA) プログラム」においては、アンケートの結果より、館林の新しい発見・さらなる魅力に気づいた子どもが多く見られた。					
課題	連携シートにより、活動の様子を担当等へ情報共有しているが、学校によってはうまく活用されておらず、本事業への周知もまだ不足している状況も見られる。学校や教育委員会各課との連携をさらに深める必要がある。またシビックプライドの醸造は まだ不十分といえ、連続性のあるプログラムによる、長期にわたる研究的な学びの検討も必要である。					
【Action】 今後の 方向性 ・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	東京大学のROCKET事業と連携して行ってきたこれまでの実践を基に、本市の特色を生かした館林ROCKETプロジェクトの推進を図る。					
令和5年 度事業計 画	・ ROCKETの学びを活かした「里沼 (SATO-NUMA) プログラム」の実施 ・ ROCKETの学びを活かした個別支援の実施 (ICT等を活用した学習支援) ・ 学校 (相談室) と連携を密にしたROCKET Labの実施 ・ トップランナートーク など					
予算規模 見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	185	重要事業	総合戦略	担当部署	図書館奉仕係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)
10・5・5	図書館運営		32,876 千円	33,016 千円	37,513 千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶14_生涯にわたって学び続けることができ、生きがいと活力に満ちたまちになる
施策の方向	▶1_生涯学習理念の普及啓発
施策の方向	▶2_生涯学習情報提供・相談体制の充実
施策の方向	▶3_課題解決型の学習活動の促進と人材の育成・活用
施策の方向	▶4_多様化する学習ニーズへの対応と個性に応じた学びの場の創出
施策の方向	▶5_生涯学習・社会教育施設の適正な維持更新と機能充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	生涯学習推進の拠点の一つとして、図書館の充実を図り、住民の学習意欲に応えるような諸事業を実施するとともに、円滑な図書館運営のため、老朽化した施設設備の維持管理、電算システムの運用等を実施する。
----------------	--

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①図書館サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・図書及び視聴覚資料の貸出業務、読書案内等の情報提供、リクエストサービス等の提供、在宅高齢者等への配本、貸出文庫の提供など、充実した図書館サービスを行う。 ・工事や修繕実施や備品更新等により適切な施設管理を行う。 ・ボランティアや学習グループを支援する。
②行事の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・各種行事の開催により住民の学習意欲に応える。 ・ブックスタートをはじめとする子どもが本に親しむ機会を設けることにより、子ども読書活動の推進を図る。
③図書館情報推進	<ul style="list-style-type: none"> ・電算システムを適時更新して、業務の円滑化を図る。
④新型コロナウイルス対応	<ul style="list-style-type: none"> ・消毒等を継続し、新しい生活様式にかなった図書館としていく。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	図書館の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館奉仕・調査相談・相互貸借 ・図書館協議会 ・ボランティアとの協働 ・施設設備の維持管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館奉仕・調査相談・相互貸借 ・図書館協議会 ・ボランティアとの協働 ・施設設備の維持管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館奉仕・調査相談・相互貸借 ・図書館協議会 ・ボランティアとの協働 ・施設設備の維持管理
	図書館行事推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート ・子どもの読書活動の推進 ・各種イベントの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート ・子どもの読書活動の推進 ・各種イベントの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート ・子どもの読書活動の推進 ・各種イベントの開催
	図書館情報事業	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館システムの更新 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館システムの運用、機器更新 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館システムの運用
	新型コロナウイルス感染症対応		新型コロナウイルス感染症対応	新型コロナウイルス感染症対応
事業費		37,513	37,513	37,513
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	37,513	37,513	37,513

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度					
			R3	R4	R5	R6	R7	
総合計画 指標	図書館資料の延べ貸出点数	目標値	227,537	227,858	228,019	228,179	228,340	228,500
		実績値	単位：点	215,510				
		目標値						
		実績値	単位：					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	37,513千円	令和3年度決算額	36,880千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	・開館日数 令和元年度 288日 令和2年度 253日 令和3年度 278日	・利用登録者数 令和元年度 62,321人 令和2年度 62,875人 令和3年度 63,258人	・利用者数 令和元年度 52,460人 令和2年度 40,941人 令和3年度 46,796人	
	・本館貸出し点数 令和元年度 215,042点 令和2年度 175,936点 令和3年度 204,430点	・全館貸出点数 令和元年度 227,537点 令和2年度 186,686点 令和3年度 215,510点		
	・レファレンス件数 令和元年度 4,939件 令和2年度 3,228件 令和3年度 2,975件	・集会行事参加人数 令和元年度 3,714人 令和2年度 1,292人 令和3年度 1,656人		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	貸出点数の目標値は、コロナの影響で達成しなかったが、昨年度より大幅に増加し、一定の成果が得られている。 図書館は生涯学習の推進に不可欠な拠点であるため、図書館運営は不可欠な事業である。					
課題	・ウィズコロナ・アフターコロナ(新しい生活様式)時代に対応した運営および各種事業の実施 ・住民の知的要求を的確に把握するとともに、専門的なレファレンスに応えるための職員の質の向上 ・施設の維持管理					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	新しい生活様式を考慮しながら、「第三次子ども読書活動推進計画」を推進していく。 適切な施設の維持管理につとめ、安全安心な利用の確保と施設の長寿命化を図っていく。					
令和5年度事業計画	図書館の充実 ・図書館奉仕・調査相談・相互貸借 ・図書館協議会 ・ボランティアとの協働 ・施設設備の維持管理(給排水設備更新工事) 図書館行事推進事業 ・ブックスタート ・子どもの読書活動の推進 ・各種イベントの開催 図書館情報事業 ・図書館システムの運用 新しい生活様式へ対応					
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	※前年度比較		
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	186	重要事業		総合戦略		担当部署	図書館奉仕係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・5・5	図書館資料整理事業			13,705 千円	13,363 千円	12,490 千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶14_生涯にわたって学び続けることができ、生きがいと活力に満ちたまちになる
施策の方向	▶2_生涯学習情報提供・相談体制の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	住民の多様な学習ニーズに対応できるよう、蔵書の充実を図る。また、郷土資料の適切な保存管理を行い、郷土の文化を後世に伝える。
----------------	---

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- ①図書館資料整理活用事業
- ・ 図書資料等や法規追録・定期刊行物の購入を行う。
 - ・ 郷土資料の収集や所蔵している貴重な郷土資料の修繕により、本市文化を後世に伝える。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
事業 スケジュール	事業費	12,490	13,604	12,490	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源	12,490	13,604	12,490	

【関連する指標】

総合計画 指標	指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
	図書館資料の延べ貸出点数	227,537	目標値	227,858	228,019	228,179	228,340	228,500
		単位：点	実績値	215,510				
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	12,490 千円	令和3年度決算額	12,468 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書受入れ冊数 <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度 6,161冊 令和2年度 6,706冊 令和3年度 5,984冊 ・ 新聞・雑誌購入点数 <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度 98点 令和2年度 93点 令和3年度 93点 ・ 郷土資料製本 <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度 98冊 令和2年度 51冊 (官報の製本を停止) 令和3年度 43冊 ・ 郷土資料のデジタル化 (令和2年度より) <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度 9点 令和3年度 6点 			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	図書の購入予算、郷土資料の製本の予算とも、前年度より少なかったため、受入れ冊数や製本の冊数は少なくなったが、資料の充実に一定の成果は得られている。また、図書館の基本である蔵書の充実は、不可欠な事業である。					
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の様々なニーズに対応できるよう蔵書の充実に努める ・ 郷土資料の収集整理保存及びその活用 					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	図書館の基本である蔵書の充実に努めるとともに、除籍等も計画的に実施し、利用しやすい環境を整えていく。 また、郷土資料の利用促進のため、群馬県立図書館と連携した資料のデジタル化を進めていく。					
令和5年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書資料等購入 ・ 法規追録・定期刊行物 (新聞・雑誌・官報) の購入 ・ 郷土資料合本製本 ・ 貴重図書修繕 ・ 群馬県立図書館と連携した郷土資料のデジタル化 					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	187	重要事業		総合戦略		担当部署	図書館奉仕係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・5・5	視聴覚教育振興事業			1,931 千円	1,864 千円	1,931 千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶14_生涯にわたって学び続けることができ生きがいと活力に満ちたまちになる
施策の方向	▶2_生涯学習情報提供・相談体制の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	CDやDVD等の視聴覚資料の充実に努めるとともに、その活用を図る。また、視聴覚教育振興事業のため所蔵している16ミリフィルムや機材の活用を図る。
----------------	--

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- ①視聴覚教育振興事業
・視聴覚資料の購入、修繕を行い、貸出や映画会等の開催により活用を図る。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		視聴覚教育振興事業 ・視聴覚資料の購入 ・視聴覚資料の修繕 ・映画会等の開催	視聴覚教育振興事業 ・視聴覚資料の購入 ・視聴覚資料の修繕 ・映画会等の開催	視聴覚教育振興事業 ・視聴覚資料の購入 ・視聴覚資料の修繕 ・映画会等の開催
事業費		1,931	1,931	1,931
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	1,931	1,931	1,931

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画 指標	図書館資料の延べ貸出点数	目標値	227,858	228,019	228,179	228,340	228,500
		実績値	215,510				
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	1,931 千円	令和3年度決算額	1,893 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視聴覚資料所蔵数 <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度 13,193点 令和2年度 13,387点 令和3年度 13,228点 ※不要資料の除籍を行ったための減 ・ 視聴覚資料利用点数 <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度 20,697点 令和2年度 17,145点 令和3年度 18,572点 ・ 映画会参加人数 <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度 81回・1,459人 令和2年度 44回・320人 令和3年度 30回・247人 ・ 団体貸出用視聴覚機材等利用点数 <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度 150点 令和2年度 93点 令和3年度 93点 			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	視聴覚資料（CD、DVD等）の利用は、昨年度から大幅に増加した。映画会は、令和3年度から参加者の少ない子ども向けの映画会は中止とした。大人向けの映画会もコロナの影響で実施回数が減り、参加人数も限定したため参加者数は減ったが、参加者からは好評で、適切な成果が得られている。					
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者のニーズに合った資料の購入 ・ 16ミリ映写機等、視聴覚機材の維持管理 					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）					
	図書館の基本である資料の充実に努めるとともに、除籍等も計画的に実施し、利用しやすい環境を整えていく。 また、団体貸出用の視聴覚機材・視聴覚教材の管理も適切に行っていく。					
令和5年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視聴覚資料の購入 ・ 視聴覚資料の修繕 ・ 映画会等の開催 					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	188	重要事業	○	総合戦略		担当部署	文化振興課 市史編さんセンター
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
2・1・1	市史編さん事業			24,620千円	20,049千円	22,395千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶15_地域の歴史や伝統・芸術や文化に誇りをもち、魅力ある文化を育み、心豊かに暮らせるまちになる
施策の方向	▶3_郷土の歴史文化を学ぶ機会の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	先人たちが伝え残してきた伝統的な文化遺産やその足跡を知り、市民が郷土に愛着と誇りを持ってまちづくりを行うことができるよう、次世代へ残る『館林市史』を刊行する。
----------------	---

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

1. 市史の刊行	①事業概要：『館林市史』16巻ならびに別巻等を刊行し、市民の郷土学習の基礎資料とする。 ②事業内容： (1)別巻「館林の里沼」の刊行 (2)教材版「ぼんちやんと学ぼう館林の歴史」の再版（第2版）
2. 市史資料の調査・研究	①事業概要：市内の古文書・寺社・歴史的建造物等を調査し、市史の基礎資料とする。 ②事業内容： (1)寺社建築調査 (2)仏像・絵馬調査 (3)近代建築調査
3. 市史資料の普及・啓発	①事業概要：市史を活用した講座等を開催し、市民への普及・啓発を図る。 ②事業内容： (1)20周年記念シンポジウムの開催

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
事業 スケジュール	事業費	22,395	21,000	27,000	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
		その他	1,512	1,500	1,500
一般財源		20,883	19,500	25,500	

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
活動指標 『館林市史』及び付属資料の刊行	75	目標値	87.5	91.6	95.8	100	100
	単位：%	実績値	87.5				
活動指標 市史編さんのための資料収集・調査	42	目標値	40	40	40	40	40
	単位：件	実績値	41				
活動指標 『館林市史』普及のための講座実施	27	目標値	15	15	15	15	15
	単位：件	実績値	12				
		目標値					
	単位：	実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	22,395 千円	令和3年度決算額	21,269 千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■ 『館林市史』の刊行 ・ 令和元年度：DVD版「絵図と地図にみる館林」 ・ 令和2年度：別巻「館林の寺社と史料」 ・ 令和3年度：特別編第7巻「館林の文化と芸術」 別巻「館林の里沼」 教材版「ぼんちやんと学ぼう館林の歴史」（再版） 市史20周年記念「館林歴史クイズ」		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	B					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	市史編さん事業は平成13年度に市史編さん委員会（市長が会長）が発足し、基本計画を策定して『館林市史』全16巻ならびに別巻等の刊行が明記されている。『館林市史』は市民の共有財産である歴史・文化遺産を次世代へ残すとともに、館林のまちづくりを行うための政策を導くための基本となるものである。					
課題	平成13年度に発足した市史編さん事業は、令和3年度までに市史の16巻や別巻等を刊行してきた。しかし、20年にわたる編さん事業により本編にまとめきれない内容が増加し、令和4年度以降も別巻（『館林の絵馬』『館林の寺社建築』『館林の仏像』など）を編集する。また、令和6年度に市制施行70周年を迎えることから、それに向けた記念誌作成の準備を行う必要がある（編さん委員会は70周年を目途に解散予定）。さらに、令和5年度には全国的な研究団体である地方史研究協議会主催による研究大会が館林で開催され、事務局としてその運営を行う必要がある。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）					
	刊行計画に基づき市史の刊行を行うとともに、20年にわたる事業のなかで蓄積された歴史資料の管理・活用体制を整え、将来的に公開できるようにし、市内外に向けて市史の成果を公的に活用できるようにする。各種講座や展示、学校教育等との連携も強め、市史の内容を広く普及し、館林市の歴史に多くの市民が誇りをもてるようにし、シビックプライドを醸成する。					
令和5年度事業計画	館林市史別巻『館林の寺社建築』・市史研究『おはらき』などの冊子を編集・発行するとともに、令和6年度の市制施行70周年に向けた記念誌の発行準備を進める。また、地方史研究協議会館林大会の事務局としてその運営を行う。					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	189	重要事業	○	総合戦略	○	担当部署	文化振興課	日本遺産推進係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)		
2・1・1	日本遺産推進事業			32,123千円	29,604千円	31,032千円		

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち ▶Ⅳ_都市と自然が調和し人と産業が躍動する魅力あるまち
施策目的	▶15_地域の歴史や伝統、芸術や文化に誇りをもち、魅力ある文化を育み、心豊かに暮らせるまちになる ▶21_多くの人から愛される活力と魅力あふれるまちになる
施策の方向	▶6_日本遺産を活用した地域の魅力発信や環境整備 ▶1_観光資源の創出と活用

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	本市に存在する文化・歴史と観光・産業等を融合させ、令和元年度文化庁日本遺産に認定された「里沼(SATO-NUMA)」を地域活性化や外国人インバウンド等の向上につなげる。「里沼」ストーリーと地域に点在する構成文化財のもつ価値・意義を市民に伝えることにより、シビックプライド醸成による地域活性化、観光・インバウンド増加による経済効果を目的とする。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
1. 日本遺産推進事業	
①事業概要：「日本遺産」認定後の推進組織の運営及び、地域活性化計画に位置付けられた各種事業の展開を推進する。歴史や文化財と、本市に存在する観光や産業などを融合させ、郷土愛(シビックプライド)の醸成による地域振興や国内外からの来訪者による交流人口、定住者を含めた関係人口の増加を目指す。	
②事業内容：	
(1)「里沼」の調査・研究・普及・啓発 →(A)調査・研究事業の実施 (B)普及・啓発事業の実施 (C)先進地事例の視察、外部研修会等への参加 (D)展示会・PRイベント等の開催	
(2)里沼シティプロモーション →(A)群馬ダイヤモンドベガサス連携事業 (B)インターネットを活用した情報発信	
2. 「里沼」体感！ワークショップ事業	
①事業概要：「里沼」を活かしたワークショップを具体的に展開し、本市の魅力向上やコト消費の充実につなげる。	
②事業内容：	
(1)「里沼」題材の各種ワークショップの開催 →(A)地域プレイヤーと連携したワークショップ実施 (2)里沼カヌー・カヤック講座の開講 →(A)(B)里沼カヌー・カヤック講座・体験会実施 (C)城沼水面利用ルール策定・届出制度運用 (3)体験型プログラム創出を目的とした調査・検討 →(A)新ワークショッププログラム創出のための検討	
3. 日本遺産推進協議会等支援事業	
①事業概要：日本遺産推進事業と同じ (*日本遺産「里沼」地域活性化計画に位置付けた協議会事業[令和元～6年度])	
②事業内容：	
(1)館林市「日本遺産」推進協議会事務局 →(A)館林市「日本遺産」推進協議会の運営 (B)文化庁補助事業の執行 (C)スマベーション連絡協議会の運営 (D)推進協議会補助金・貸付金の管理 (2)経済部局と連携した文化庁補助事業の実施→(A)日本遺産及び「里沼」ロゴ許認可事務 (B)庁内タスクフォース会議への参加と関係課調整	

【事業スケジュール】

(単位：千円)

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
事業 スケジュール	日本遺産推進事業 ・「里沼」の調査・研究・普及・啓発 ・「里沼」体感！ワークショップ事業 ・「里沼」題材の各種WSの開催 ・里沼カヌー・カヤック講座の開講 ・体験型プログラム創出を目的とした調査・検討 日本遺産推進協議会等支援事業 ・経済部局(商工課・観光課)と連携した文化庁補助事業の実施 ・館林市「日本遺産」推進協議会事務局	日本遺産推進事業 ・「里沼」の調査・研究・普及・啓発 ・里沼シティプロモーション ・「里沼」体感！ワークショップ事業 ・「里沼」題材の各種WSの開催 ・里沼カヌー・カヤック講座の開講 ・体験型プログラム創出を目的とした調査・検討 日本遺産推進協議会等支援事業 ・経済部局(商工課・観光課)と連携した推進協議会事業の実施 ・館林市「日本遺産」推進協議会事務局	日本遺産推進事業 ・「里沼」の調査・研究・普及・啓発 ・里沼シティプロモーション ・「里沼」体感！ワークショップ事業 ・「里沼」題材の各種WSの開催 ・里沼カヌー・カヤック講座の開講 ・体験型プログラム創出を目的とした調査・検討 日本遺産推進協議会等支援事業 ・経済部局(商工課・観光課)と連携した推進協議会事業の実施 ・館林市「日本遺産」推進協議会事務局	日本遺産推進事業 ・「里沼」の調査・研究・普及・啓発 ・里沼シティプロモーション ・「里沼」体感！ワークショップ事業 ・「里沼」題材の各種WSの開催 ・里沼カヌー・カヤック講座の開講 ・体験型プログラム創出を目的とした調査・検討 日本遺産推進協議会等支援事業 ・経済部局(商工課・観光課)と連携した推進協議会事業の実施 ・館林市「日本遺産」推進協議会事務局	
	事業費	31,032	26,000	26,000	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
その他		0	0	0	
	一般財源	31,032	26,000	26,000	

【関連する指標】

活動指標	指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	小・中学生における日本遺産「里沼」の認知度	0	目標値	63.0	66.0	68.0	70.0	73.0
		単位：%	実績値	61.6				
活動指標	日本遺産「里沼」関連で開発された商品・サービス数	0	目標値	20	25	28	30	32
		単位：件	実績値	34				
活動指標	日本遺産への協力件数(市民・ガイド団体+民間事業者等)	8	目標値	25	30	32	33	35
		単位：件	実績値	735				
活動指標	観光客入込み数	150	目標値	189	196	200	200	200
		単位：万人	実績値	50				

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	31,032 千円	令和3年度決算額	29,280 千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	<p>【平成30年度】《文化振興課にて申請事務。6月補正にて商工費⇒総務費へ組替え》平成30年度末までに文化庁(3回)、県(2回)との協議、先進地視察(桐生市・宇都宮市・足利市・行田市)、PR活動・アンケート調査(武鷹館つつじまつり、市民講座等)、ワークショップ(中部公民館歴史散策講座)、異才発掘ROCKETプロジェクトにおける講座等を実施。申請事務を進めるとともに、地域の魅力を掘り起こし、地元住民へ伝える取組みを推進。日本遺産を通じた地域活性化計画(まちづくり計画)も併せて作成。文化財係で進める歴史文化基本構想策定の補助も行う。(平成30年12月策定済)※日本遺産については、平成31年1月23日に文化庁へ申請</p> <p>【平成31年・令和元年度】《引続き文化振興課にて事務実施》4月24日文化庁よりヒアリングが実施され、5月20日「日本遺産」認定。認定に伴い、6月27日館林市「日本遺産」推進協議会を設立。補助金交付決定後、6分野17事業実施。[商工課・つつじのまち観光課・文化振興課]庁内調整会議16回、国県との協議10回、日本遺産「里沼」を普及啓発するためのシンポジウムをはじめとする啓発活動38回、里沼を体感するためのWS活動11回実施。</p> <p>【令和2年度】引続き文化振興課にて事務を行う。新型コロナウイルスの影響により上半期は事業実施が困難であるものの、7月27日第2回館林市「日本遺産」推進協議会、11月に館林市ヌマベーション連絡協議会を開催。文化庁補助金を活用し、人材育成・普及啓発・調査研究・情報発信・活用整備分野における各種事業を展開した。</p> <p>【令和3年度】文化振興課に日本遺産推進係を新設し、企画課が担っていた推進協議会事務局事業を統合。引続き新型コロナウイルスの影響により大規模なイベント・PR活動等は開催できなかったが、市単事業及び推進協議会事業を中心に人材育成、普及啓発、調査研究、情報発信、活用整備の各分野での事業を展開した。特に新規事業として、里沼カヌー・カヤック講座や市内小・中学校の総合学習と連携した普及によるシビックプライド醸成に取り組んだ。</p>		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	日本遺産推進事業は、第6次総合計画において重要事業に位置しており、日本遺産「里沼」認定を通して、本市の文化・歴史を観光・産業と結びつけることで、地域振興へと繋げることができる。また、地元住民が自分たちの地域の魅力を再認識することで、地域活性化や魅力あるまちづくりへの気運の醸成を図ることができる。
課題	(1) 地域活性化を進めるにあたり、事業推進に適した体制づくり・人材確保が必要。 (2) 各種事業展開に向けた庁内における高いレベルでの共通認識(庁内連携)。 (3) 地域で活躍するプレイヤーの発掘・選定・活動支援。 (4) 地域住民が館林市の魅力を再認識できるような機会(普及活動・連携事業)の提供。 (5) 円滑に事業推進できるための予算(推進協議会の原資等)及び人員確保。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	■文化庁は、令和3年度に日本遺産再審査制度を導入した。認定6年間経過後のストーリー浸透や各種事業展開の継続性、事業推進体制の「自走」など、地域活性化の度合いを検証し、取組みが不十分な場合は「認定取消し」措置が行われる。 ■本市においては(A)活動者の「自走」(=行政の資金投入はあるものの、組織運営や事業実施自体はプレイヤーを統括できる人材が担っている状態)と、(B)資金面での「自走」(=推進体制が将来的に法人化・会社化し、独立採算(一部行政からの資金援助)での組織運営、事業実施ができていく状態)と段階的に区分し、(A)の成果が出つつある状況。令和4～6年度で早期に(A)活動者の「自走」を実現し、段階的に(B)資金面での「自走」への移行に向けた検討に着手したい。 ■本市においては日本遺産「里沼」に対して①シビックプライド醸成、②ブランディングを主眼として取り組んできたが、収益化が難しく且つ地道な普及活動が鍵を握る①については、引き続き館林市が主体となって普及啓発や人材育成、調査研究分野における下支えを行う必要がある。一方で情報発信や活用整備に関する②は、民間事業者や民間活動者の巻き込みが重要であることから、現在検討が進められている観光協会法人化等の動きと密接に連動させ、日本遺産「里沼」の推進を図っていくことが重要。
令和5年度事業計画	■令和3年度より日本遺産推進係が新設されたが、事業を継続していくための庁内体制(人員配置・予算確保等)整備が必要。日本遺産「里沼」は文化財部局だけでなく、企画部局・経済部局と連携し、全庁的に「里沼」地域活性化計画事業を推進・展開する必要があることから、教育委員会ではなく政策企画部に移して司令塔機能を強化することが重要である。 ■地域活性化計画に位置付けた16事業(令和元～3年度)→10事業(*統合集約：令和4年度～)を引続き実施しながら、活動指標に掲げた4つのKPIの達成に向けて取り組んでいく。
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	190	重要事業	○	総合戦略		担当部署	文化振興課	文化財係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)		
10・5・6	文化財保護管理			18,415千円	15,544千円	17,196千円		

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶15_地域の歴史や伝統・芸術や文化に誇りをもち、魅力ある文化を育み、心豊かに暮らせるまちになる
施策の方向	▶5_文化財の保護・継承環境の整備

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	先人の残した文化遺産を後世に伝えるため、文化財の保存活用や文化財管理施設の管理を適切に行う。
----------------	--

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

1 文化財保護管理【重要事業】	<ul style="list-style-type: none"> ①文化財の適切な保存と活用 <ul style="list-style-type: none"> ・（史跡等の樹木管理等） ②文化財保存活用地域計画作成 <ul style="list-style-type: none"> ・文化財の継承支援や指定制度などについて研究する。 ・歴史文化を学びや観光・まちづくりなどに活用する。
2 茂林寺沼及び低地湿原保護管理【重要事業】	<ul style="list-style-type: none"> ・湿原の保護保全（葦刈等） ・モニタリング調査 ・自然学習会での普及活動 ・市民との協働による調査や保護活動

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度		
事業 スケジュール	1 文化財保護管理【重】	<ul style="list-style-type: none"> ①文化財の適切な保存と活用 <ul style="list-style-type: none"> ・史跡等の樹木管理等 ②文化財保存活用地域計画作成 	<ul style="list-style-type: none"> 1 文化財保護管理【重】 ①文化財の適切な保存と活用 <ul style="list-style-type: none"> ・史跡等の樹木管理等 ・旧館林藩士住宅屋根葺替 ②文化財保存活用地域計画作成 	<ul style="list-style-type: none"> 1 文化財保護管理【重】 ①文化財の適切な保存と活用 <ul style="list-style-type: none"> ・史跡等の樹木管理等 ②文化財保存活用地域計画作成 		
	2 茂林寺沼湿原保護管理【重】				2 茂林寺沼湿原保護管理【重】	2 茂林寺沼湿原保護管理【重】
	・湿原の保護保全（葦刈等）				・湿原の保護保全（葦刈等）	・湿原の保護保全（葦刈等）
	・モニタリング調査				・モニタリング調査	・モニタリング調査
	・自然学習会での普及活動				・自然学習会での普及活動	・自然学習会での普及活動
・市民と協働した調査や保護活動	・市民と協働した調査や保護活動	・市民と協働した調査や保護活動				
事業費	17,196	35,630	18,000			
財源	国庫	174	170	500		
	県費	419	419	419		
	市債	0	0	0		
	その他	1	1	1		
	一般財源	16,602	35,040	17,080		

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画 指標	【市民アンケート】文化活動の充実度 に満足している市民の割合	目標値	-	33.5	-	-	36.5
		実績値	-				
総合戦略 KPI	歴史文化施設における市民一人当たりの 年間利用回数	目標値	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
		実績値	0.21				
活動指標	文化財巡検における標柱・説明板等の 異状発見の割合	目標値	30	30	30	30	30
		実績値	50				
		目標値					
		実績値					

【令和3年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和3年度予算額	17,196千円	令和3年度決算額	15,722千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	1 文化財保護管理【重】 <ul style="list-style-type: none"> ・文化財保護審議会の運営 ・文化財の整備（史跡「館林城跡」等の高木伐採及び剪定） ・指定文化財標柱の新設及び改修 ・市指定有形民俗文化財「富士原の浅間塚及び初山関連資料」の指定（令和元年度） ・旧館林二業見番組合事務所の補修、ライトアップ工事（令和2年度） ・「旧館林藩士住宅」シート張り工事（令和3年度） ・文化財保存活用地域計画の作成（令和2～令和6年度予定） 2 茂林寺沼湿原保全のための各種事業 <ul style="list-style-type: none"> ・茂林寺沼湿原保護保全専門委員会の運営（令和2年度は中止、令和3年度は書面会議） ・モニタリング調査、葦刈工事、中央園路仮設木道設置工事、雑木伐採、 ・井戸洗浄業務委託、水位測定、木道板交換工事、カキツバタ養殖、見本園整備 ・自然学習会（植物・昆虫観察等）の実施（春・夏・冬） ・市民協働調査（地域住民・大泉高校など）、外来種駆除作業 		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	事業を継続しなければ、適切な文化財の保護及び継承が図れないため。
課題	県指定天然記念物の「茂林寺沼及び低地湿原」は平成23年度に「茂林寺沼湿原保護保全のための計画」を策定し湿原の再生に向けて対策を講じているが、令和3年度にはこの湿原のシンボルともいえるコウホネが枯れるなどの事象が発生している。また、沼に浮かぶデッキが傾き始めており、全面的な改修工事が必要である。「旧館林藩士住宅」は令和4年度に老朽化した茅葺屋根全体の差茅工事を行うこととなったが、「田山花袋旧居」についても茅葺屋根や土壁の老朽化が進んでいるため、全面的な改修工事が必要である。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）
	今後作成する「文化財保存活用地域計画」の作成の中で、次のことについて検討する。 <ul style="list-style-type: none"> ・市有の文化財については、整備計画を作成し、それに基づいた計画的な整備を行う。 ・民間（個人、地域）所有の文化財については、適切な保存管理や改修によって次世代に継承できるよう、補助金等の支援制度の見直しを行う。 ・地域に継承されてきた文化財の掘起しや価値づけを行い、地域住民による更なる保存活用を図る。 ・官民連携での資金調達等を研究し、地域総掛かりで保存活用する仕組みを作る。
令和5年度事業計画	1 文化財保護管理事業【重】 <ul style="list-style-type: none"> ・文化財の整備（史跡「館林城跡」等の高木伐採及び剪定） ・指定文化財標柱の新設及び改修 ・「田山花袋旧居改修」のための研究 ・文化財保存活用地域計画の作成（令和2～令和6年度予定） 2 茂林寺沼湿原保全のための各種事業 <ul style="list-style-type: none"> ・茂林寺沼観賞デッキ改修工事
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	191	重要事業		総合戦略		担当部署	文化振興課	文化財係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)		
10・5・6	資料館運営			10,482千円	11,111千円	9,442千円		

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶15_地域の歴史や伝統・芸術や文化に誇りをもち、魅力ある文化を育み、心豊かに暮らせるまちになる
施策の方向	▶3_郷土の歴史文化を学ぶ機会の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	市民が館林の歴史や文化に誇りを持てるよう、郷土資料の収集保管、調査研究、展示・普及活動を行い、学びの充実を図る。
----------------	--

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

【施設管理】 ・第一資料館、第二資料館の維持管理 ・収蔵資料の保存や来場者の利用に適した施設や設備の整備 【資料収集・調査研究】 ・資料購入や受入を行う。 ・収蔵資料の調査と研究を進め、その価値を把握する。 【資料保存管理】 ・収蔵資料の適切な管理や修繕を実施する 【展示普及活動（展示以外）】 ・展示解説会等の実施 ・学校教育や生涯学習事業との連携や普及活動を通じた、市民の学びの充実を図る。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
事業 スケジュール	【施設管理】 ・第一・第二資料館の日常管理 ・第二資料館樹木剪定 ・施設設備修繕 【資料収集】 ・資料購入 【資料保存管理】 ・資料修繕	【施設管理】 ・第一・第二資料館の日常管理 ・第二資料館樹木剪定 ・施設設備修繕 【資料収集】 ・資料購入 【資料保存管理】 ・資料修繕 ・第一資料館燻蒸（隔年）	【施設管理】 ・第一・第二資料館の日常管理 ・第二資料館樹木剪定 ・施設設備修繕 【資料収集】 ・資料購入 【資料保存管理】 ・資料修繕		
	事業費	9,442	12,057	10,871	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
市債		0	0	0	
その他		55	55	55	
一般財源		9,387	12,002	10,816	

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画 指標	【市民アンケート】文化活動の充実度 に満足している市民の割合	目標値	-	33.5	-	-	36.5
		実績値	-				
総合戦略 KPI	歴史文化施設における市民一人当たり の年間利用回数	目標値	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
		実績値	0.21				
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	9,442千円	令和3年度決算額	8,753千円																
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	<ul style="list-style-type: none"> ・資料収集 郷土資料の購入 ・資料保存管理 収蔵資料の修復、第一資料館燻蒸 ・施設維持管理 第二資料館の樹木剪定等、漏水修繕工事、旧上毛モスリン事務所窓修繕等 <ul style="list-style-type: none"> ・施設利用者数 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">令和元年度：</td> <td style="width: 20%;">第一資料館</td> <td style="width: 15%;">7,653人</td> <td style="width: 15%;">第二資料館</td> <td style="width: 35%;">10,233人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度：</td> <td>第一資料館</td> <td>4,329人</td> <td>第二資料館</td> <td>5,071人 *コロナのため4/17~5/25休館</td> </tr> <tr> <td>令和3年度：</td> <td>第一資料館</td> <td>5,764人</td> <td>第二資料館</td> <td>7,687人</td> </tr> </table>				令和元年度：	第一資料館	7,653人	第二資料館	10,233人	令和2年度：	第一資料館	4,329人	第二資料館	5,071人 *コロナのため4/17~5/25休館	令和3年度：	第一資料館	5,764人	第二資料館	7,687人
令和元年度：	第一資料館	7,653人	第二資料館	10,233人															
令和2年度：	第一資料館	4,329人	第二資料館	5,071人 *コロナのため4/17~5/25休館															
令和3年度：	第一資料館	5,764人	第二資料館	7,687人															

【事業の評価】

【Check】 指標評価	C
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	資料館には、館林の歴史や文化を象徴する1万点以上の資料があり、その中には、最後の館林城主・秋元家の旧蔵資料（秋元家コレクション）や、館林城に関する資料なども多数含まれている。今後もこれらを適切に保管するとともに、利活用しながら後世に引き継いでいく責務がある。
課題	第一資料館は、1978年の開館から来年で50年となり、施設の老朽化と収蔵庫の不足が課題である。秋元家コレクション等の貴重な資料は第一資料館2階の収蔵庫に保管しているが、すでに収蔵庫は満杯である。また、発掘調査の出土品や民具などは、旧保健所や旧職業訓練校に保管しているが、建物の老朽化等で適切な管理ができていない。 市史編さん事業によって本市ゆかりの資料の掘起しが行われたことにより、「うちの資料を市に預けたい」という要望もあるが、今はこうした資料をきちんと管理できる収蔵庫がない。このため、温湿度管理や防犯に優れた収蔵庫の確保が急務である。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止） <ul style="list-style-type: none"> ・館の収蔵資料に対する調査研究をさらに深め、関係する研究者や博物館、さらには遺族などとの連携を強化して情報収集を図る。 ・施設や設備の大規模改修、収蔵庫の確保や整備について検討を進める。
令和5年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・資料収集 郷土資料の購入 ・資料保存管理 収蔵資料の修復 ・施設維持管理 第二資料館高木伐採、植栽等の管理 第一資料館空調機改修
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	192	重要事業		総合戦略		担当部署	文化振興課	文化財係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)		
10・5・6	文化財調査事業			3,797千円	2,816千円	3,797千円		

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶15_地域の歴史や伝統・芸術や文化に誇りをもち、魅力ある文化を育み、心豊かに暮らせるまちになる
施策の方向	▶5_文化財の保護・継承環境の整備

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	文化財を後世に伝えるため、調査と研究を進め、その価値を把握し、記録する。
----------------	--------------------------------------

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- 1 文化財調査
 市内遺跡発掘調査（国庫補助事業）
 埋蔵文化財包蔵地に該当する各種開発行為に先行して、緊急発掘調査を実施する。
 遺構等の図面や写真による記録保存、出土遺物の整理、発掘調査報告書の刊行
- 2 歴史的遺産保存調査
 市内に残る歴史的遺産に関する調査を実施

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業スケジュール		1 文化財調査 ・市内遺跡発掘調査（国庫補助事業） 2 歴史的遺産保存調査	1 文化財調査 ・市内遺跡発掘調査（国庫補助事業） 2 歴史的遺産保存調査	1 文化財調査 ・市内遺跡発掘調査（国庫補助事業） 2 歴史的遺産保存調査
事業費		3,797	3,797	3,797
財源	国庫	1,000	1,000	1,000
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	2,797	2,797	2,797

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	発掘調査の件数	目標値	8	8	7	7	6
		実績値	5				
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和3年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和3年度予算額	3,797千円	令和3年度決算額	2,895千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	1 文化財調査 (1) 遺跡発掘調査（国庫補助事業） 埋蔵文化財包蔵地に該当する各種開発行為に先行した、緊急発掘調査の実施。 令和元年度：8遺跡の発掘調査 平成30年度発掘調査報告書の刊行 令和2年度：5遺跡+大島地区試掘調査 令和元年度発掘調査報告書の刊行 令和3年度：5遺跡 令和2年度発掘調査報告書の刊行 (2) 前年度の発掘調査で出土した遺物整理及び報告書の作成・刊行 2 歴史的遺産保存調査 市内に残る歴史的遺産に関する調査を実施 令和元年度 歴史的建造物の解体に伴う記録保存調査 令和2年度 近代化遺産調査、寺社調査 令和3年度 近代化遺産調査、仏像調査			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	C
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	埋蔵文化財調査は、文化財保護法等で規定されている事業であり、継続しなければ、適切な文化財の保護が図れない。 また、未指定文化財の調査を進め、適切な価値づけを行わなければ、館林市の宝である文化財の適切な保存・活用が図れない。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財は、急速な社会経済状況の変化の中で失われていくものであるため、調査によって価値づけを行い、保存・活用や記録保存につなげる必要がある。 ・埋蔵文化財や古文書・美術品などの調査に精通した職員の育成が必要である。 ・現在、本市の文化財調査は市史編さん事業に負うところが大きい。市史編さん事業終了後は、文化財係でその事業を引き継ぐこととなる。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財や未指定文化財の調査を進め、「文化財保存活用地域計画」の認定に必要な市内所在文化財リストの作成に活かす。 ・未指定文化財リストを基に、指定及び登録文化財候補物件を選定し、さらなる調査を進める。
令和5年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財包蔵地での各種開発行為に先行して、緊急発掘調査を実施する。 ・市内に残る未指定文化財の調査を進める。
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	193	重要事業		総合戦略		担当部署	文化振興課	文化財係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)		
10・5・6	文化財普及事業			2,157千円	1,835千円	1,804千円		

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶15_地域の歴史や伝統・芸術や文化に誇りをもち、魅力ある文化を育み、心豊かに暮らせるまちになる
施策の方向	▶3_郷土の歴史文化を学ぶ機会の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	誰でも本市の文化財やその価値について知り理解できるよう、市民が文化財に親しむ機会の充実を図る。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
<p>1 文化財教室等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 田山花袋関連講座（2回） <p>2 普及図書の刊行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普及図書「たてばやしと鉱毒事件」増刷 <p>3 資料館特別展の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 藤牧義夫生誕110年記念特別展「藤牧義夫と館林」 ・ 第9回新収蔵資料展第1部「人の営みが残したもの」第2部「くらしと芸術」 ・ 収蔵資料展「歴史を変えた大いさ」 ・ 日本遺産追加認定記念企画展「沼辺のたから」 	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		1 文化財教室等の開催 ・ 田山花袋関連講座（10月・11月） 2 文化財普及図書の刊行 ・ 「たてばやしと鉱毒事件」増刷 3 （資料館）特別展の開催 ・ 第9回新収蔵資料展（春） ・ 収蔵資料展（夏） ・ 日本遺産追加認定記念企画展（秋） ・ 特別展「藤牧義夫と館林」（冬）	1 文化財教室等の開催 2 （資料館）特別展の開催	1 文化財教室等の開催 2 文化財普及図書の刊行 3 （資料館）特別展の開催
	事業費	1,804	1,554	1,700
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	1,804	1,554	1,700

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	特別展等の見学者の満足度（アンケート結果より）	50	目標値	50	50	50	50	50
		単位：%	実績値	93				
活動指標	市民による文化財活用イベント（文化財ルネッサンス事業）の実施回数	14	目標値	14	14	14	14	14
		単位：回	実績値	13				
活動指標	講座等の受講者の満足度（アンケート結果より）	50	目標値	50	50	50	50	50
		単位：%	実績値	80				
総合計画 指標	文化活動の充実度に満足している市民の割合	30.5	目標値	-	33.5	-	-	36.5
		単位：%	実績値	-				

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	1,804千円	令和3年度決算額	1,688千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	1 文化財教室等の開催 ・令和元年度 ワークショップ 「館林紬でおひなさまをつくろう！」 14人 ・令和2年度 講演会「未来に伝えよう 館林の歴史と文化」 40人 ・令和3年度 田山花袋生誕150年記念講座 3回 延 79人 2 普及図書の刊行 ・令和元年度：かたいおじさんマスクングテープ2 ・令和2年度：「館林市の文化財」 ・令和3年度：「たてばやしと鉱毒事件」増刷 3 資料館特別展の開催（主なもの） ・令和元年度：特別展「館林の絵馬」 1,481人 企画展「里沼物語」（3回） 延5,022人 ・令和2年度：戦後75年記念「戦時下の人々」 1,091人 特別展「水と生きる—利水と治水の歴史—」 892人 ・令和3年度：日本遺産追加認定記念企画展「沼辺のたから」 1,379人 藤牧義夫生誕110年記念特別展「藤牧義夫と館林」 1,348人		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	第六次総合計画では、施策の方向として「郷土の歴史文化を学ぶ機会の充実」が位置付けられている。こうした市民の学びを支援するためのツールとして、文化財教室や普及図書の刊行、資料館の特別展は必要不可欠である。
課題	上記の事業により「歴史文化を学ぶ機会の充実」のための学習素材の提供体制は整えられつつあるが、市民の自主的な学びや、文化財の保存活用の担い手の育成までには至っていない。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）
	令和4年度にすべての小中学校がコミュニティ・スクール化されるのに伴い、地域学習がより進むことが想定される。特に、地区の文化財については関心が高いため、学校教育との連携を強化する。 また、公民館の講座などとも連携して地域の文化財を市民に知ってもらうことでシビックプライドの醸成を図ると共に、「文化財ルネサンス事業」の支援等を通して、文化財を活かした地域づくりの担い手の育成に努める。
令和5年度事業計画	1 文化財教室等の開催 2 普及図書の刊行 3 資料館特別展の開催
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	194	重要事業		総合戦略		担当部署	文化振興課 芸術文化係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・5・6	芸術文化活動の推進			14,902千円	2,891千円	12,304千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶15_地域の歴史や伝統・芸術や文化に誇りをもち、魅力ある文化を育み、心豊かに暮らせるまちになる
施策の方向	▶2_芸術文化活動の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	優れた芸術を鑑賞する機会を充実させるとともに、芸術文化活動の場の提供や新たな芸術文化創造の支援に努めます。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
(1) 芸術文化活動への支援と芸術鑑賞機会の充実	
① 芸術文化活動の支援 情操を養い、心や生活にゆとりと潤いを生むために、芸術文化活動の機会を提供するとともに市民の参加と主体による団体活動を支援します。	
② 芸術鑑賞事業の実施 文化や芸術に対する教養を高め、感受性を育むために、子どもから高齢者までを対象とした優れた芸術を鑑賞する機会を設けます。	
(2) 芸術文化に触れ合う機会の充実と担い手の育成	
① 伝統文化の振興 郷土芸能等の体験や発表を通じ、伝統文化の振興に努めます。	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
事業 スケジュール		(1) 芸術文化活動への支援と芸術鑑賞機会の充実 ①芸術文化活動の支援 ・芸術文化祭14事業、写真公募展、緑のコンサート、ピアノフェスティバル、こども音楽のひろばの開催 ・館林市文化協会、館林市少年少女合唱団の支援 ②芸術鑑賞事業の実施 ・小中学校芸術鑑賞教室の実施 ・自主事業の実施 (2) 芸術文化に触れ合う機会の充実と担い手の育成 ①伝統文化の振興 ・伝統文化教室の開催	(1) 芸術文化活動への支援と芸術鑑賞機会の充実 ①芸術文化活動の支援 ・芸術文化祭14事業、写真公募展、緑のコンサート、ピアノフェスティバル、こども音楽のひろばの開催 ・館林市文化協会、館林市少年少女合唱団の支援 ②芸術鑑賞事業の実施 ・小中学校芸術鑑賞教室の実施 ・自主事業の実施 (2) 芸術文化に触れ合う機会の充実と担い手の育成 ①伝統文化の振興 ・伝統文化教室の開催	(1) 芸術文化活動への支援と芸術鑑賞機会の充実 ①芸術文化活動の支援 ・芸術文化祭14事業、写真公募展、緑のコンサート、ピアノフェスティバル、こども音楽のひろばの開催 ・館林市文化協会、館林市少年少女合唱団の支援 ②芸術鑑賞事業の実施 ・小中学校芸術鑑賞教室の実施 ・自主事業の実施 (2) 芸術文化に触れ合う機会の充実と担い手の育成 ①伝統文化の振興 ・伝統文化教室の開催	
	事業費	12,304	12,252	12,252	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
その他		0	0	0	
	一般財源	12,304	12,252	12,252	

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	12,304千円	令和3年度決算額	3,596千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■ 芸術文化活動の支援 【市芸術文化祭】 ・ 令和元年度 開催事業数：13事業、参加者：4,197人 その他、伝統文化教室（2事業）、写真公募展、ピアノフェスティバル、こども音楽のひろばは実施 ※緑のコンサートは台風19号のため中止 ・ 令和2年度：中止 その他、伝統文化教室（1事業）、写真公募展、ピアノフェスティバルは実施 ※緑のコンサート、こども音楽のひろばは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 ・ 令和3年度 開催事業数：6事業、参加者：1,870人 その他、伝統文化教室（2事業）、写真公募展、ピアノフェスティバルは実施 ※緑のコンサート、こども音楽のひろばは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 【文化団体育成等】 ・ 令和元年度 少年少女合唱団団員数 31人 文化協会加盟団体数 69団体 1,206人 ・ 令和2年度 少年少女合唱団団員数 26人 文化協会加盟団体数 68団体 1,170人 ・ 令和3年度 少年少女合唱団団員数 19人 文化協会加盟団体数 60団体 1,021人 ■ 芸術鑑賞事業の実施 【小中学校芸術鑑賞教室】 ・ 令和元年度 小学生総参加者：4,013人、中学生総参加者：1,814人 合計：5,827人 ・ 令和2年度 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 ・ 令和3年度 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	
事業の必要性	<input type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input checked="" type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	市芸術文化祭の実施や館林市少年少女合唱団、文化協会等の活動を支援することで、市民の文化活動の裾野を広げ、文化の向上を図ることが必要である。
課題	館林市芸術文化祭の活動主体となっている館林市文化協会の加盟団体とその会員数が高齢化などにより減少傾向となっている。また、館林市少年少女合唱団においても、余暇の多様化によるものか、団員数が伸び悩んでいる。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）
	情操を養い、心や生活にゆとりと潤いを生むために、芸術文化活動の機会を提供するとともに市民の参加と主体による団体活動の充実を図るため、練習や成果発表の場を確保するなど活動環境の維持・整備とともに団体加盟人数の増加の支援を継続する。
令和5年度事業計画	■ 芸術文化活動の支援 ・ 芸術文化祭14事業、写真公募展、緑のコンサート、ピアノフェスティバル、こども音楽のひろばの開催 ・ 館林市文化協会、館林市少年少女合唱団の支援 ■ 芸術鑑賞事業の実施 ・ 小中学校芸術鑑賞教室の実施 ・ 自主事業の実施 ■ 伝統文化の振興 ・ 伝統文化教室の開催
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	195	重要事業	総合戦略	担当部署	文化振興課 芸術文化係	
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)
10・5・6	彫刻のまちづくり事業			1,161千円	895千円	1,161千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶15_地域の歴史や伝統、芸術や文化に誇りをもち、魅力ある文化を育み、心豊かに暮らせるまちになる
施策の方向	▶2_芸術文化活動の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	彫刻を生かしたまちづくりを進め、彫刻に対する市民意識の高揚を図ります。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
<p>◆ 彫刻のまちづくりの推進 郷土の自然や歴史と調和した豊かな芸術文化環境の創造に努めます。</p> <p>① 普及事業（彫刻教室、彫刻講座等）の開催 ② 彫刻の小径作品等の補修の実施</p>	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		① 普及事業の開催 ・彫刻教室、彫刻講座等の開催 ② 彫刻の小径作品等の補修の実施 ・計画的な補修の実施	① 彫刻教室、彫刻講座等の実施 ・企画立案・実施・評価・改善 ② 彫刻の小径作品等の補修の実施 ・計画的な補修の実施	① 彫刻教室、彫刻講座等の実施 ・企画立案・実施・評価・改善 ② 彫刻の小径作品等の補修の実施 ・計画的な補修の実施
事業費		1,161	1,161	1,161
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	1,161	1,161	1,161

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	1,161千円	令和3年度決算額	1,026千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■彫刻教室、彫刻講座等の実施 【彫刻教室】 ・令和元年度 開催回数：5回 参加者：延58人 ・令和2年度 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 ・令和3年度 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 【彫刻講座（彫刻清掃体験）】 ・令和元年度 参加者：4人 ・令和2年度 参加者：14人 ・令和3年度 参加者：9人 ■彫刻の小径作品等の補修の実施 【彫刻作品の補修】 ・令和元年度 補修点数：8点 ・令和2年度 補修点数：7点 ・令和3年度 補修点数：6点			

【事業の評価】

【Check】 指標評価						
事業の必要性	<input type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input checked="" type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	「彫刻教室」や「彫刻講座」を実施し、彫刻の制作や鑑賞、清掃体験を通じ、彫刻に対する意識の高揚を図るとともに作品の補修等を行い、鑑賞環境の整備を図っていくことが必要である。					
課題	彫刻教室や彫刻講座の参加者数が減少傾向であること、また、藤野天光の作品の石膏原型が市内の倉庫に保管されているが、空調設備はなく、一定の温度や湿度の管理ができにくい状態であるため、適正な保管ができる環境整備が課題である。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）					
	藤野天光の石膏原型の保管について、専門家より、保存方法や活用等の助言を受ける。また、彫刻作品の補修等を行いながら、彫刻教室や彫刻講座などの普及事業の充実を図ることを継続する。					
令和5年度事業計画	■彫刻教室、彫刻講座等の実施 ・企画立案、実施、評価、改善 ■彫刻の小径作品等の補修の実施 ・計画的な補修の実施					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	196	重要事業	○	総合戦略		担当部署	文化振興課 芸術文化係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・5・7	文化会館運営事業			87,966千円	74,651千円	228,704千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶15_地域の歴史や伝統、芸術や文化に誇りをもち、魅力ある文化を育み、心豊かに暮らせるまちになる
施策の方向	▶1_芸術文化活動の拠点施設の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	芸術活動や文化活動の拠点となる施設の充実を図ります。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 文化施設の適切な管理の推進 <ul style="list-style-type: none"> ○ 文化施設の維持管理 <ul style="list-style-type: none"> よりよい芸術文化活動を推進するため、施設整備を充実します。 ・ 文化会館運営管理 ・ 会館棟空調設備等改修工事監理 ・ 会館棟空調設備等改修工事 	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	○文化会館運営事業 ・施設の運営、維持管理業務		○文化会館運営事業 ・施設の運営、維持管理業務	○文化会館運営事業 ・施設の運営、維持管理業務
	○文化会館施設整備事業 ・会館棟空調設備等改修工事 監理 ・会館棟空調設備等改修工事		○文化会館施設整備事業 ・自動火災報知設備改修工事 ・トイレ改修工事実施設計 ・舞台機構設備改修工事	○文化会館施設整備事業 ・非常用発電機改修工事実施設計 ・トイレ改修工事 ・舞台機構設備改修工事 ・舞台照明設備改修工事 ・監視モニター設備改修工事
事業費		228,704	102,465	102,465
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	114,900	2,300	2,300
	その他	14,009	16,507	16,507
	一般財源	99,795	83,658	83,658

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度					
			R3	R4	R5	R6	R7	
総合計画 指標	芸術文化施設における市民1人当たり 年間利用回数	2.5	目標値	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
		単位：回	実績値	1.4				
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	228,704 千円	令和3年度決算額	211,379 千円		
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■ 芸術文化施設利用状況 (年間)				
		(文化会館)	(芸術ホール)	(合 計)	
	・ 令和元年度 利用者数	115,006人	76,613人	191,619人	
	・ 令和2年度 利用者数	36,944人	240人	37,184人	
・ 令和3年度 利用者数	25,607人	26,680人	52,287人	(R4. 3. 31現在 住民人口74,652人)	

【事業の評価】

【Check】 指標評価	C
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	よりよい芸術文化活動を推進するため、維持管理に努め、安全安心な施設利用の確保と施設の長寿命化を図っていく必要がある。
課題	昭和49年の開館から47年が経過し、施設及び設備の老朽化が顕著に進んでいる。それに伴う設備の故障・不具合等も増えており、貸館業務に影響するものも出ている。今後もバリアフリーを考慮し、安全安心に配慮した施設整備を計画的に進め、老朽化対策を行っていくことが課題である。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	文化施設が支障なく利用されるよう、点検を適時行い、適正かつ「館林市公共施設等総合管理計画」に沿った施設の補修や改修を行い、機能の充実と適切な維持管理の推進を継続する。
令和5年度事業計画	■ 文化会館の貸館業務、定期的な維持管理、計画的な整備の実施 ・ 非常用発電機改修工事实施設計 ・ トイレ改修工事 ・ 舞台機構設備改修工事 ・ 舞台照明設備改修工事 ・ 監視モニター設備改修工事
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	197	重要事業		総合戦略		担当部署	文化振興課 芸術文化係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・5・8	三の丸芸術ホール運営費			250,990千円	233,493千円	41,252千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶15_地域の歴史や伝統、芸術や文化に誇りを持ち、魅力ある文化を育み、心豊かに暮らせるまちになる
施策の方向	▶1_芸術文化活動の拠点施設の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	芸術活動や文化活動の拠点となる施設の充実を図ります。
----------------	----------------------------

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- ◆ 文化施設の適切な管理の推進
 - 文化施設の維持管理
 - よりよい芸術文化活動を推進するため、施設整備を充実します。
 - ・ 三の丸芸術ホール運営管理
 - ・ 三の丸芸術ホール舞台音響設備改修工事
 - ・ 三の丸芸術ホール南西側外壁改修工事

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		○三の丸芸術ホール運営事業 ・施設の運営、維持管理業務	○三の丸芸術ホール運営事業 ・施設の運営、維持管理業務	○三の丸芸術ホール運営事業 ・施設の運営、維持管理業務
		○三の丸芸術ホール施設整備事業 ・三の丸芸術ホール運営管理 ・三の丸芸術ホール舞台音響設備改修工事 ・三の丸芸術ホール南西側外壁改修工事	○三の丸芸術ホール施設整備事業 ・南西側屋上防水改修工事 ・南西側雨樋等改修工事	○三の丸芸術ホール施設整備事業 ・北西側屋上防水改修工事 ・南側雨樋等改修工事 ・舞台照明改修工事 ・防犯カメラ設置工事
事業費		41,252	41,693	41,693
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	4,400	4,400
	その他	7,000	8,000	8,000
	一般財源	34,252	29,293	29,293

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
総合計画 指標	芸術文化施設における市民1人当たり 年間利用回数	2.5	目標値	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
		単位：回	実績値	1.4				
			目標値					
			実績値					
			目標値					
			実績値					
			目標値					
			実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	41,252 千円	令和3年度決算額	35,700 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■ 芸術文化施設利用状況 (年間)			
		(文化会館)	(芸術ホール)	(合 計)
	・ 令和元年度 利用者数	115,006人	76,613人	191,619人
	・ 令和2年度 利用者数	36,944人	240人	37,184人
・ 令和3年度 利用者数	25,607人	26,680人	52,287人	(R4. 3. 31現在 住民人口74,652人)

【事業の評価】

【Check】 指標評価	C
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	よりよい芸術文化活動を推進するため、文化会館と併せ、維持管理に努め、安全安心な施設利用の確保と施設の長寿命化を図っていく必要がある。
課題	昭和61年の開館から35年が経過し、施設や設備の老朽化が進んでいる。屋上防水工事や舞台照明装置など改修が必要な設備が多い。今後もバリアフリーを考慮し、安全安心に配慮した施設整備を計画的に進め、老朽化対策を行っていくことが課題である。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	文化施設が支障なく利用されるよう、点検を適時行い、適正かつ「館林市公共施設等総合管理計画」に沿った施設の補修や改修を行い、機能の充実と適切な維持管理の推進を継続する。
令和5年度事業計画	■ 三の丸芸術ホールの貸館業務、定期的な維持管理、計画的な整備の実施 ・ 北西側屋上防水改修工事 ・ 南側雨樋等改修工事 ・ 舞台照明改修工事 ・ 防犯カメラ設置工事
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	198	重要事業		総合戦略		担当部署	文化振興課	文化財係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)		
10・5・9	田山花袋記念文学館運営			9,532千円	8,163千円	7,573千円		

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶15_地域の歴史や伝統・芸術や文化に誇りをもち、魅力ある文化を育み、心豊かに暮らせるまちになる
施策の方向	▶3_郷土の歴史文化を学ぶ機会の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	市民が館林の歴史や文化に誇りを持てるよう、郷土の文豪田山花袋に関する資料の収集保管・調査研究・普及活動を通して、学びの充実を図る。
----------------	---

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

【施設管理】	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の日常管理 ・収蔵資料の保存や来場者の利用に適した施設や設備の整備（展示ケース照明改修（LED化））
【資料収集・調査研究】	<ul style="list-style-type: none"> ・資料購入や受入を行い、調査と研究を進め、その価値を把握する。（資料購入）
【資料保存管理】	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵資料の適切な管理や修繕を実施し、後世に伝える（資料修繕）
【展示普及活動（展示以外）】	<ul style="list-style-type: none"> ・展示解説会などを実施し、市民の学びの充実を図る。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度		
事業 スケジュール	【施設管理】	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の日常管理 ・展示ケース照明改修（LED化） 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の日常管理 ・ハロン消火設備蓄電池改修 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の日常管理 ・展示ケース照明改修（LED化） 		
	【資料収集】				【資料収集】	【資料収集】
	・資料購入				・資料購入	・資料購入
	【資料保存管理】				【資料保存管理】	【資料保存管理】
	・資料修繕				・資料修繕 ・燻蒸（隔年実施）	・資料修繕
事業費		7,573	9,620	7,936		
財源	国庫	0	0	0		
	県費	0	0	0		
	市債	0	0	0		
	その他	614	614	614		
	一般財源	6,959	9,006	7,322		

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画 指標	【市民アンケート】文化活動の充実度 に満足している市民の割合	目標値	-	33.5	-	-	36.5
		実績値	-				
総合戦略 KPI	歴史文化施設における市民一人当たり の年間利用回数	目標値	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
		実績値	0.21				
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	7,573千円	令和3年度決算額	6,683千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【実施事業】 <ul style="list-style-type: none"> ・資料調査研究 研究紀要32、33号の刊行 (令和元・2年度) ・資料収集 花袋関係資料の購入、田山家からの寄贈資料の受入 ・資料保存管理 収蔵資料の修繕(掛軸仕立替)、収納箱等の作成 収蔵庫及び展示室の燻蒸 (令和2年度、隔年実施) ・施設改修 ロビー空調機、玄関等照明改修工事 (令和元年度) 非常灯改修工事 (令和2年度) 身障者用トイレ便座改修工事・タイル修繕 (令和3年度) ・つつじが岡公園周辺誘客案内チラシ(科学館・つつじ映像学習館と共同作成) ・花袋生誕150年事業報告書印刷 【入館者数】 令和元年度： 3,996人 令和2年度： 1,465人 * コロナのため4/17~5/25休館 令和3年度： 2,198人			
				bunka: 「主要な施策」の数字に合わせて、切り上げました。 6,682千円 → 6,683千円

【事業の評価】

【Check】 指標評価	C
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	開館に先立ち田山家から寄贈された花袋に関する第一級の資料を、今後も利活用しながら、日本で唯一の花袋研究の拠点として活動していく責務があるため。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・施設や設備の老朽化に伴い、大規模改修が必要である。 ・収蔵庫のスペースの不足、展示ケース内の照明のLED化等が必要。 ・開館以来34年間、常設展示のリニューアルが図られていない。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	<ul style="list-style-type: none"> ・館の収蔵資料に対する調査研究をさらに深め、関係する研究者や博物館、さらには遺族などとの連携を強化して情報収集を図る。 ・施設や設備の大規模改修、収蔵庫の確保や整備について検討を進める。 ・消防設備(ハロン消火設備)の改修
令和5年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・資料調査研究 研究紀要35号の刊行 ・資料収集 花袋関係資料の購入 ・資料保存管理 収蔵資料の修繕(掛軸仕立替)、収納箱等の作成 ・施設管理 ハロン消火設備改修工事
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	199	重要事業		総合戦略		担当部署	文化振興課	文化財係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)		
10・5・9	(文学館) 特別展の開催			850千円	778千円	1,629千円		

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶15_地域の歴史や伝統・芸術や文化に誇りをもち、魅力ある文化を育み、心豊かに暮らせるまちになる
施策の方向	▶3_郷土の歴史文化を学ぶ機会の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	展示を通して郷土の文豪・田山花袋を普及し、市民の学びの充実を図る。
----------------	-----------------------------------

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

【展示】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収蔵資料展「料理は味よりも香をー花袋と「食」にまつわる話ー」前期（3月～6月）・後期 ・ 全国文学館協議会共同展「3.11文学館からのメッセージ『花袋と災害』」 ・ 田山花袋生誕150年記念特別展「情熱の人 田山花袋ー《新しく》《真面目》な文学を求めてー」第一部～第三部（7月～12月）
【関連事業】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 田山花袋生誕150年記念事業（特別展関連講座）12月

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業スケジュール	田山花袋生誕150年記念事業 ・ 田山花袋生誕150年記念特別展「情熱の人 田山花袋」 ・ 収蔵資料展 ・ 特別展関連講座		特別展・収蔵資料展の開催	特別展・収蔵資料展の開催
事業費		1,629	1,041	1,100
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	1,629	1,041	1,100

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標	【市民アンケート】文化活動の充実度に満足している市民の割合	目標値	-	33.5	-	-	36.5
		実績値	-				
総合戦略KPI	歴史文化施設における市民一人当たりの年間利用回数	目標値	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
		実績値	0.21				
活動指標	見学者アンケートによる特別展等の満足度	目標値	50	50	50	50	50
		実績値	83				
		目標値					
		実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	1,629千円	令和3年度決算額	1,454千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	元年度		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収蔵資料展「逸品－THE ONLY ONE－」 ・ 収蔵資料展「『近代の小説』Ⅱ－花袋が見た大正の文壇－」 ・ 特別展「城沼がはぐくんだ花袋の文学～「神秘」と「再生」の物語～」 ・ 収蔵資料展「花袋先生の冬じたく」 ・ 没後90年花袋忌記念企画展「巨星落つ－田山花袋が去った日－」 		1,298人 1,400人 703人 527人 421人
	2年度		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収蔵資料展「旅する小説家－花袋とゆく夏の山水処々－」 ・ 花袋没後90年記念特別展「江見水蔭～無名の花袋を支えた小説家～」 ・ 収蔵資料展「花袋先生の冬じたく」 ・ 収蔵資料展「料理は味よりも香を－花袋と「食」にまつわる話－」前期 (全国文学館協議会共同展「3.11文学館からのメッセージ『花袋と災害』」を同時開催) 		397人 319人 269人 832人
3年度			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 田山花袋生誕150年記念特別展「情熱の人田山花袋－《新しく》《真面目》な文学を求めて－」 第一部 303人 第二部 434人 第三部 265人 計 1,002人 ・ 収蔵資料展「料理は味よりも香を－花袋と「食」にまつわる話－」後期 ・ 島崎藤村生誕150年記念企画展「藤村からの手紙」第1部 ・ 花袋生誕150年記念講座の開催 		406人

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	リピーターや新たな入館者を確保するために、田山花袋という人物やその作品等について、さまざまな切り口で紹介した特別展や企画展、収蔵資料展を実施し、リピーターや新たな入館者を確保する。また、展示に合わせて、解説会やワークショップを行うほか、解説パネルなどを工夫し、わかりやすい展示を心掛ける。					
課題	花袋中心の展示に限界がある。今後は、市史「館林の文化と芸術」で紹介された本市ゆかり文学者を紹介する展示も検討したい。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 館の収蔵資料に対する調査研究をさらに深め、関係する研究者や博物館、さらには遺族などとの連携を強化して情報収集を図ることにより、学校教育や生涯学習活動に資する展示や、ワークショップ等の関連事業の実施に努める。 ・ 花袋に関する第1級の資料を所蔵している館としての強みを活かした事業を検討する。 					
令和5年度事業計画	特別展及び関連事業の開催					
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小	※前年度比較				
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	200	重要事業	○	総合戦略		担当部署	スポーツ振興課 管理係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
8・5・3	公園競技施設管理運営			100,942千円	68,761千円	103,684千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶16_スポーツを生活に取り入れ、誰もがスポーツを楽しめるまちになる
施策の方向	▶4_スポーツ施設の適正管理

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	公園競技施設（体育館（ダノン城沼アリーナ）、陸上競技場、野球場、庭球場、多目的広場、市民プール、グラウンドゴルフ場、弓道場、高根運動場、東山運動広場）の整備及び管理運営を図る。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
<p>①公園競技施設管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園競技施設の維持管理 多くの市民や競技者がスポーツ施設を安全かつ安心して利用できるよう、施設の点検及び整備に努めるとともに、設備の充実に努める。 ・屋外施設の維持補修（グラウンド内の芝刈り、整地等） ・各種スポーツ用具、備品の購入及び維持管理 <p>②公園競技施設の整備【重要事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園競技施設の整備 各施設の設備（空調、電気、給排水、照明等）に関する保守点検及び維持補修を行う。 	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	①公園競技施設管理運営 ・ラグビーボール購入		①公園競技施設管理運営 ・バスケットゴール購入	①公園競技施設管理運営 ・ランニングマシン購入
	②公園競技施設の整備【重】 ・ダノン城沼アリーナ高圧受変電設備変圧器等更新工事 ・ダノン城沼アリーナ外壁調査業務委託		②公園競技施設の整備【重】 ・ダノン城沼アリーナ冷暖房設置工事設計業務委託 ・ダノン城沼アリーナ外壁改修工事	②公園競技施設の整備【重】 ・ダノン城沼アリーナ冷暖房設置工事 ・ダノン城沼アリーナ非常用自家発電機更新工事 ・ダノン城沼アリーナ館内管理用カメラ改修工事
	・城沼野球場外野クッション設置工事		・城沼市民プール観覧席補強工事	・城沼市民プール50mプールろ過機更新工事
	・城沼総合運動場噴水ピット内雨水排水用ポンプ交換工事		・多目的広場屋外照明交換工事	・城沼市民プールのスライダー改修工事設計業務委託
	多目的広場整地工事			
事業費	103,684	155,464	439,121	
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	103,684	155,464	439,121

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画 指標	スポーツ実施率（週1回以上）【総合戦略KPIを兼ねる】	目標値	37.5	40.7	43.8	46.9	50.0
		実績値	49.6				
総合計画 指標	スポーツ施設に関する満足度（アンケート）	目標値	46.9	47.6	48.4	49.2	50.0
		実績値	42.6				
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	103,684千円	令和3年度決算額	92,773千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	主な内容 [令和元年度] ・各施設、設備の保守管理業務委託 ・城沼総合体育館トイレ改修工事 ・城沼野球場クッション設置工事 ・城沼市民プール25mプール塗装工事 ・城沼総合体育館レスリングマット購入 [令和2年度] ・各施設、設備の保守管理業務委託 ・ダノン城沼アリーナ屋上防水改修工事 ・ダノン城沼アリーナトイレ水栓改修工事 ・城沼市民プール50mプール塗装工事 ・城沼総合体育館ジェットヒーター購入 [令和3年度] ・各施設、設備の保守管理業務委託 ・ダノン城沼アリーナ受変電設備等更新工事 ・城沼野球場外野クッション設置工事 ・城沼総合運動場雨水排水ポンプ更新工事 ・ラグビーゴールセット購入			・施設利用者数（全体） 令和元年度：348,830人 令和2年度：76,290人 令和3年度：119,620人

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	市民のスポーツ活動の拠点施設である公園競技施設を整備することは、市体育協会及び加盟団体主催の各種スポーツ大会の実施による競技力の向上や地域住民の体力づくりなど健康増進に資するため不可欠な事業である。 今後も利用者のニーズを把握し、利便性向上に繋げていくよう、新型コロナウイルス感染症対策を継続しながら、各施設の計画的な整備及び改修を行う必要がある。					
課題	各施設の老朽化が著しく、多様化する市民ニーズに対し、スポーツ環境の整備が遅れている状況となっている。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	施設の老朽化対応に重点を置くとともに、新型コロナウイルス感染症対策を施したうえで、各施設をより安全かつ中長期的な維持管理に取り組む。					
令和5年度事業計画	公園競技施設（体育館、陸上競技場、野球場、庭球場、多目的広場、市民プール、グラウンドゴルフ場、弓道場、高根運動場、東山運動広場）の整備及び管理運営 内容：各施設（設備）の維持補修、グラウンド整備（芝刈り、整地等）					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	201	重要事業	総合戦略	担当部署	スポーツ振興課 管理係・振興係	
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)
10・6・1	保健体育総務			15,852千円	14,336千円	20,248千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶16_スポーツを生活に取り入れ、誰もがスポーツを楽しめるまちになる
施策の方向	▶2_スポーツ活動への支援

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	体育・スポーツの普及振興に努め、スポーツによる社会参加と生きがいを推進する。
----------------	--

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- ①体育総務
- ・第三次生涯スポーツ推進計画策定
第三次生涯スポーツ推進計画を策定し、市民に周知を図り、スポーツを支える体制や環境を整え、生涯スポーツのまちな実現を目指す。
 - ・スポーツ推進委員会運営
スポーツ推進委員会を運営し、スポーツ推進委員によるスポーツの日常化を推進し、市民の健康増進と体力づくりの促進を図る。
- ②社会体育団体育成指導等
- ・体育協会事業費補助金
館林市における体育・スポーツ団体を総括し、体育・スポーツの普及と体力づくりの振興を図り、もって市民の健全な心身の進展に寄与することを目的とする。
 - ・スポーツ少年団運営費補助金
スポーツ少年団の普及と育成及び活動の活性化を図るとともに、スポーツを通じて青少年の心身の健全な育成に資することを目的とする。
 - ・スポーツ推進委員会事業費補助金
第二次館林市生涯スポーツ振興計画の推進と市民スポーツ及びレクリエーションの普及振興を図るため、研究、協議並びに指導の実践活動を行う。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール	①体育総務 ・第三次生涯スポーツ推進計画策定 ・スポーツ推進委員会運営		①体育総務 ・スポーツ推進委員会運営	①体育総務 ・スポーツ推進委員会運営
	②社会体育団体育成指導等 ・体育協会事業補助金交付 ・スポーツ少年団運営費補助金交付 ・スポーツ推進委員会事業補助金交付		②社会体育団体育成指導等 ・体育協会事業補助金交付 ・スポーツ少年団運営費補助金交付 ・スポーツ推進委員会事業補助金交付	②社会体育団体育成指導等 ・体育協会事業補助金交付 ・スポーツ少年団運営費補助金交付 ・スポーツ推進委員会事業補助金交付
事業費		20,248	16,000	16,000
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	20,248	16,000	16,000

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画 指標	スポーツ実施率（週1回以上）【総合戦略KPIを兼ねる】	目標値	37.5	40.7	43.8	46.9	50.0
		実績値	49.6				
総合計画 指標	スポーツ施設に関する満足度（アンケート）	目標値	46.9	47.6	48.4	49.2	50.0
		実績値	42.6				
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	20,248 千円	令和3年度決算額	16,972 千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	○体育協会 ・団体数 (R元:39, R2:38, R3:38) ・支部数 (R元:8支部, R2:8支部, R3:8支部) ・会員数 (R元:6,669, R2:6,327, R3:6,891) ○スポーツ少年団 ・団体数 (R元:35, R2:34, R3:32) ・団員数 (R元:608, R2:552, R3:515)	○補助金の交付 [令和元年度～令和3年度] 同額で支出 ・体育協会事業補助金 (3,112千円) ・スポーツ少年団運営費補助金 (657千円) ○臨時職員の雇用数 [令和元年度] 2人 ○会計年度任用職員の雇用数 [令和2年度] 6人 [令和3年度] 6人	

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	各種スポーツ大会や競技力の向上、また多様な世代のニーズへの対応など、本市におけるスポーツ関係組織の中核的かつ重要な役割を果たしており、その運営を円滑に遂行するための支援は不可欠であることから、団体活動に対する継続的な補助が必要である。 会計年度任用職員については、施設利用の受付（窓口、電話等）業務で多くの利用者への対応を行う必要があるため、今後も継続的な雇用が必要と考える。
課題	健康寿命の延伸に向け、運動・スポーツへの関心が高く、いつでも、どこでも、だれでもスポーツに取り組める環境整備を進めなければならない。 会計年度任用職員に関しては、不規則勤務等であることと、特に夜間職員が概ね70歳代と高齢であり、今後の職員確保が困難になることが予測されるため、体制の検討が必要である。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）
	令和4年3月に第三次館林市生涯スポーツ推進計画を策定したことから、本計画の目標達成に向けて新たな施策の取組を実施する。
令和5年度事業計画	○補助金の交付 ・体育協会事業補助金 ・スポーツ少年団運営費補助金 ○会計年度任用職員の継続雇用及び見直し
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	202	重要事業	総合戦略	担当部署	スポーツ振興課 振興係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)
10・6・1	体育・スポーツの振興(市民体育行事)		2,951千円	492千円	3,318千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶16_スポーツを生活に取り入れ、誰もがスポーツを楽しめるまちになる
施策の方向	▶1_スポーツ環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	市民を対象とした各種体育行事を開催し、健康体力づくりを図るとともに、体育・スポーツ活動の日常化を促進する。
----------------	---

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- ①市民総合体育祭
体育・スポーツに参加する機会を広く市民に提供するとともに、スポーツ交流の定着化と健康で明るい地域社会づくりを目指す。
- ②市民総合体育大会春季大会
体育協会加盟団体を中心として、広く市民参加を募り、スポーツ活動の推進と競技力向上を図る。
- ③市民歩け歩け大会
自然の中を歩くことの楽しさ、素晴らしさを仲間と体験しながら、健康とふれあいの大切さの認識を深める。
- ④たてばやし水泳大会
健康体力づくり促進と水泳競技の普及促進を図る。
- ⑤たてばやし駅伝大会
仲間と連帯意識を育むとともに、健康増進と競技スポーツとしての選手育成を図る。
- ⑥たてばやしシャトルマラソン大会
走ることにより健康の保持増進と体力の向上を図り、あわせて明るく楽しい活力に満ちた地域社会づくりに寄与する。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
事業 スケジュール	①市民体育行事 ・市民総合体育祭の開催 ・市民総合体育大会春季大会の開催 ・市民歩け歩け大会の開催 ・たてばやし水泳大会の開催 ・たてばやし駅伝大会の開催 ・たてばやしシャトルマラソン大会の開催		①市民体育行事 ・市民総合体育祭の開催 ・市民総合体育大会春季大会の開催 ・市民歩け歩け大会の開催 ・たてばやし水泳大会の開催 ・たてばやし駅伝大会の開催 ・たてばやしシャトルマラソン大会の開催	①市民体育行事 ・市民総合体育祭の開催 ・市民総合体育大会春季大会の開催 ・市民歩け歩け大会の開催 ・たてばやし水泳大会の開催 ・たてばやし駅伝大会の開催 ・たてばやしシャトルマラソン大会の開催	
	事業費	3,318	3,300	3,300	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
その他		0	0	0	
	一般財源	3,318	3,300	3,300	

【関連する指標】

総合計画 指標	指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
スポーツ実施率（週1回以上）【総合戦略KPIを兼ねる】		31.3	目標値	37.5	40.7	43.8	46.9	50.0
	単位：%		実績値	49.6				
			目標値					
	単位：		実績値					
			目標値					
	単位：		実績値					
			目標値					
	単位：		実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	3,318 千円	令和3年度決算額	1,092 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【令和元年度実施事業】 歩け歩け大会(春)、市民総体春季総合開会式、水泳大会、ウォークラリー、スポレク祭(中止)、市民総合体育祭、市民総合体育祭(球技)、駅伝大会、スキー大会、シャトルマラソン大会、定期ふれあいウォーク(5回)、たてばやしウォーク(2回)	・市民体育行事の開催 令和元年度：延 10,672人参加 令和2年度：延 372人参加 令和3年度：延 777人参加		
	【令和2年度実施事業】 ウォークラリー、たてばやしウォーク(1回・2回中止)、定期ふれあいウォーク(2回・3回中止) ※中止事業 歩け歩け大会(春)、市民総体春季総合開会式、水泳大会、スポレク祭(中止)、市民総合体育祭、市民総合体育祭(球技)、駅伝大会、スキー大会、シャトルマラソン大会			
	【令和3年度実施事業】 歩け歩け大会(春)、水泳大会、ウォークラリー、スキー大会 ※中止事業 市民総体春季総合開会式、スポレク祭、市民総合体育祭、市民総合体育祭(球技)、駅伝大会、マラソン大会、小学生なわとび大会			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	市民総合体育祭や各種大会を通して、地域の連携と協調を高めると共に、心身の健康増進、生きがいづくりに寄与し、より良い地域社会の構築に成果が挙げられており、継続的な取組みを進めていかなければならないが、開催方法の見直しも図る必要がある。 小学生なわとび大会の開催については、新型コロナウイルス感染症状況もあり、開催方法の検討を図りたい。					
課題	生活スタイルの変化や、ニーズの多様化及び高齢化社会に伴い、事業参加者の減少や役員の担い手不足等の課題も徐々に表面化しており、今後、事業の見直し等を検討しなくてはならない。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	ライフスタイルの変化や新たなスポーツ種目もあり、種目だけでなく大会運営の見直しや経済部門と連携を検討していく。					
令和5年度事業計画	歩け歩け大会(春)、市民総合体育大会(春季・秋季)、水泳大会、ウォークラリー、スポーツレクリエーション祭、市民総合体育祭、市民総合体育祭(球技)、駅伝大会、スキー大会、マラソン大会等の開催					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	203	重要事業	総合戦略	担当部署	スポーツ振興課 振興係	
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)
10・6・1	体育・スポーツの振興 (全国・関東・県下体育事業派遣)			1,815千円	136千円	1,815千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶16_スポーツを生活に取り入れ、誰もがスポーツを楽しめるまちになる
施策の方向	▶3_競技スポーツの推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	スポーツ競技選手の養成と競技力の向上に努めるとともに、県民スポーツ大会等へスポーツ競技優秀者を市の代表として派遣する。
----------------	---

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- ①県民スポーツ大会夏季大会〔水泳〕選手派遣
県内の市対抗で行われる水泳競技に、本市の代表として選手役員を派遣する。
- ②県民スポーツ大会秋季大会選手派遣
県内の市・郡別対抗で行われる17競技に、本市の代表として選手役員を派遣する。
- ③県民スポーツ大会駅伝競走大会選手派遣
県内の市対抗で行われ、館林邑楽チームの代表として、本市から選手役員を派遣する。
- ④県民スポーツ大会冬季大会選手派遣
県内の市対抗で行われる冬季2大会に、本市の代表として選手役員を派遣する。
- ⑤県スポーツ少年団大会選手派遣
県下全市町村のスポーツ少年団交流事業として行われる8競技に、選手役員を派遣する。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		①全国・関東・県下体育事業派遣 ・県民スポーツ大会夏季大会〔水泳〕への選手派遣 ・県民スポーツ大会秋季大会への選手派遣 ・県民スポーツ大会駅伝競走大会への選手派遣 ・県民スポーツ大会冬季大会への選手派遣 ・県スポーツ少年団大会への選手派遣	①全国・関東・県下体育事業派遣 ・県民スポーツ大会夏季大会〔水泳〕への選手派遣 ・県民スポーツ大会秋季大会への選手派遣 ・県民スポーツ大会駅伝競走大会への選手派遣 ・県民スポーツ大会冬季大会への選手派遣 ・県スポーツ少年団大会への選手派遣	①全国・関東・県下体育事業派遣 ・県民スポーツ大会夏季大会〔水泳〕への選手派遣 ・県民スポーツ大会秋季大会への選手派遣 ・県民スポーツ大会駅伝競走大会への選手派遣 ・県民スポーツ大会冬季大会への選手派遣 ・県スポーツ少年団大会への選手派遣
事業費		1,815	1,815	1,815
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	1,815	1,815	1,815

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画 指標	スポーツ実施率（週1回以上）【総合 戦略KPIを兼ねる】	目標値	37.5	40.7	43.8	46.9	50.0
		実績値	49.6				
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	1,815千円	令和3年度決算額	591千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【令和元年度派遣実績】 県民夏季（水泳）、県民秋季（17競技）、 県民冬季（スキー）、県民冬季（スケート）、 県100km駅伝、県スポ少大会（8競技）	・県民スポーツ大会等への派遣実績 令和元年度：延 540人派遣 令和2年度：延 66人派遣 令和3年度：延 221人派遣		
	【令和2年度派遣実績】 県スポ少大会（1競技・7競技中止） ※中止事業 県民夏季（水泳）、県民秋季、県民冬季（スキー、スケート）、駅伝競走			
	【令和3年度派遣実績】 県民秋季（8競技派遣）県スポ少大会（4競技） ※中止事業 県民夏季（水泳）、県民冬季（スキー、スケート）、駅伝競走			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	大会に関連する競技団体への支援や、県民スポーツ大会に向けた強化練習会の開催。また、指導者対象のスポーツ講習会及び医科学講演会等を実施し、組織（役員・指導者）並びに選手育成を図っている。 競技スポーツの普及振興を図るためには、競技団体の組織力強化並びに選手の技術向上を担うための指導者確保を継続的に行わなければならない。					
課題	少子高齢化等による競技人口の減少、競技団体組織の高齢化、役員・指導者の不足等による組織力の低下が懸念され、競技スポーツの衰退に繋がりがかねない。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）					
	競技により指導内容が異なることや協会の考え方の違いなどがあるが、指導体制を確立するため、引き続き問題点や指導方法等について協議と研鑽に努めていく。 各競技別スポーツの普及発展及びニーズに対応した指導者の養成を推進するとともに、資格を有する指導者の有効活用を図り、指導者の技術向上並びに関係団体との組織的連携による指導者確保を進めていく必要がある。 顕著な実績を挙げた選手のほか、本市のスポーツ振興・発展に尽力した役員や指導者の功績を称えること表彰制度により、競技力向上やスポーツ活動の一層の振興を図るため、更なる表彰制度の充実が課題となる。					
令和5年度事業計画	県民夏季（水泳）、県民秋季（16競技）、県民冬季（スキー・スケート）、県民駅伝、県スポ少大会等への選手派遣					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	204	重要事業	○	総合戦略	○	担当部署	スポーツ振興課 振興係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・6・1	体育・スポーツの振興 (生涯スポーツ振興事業)			1,259千円	561千円	1,338千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶16_スポーツを生活に取り入れ、誰もがスポーツを楽しめるまちになる
施策の方向	▶1_スポーツ環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	スポーツを日常生活に欠かせない文化として根付かせるとともに、地域住民一人ひとりの取り組みが、継続して実施されるよう、各般にわたるスポーツ環境の整備のための事業を推進する。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
<p>①スポーツ教室の開催 スポーツ・レクリエーション活動の振興と市民の健康増進を図るため、各種スポーツ教室を開催し、これまでスポーツ活動機会の少なかったかに、スポーツに親しむ機会を提供する。</p> <p>②ファミリースポーツ活動推進事業 親子のふれあいを深めることを目的に、体を動かすことの楽しさ・大切さを知る機会とする。</p> <p>③中高年スポーツ活動推進事業 中高年を対象に、健康の保持増進と仲間づくりを図りながら、生涯スポーツ活動の普及を推進する。</p> <p>④健康づくり事業 市民が健康で自立した生活を維持するため、運動習慣の継続が可能となる環境整備を行う。</p> <p>⑤地域スポーツ活動推進事業 スポーツ・レクリエーション活動を通じて地域住民の連帯の輪を深め、一人ひとりが健康体力の保持増進を図り、生涯にわたりスポーツに親しむことを目的とする。</p>	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
事業 スケジュール	①生涯スポーツ振興事業【重】 ・スポーツ教室の開催 ・ファミリースポーツ活動推進事業の実施 ・中高年スポーツ活動推進事業の実施 ・健康づくり事業の実施 ・地域スポーツ活動推進事業の実施		①生涯スポーツ振興事業【重】 ・スポーツ教室の開催 ・ファミリースポーツ活動推進事業の実施 ・中高年スポーツ活動推進事業の実施 ・健康づくり事業の実施 ・地域スポーツ活動推進事業の実施	①生涯スポーツ振興事業【重】 ・スポーツ教室の開催 ・ファミリースポーツ活動推進事業の実施 ・中高年スポーツ活動推進事業の実施 ・健康づくり事業の実施 ・地域スポーツ活動推進事業の実施	
	事業費	1,338	1,350	1,350	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
その他		0	0	0	
	一般財源	1,338	1,350	1,350	

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画 指標	スポーツ実施率（週1回以上）【総合戦略KPIを兼ねる】	目標値	37.5	40.7	43.8	46.9	50.0
		実績値	49.6				
総合計画 指標	各種スポーツ教室への参加者数	目標値	804	853	902	951	1,000
		実績値	469				
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	1,338千円	令和3年度決算額	527千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【令和元年度実施事業】 エクササイズdeリフレッシュ教室ほか9教室、ファミリースポーツ活動(3教室中止)、地域スポーツ活動(6支部・2支部中止)、スポーツ指導者講習会(2回)、水中かるた大会(中止)、市民体力測定(中止)、市民レクリエーション大会他	・生涯スポーツ振興事業の開催 令和元年度：延 1,470人参加 令和2年度：延 771人参加 令和3年度：延 689人参加		
	【令和2年度実施事業】 スポーツ教室 大人のためのラグビー初心者教室、エアロビックチャレンジ2021(障がい者)、ステップde筋力UP教室ほか7教室 ファミリースポーツ活動 ☆JONUMA☆親子ティーボール教室、親子de卓球体験教室ほか3教室 ※中止事業 地域スポーツ活動(8支部中止)、スポーツ指導者講習会、水中かるた大会、市民体力測定、市民レクリエーション大会ほか			
	【令和3年度実施事業】 春から始める♪初めてのヨガ教室ほか5教室(5教室中止)、ファミリースポーツ活動(2教室実施)、地域スポーツ活動(1支部実施・7支部中止)、スポーツ指導者講習会(1回実施・2回中止)、定期ふれあいウォーク(1回実施・2回中止)、たてばやしウォーク2021(1回実施・2回中止) ※中止事業 中高年スポーツ活動、障がい者レクリエーション、水中かるた大会、市民体力測定、市民レクリエーション大会他			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	年齢、性別、障がいの有無に関わらず、対象者の特性やニーズに応じた事業を行なうことで、日常生活に運動・スポーツを取り入れるきっかけとなり、市民の健康寿命の延伸を図ることができる。市民福祉の向上には欠かせないアイテムとして、事業内容の充実及び関係機関等との連携による運動・スポーツの普及推進及び健康についての正しい知識の普及を図る。					
課題	少子高齢化等による競技人口の減少、競技団体組織の高齢化、役員・指導者の不足等による組織力の低下が懸念され、競技スポーツの衰退に繋がりがかねない。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
令和5年度事業計画	健康づくり事業・スポーツ教室の開催、ファミリースポーツ活動、地域スポーツ活動(8支部)、各種ウォーキング事業、体力測定、レクリエーション大会、軽スポーツ出前講座の開催。 水中かるた大会については、館林かるたを取り組んでいる地区も無く、令和3年度をもって事業廃止とした。					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	205	重要事業	総合戦略	担当部署	スポーツ振興課 振興係	
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)
10・6・1	体育・スポーツの振興 (少年スポーツ交流事業)			177千円	0千円	171千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶16_スポーツを生活に取り入れ、誰もがスポーツを楽しめるまちになる
施策の方向	▶2_スポーツ活動への支援

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	大規模災害時の相互応援協定の締結を機に、埼玉県志木市との相互交流を深めるとともに、少年スポーツ活動の育成及び定着化を図る。
----------------	---

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①少年スポーツ交流事業

埼玉県志木市との大規模災害時の相互応援協定の締結を機に、スポーツ少年団同士が隔年でお互いに行き来して交流し、同じスポーツ種目を愛好する仲間や親子の心と心のふれあいを深めることを目的とする。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業 スケジュール		①少年スポーツ交流事業 ・館林市と志木市スポーツ少年団 交流事業の実施【志木市開催】	①少年スポーツ交流事業 ・館林市と志木市スポーツ少年団 交流事業の実施【志木市開催】	①少年スポーツ交流事業 ・館林市と志木市スポーツ少年団 交流事業の実施【館林市開催】
	事業費	171	175	45
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	171	175	45

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度					
			R3	R4	R5	R6	R7	
総合計画 指標	スポーツ実施率（週1回以上）【総合 戦略KPIを兼ねる】	31.3	目標値	37.5	40.7	43.8	46.9	50.0
		単位：%	実績値	49.6				
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	171千円	令和3年度決算額	0千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	・館林市・志木市スポーツ少年団交流大会 令和元年度：255人参加（館林市開催・軟式野球） 令和2年度：中止（志木市開催・サッカー） 令和3年度：中止（志木市開催・サッカー）			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input checked="" type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	志木市との交流は、大会の勝敗だけでなく、地域の異なった単位団と交流することは、少年スポーツの貴重な経験になると考える。 新型コロナウイルス感染症の影響により、2年連続で中止だが、選手の成長のために継続的に行わなければならない。					
課題	少年スポーツの貴重な経験の場となるが、少子化の影響により大会実施には、単位団の強化が必要となる。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）					
	新型コロナウイルス感染症の影響で中止が続いているが、1年おきに館林市と志木市で実施しており、今後も貴重な経験の場として相互交流を図っていく。					
令和5年度事業計画	館林市・志木市スポーツ少年団交流大会 開催地：館林市 種 目：ミニバス（予定）					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	206	重要事業		総合戦略		担当部署	スポーツ振興課 管理係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・6・1	学校体育施設開放事業			2,030千円	1,924千円	2,095千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶16_スポーツを生活に取り入れ、誰もがスポーツを楽しめるまちになる
施策の方向	▶2_スポーツ活動への支援

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	地域におけるスポーツ活動の拠点として、学校体育施設を開放し、広く市民のスポーツ活動の推進を図る。 施設：市内の小・中学校及び特別支援学校（計17校）
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
①学校体育施設開放事業の推進 ・市民のスポーツ活動の場として市内の小・中学校、特別支援学校の体育施設（校庭、体育館等）を開放し、健康体力づくりの促進とスポーツ活動の日常化を図る。運営については、各校の利用者で組織された学校開放運営委員に委託を行う。 ・体育施設利用中の体調の急変等に備え、各校に自動体外式除細動器（AED）を設置する。 ・夜間照明設備等の維持補修を行う。	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
事業 スケジュール	①学校体育施設開放事業の推進 ・学校体育施設開放事業運営委託 ・自動体外式除細動器（AED）設置 ・屋外照明修繕	①学校体育施設開放事業の推進 ・学校体育施設開放事業運営委託 ・自動体外式除細動器（AED）設置 ・屋外照明修繕	①学校体育施設開放事業の推進 ・学校体育施設開放事業運営委託 ・自動体外式除細動器（AED）設置 ・屋外照明修繕	①学校体育施設開放事業の推進 ・学校体育施設開放事業運営委託 ・自動体外式除細動器（AED）設置 ・屋外照明修繕	
	事業費	2,095	2,095	2,095	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
その他		0	0	0	
	一般財源	2,095	2,095	2,095	

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
総合計画 指標	スポーツ実施率（週1回以上）【総合戦略KPIを兼ねる】	31.3	目標値	37.5	40.7	43.8	46.9	50.0
		単位：%	実績値	49.6				
総合計画 指標	スポーツ施設に関する満足度	45.3	目標値	46.9	47.6	48.4	49.2	50.0
		単位：%	実績値	42.6				
			目標値					
			実績値					
			目標値					
			実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	2,095 千円	令和3年度決算額	1,726 千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	関連設備修繕 [令和元年度] 第九小学校夜間照明設備修繕 [令和2年度] 第十小学校ナイター照明修繕 [令和3年度] 第十小学校高木剪定業務委託	登録団体・人数 令和元年度：132団体・2,355人 令和2年度：133団体・2,470人 令和3年度：134団体・2,334人 施設利用者数（全体） 令和元年度：84,426人 令和2年度：42,216人 令和3年度：29,460人	

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	学校開放事業対象施設を整備することにより、各利用団体のスポーツ活動の促進が図られるほか、地域住民の体力づくりや健康増進に資するために不可欠な事業である。 今後も利用者のニーズを把握し、利便性向上に繋げていくほか、新型コロナウイルス感染症対策を継続しながら、各施設の計画的な整備及び改修を行う必要がある。
課題	各対象施設の事業運営方法にばらつきがあり、各委員会ごとの運営形態が統一されていない。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止) 各委員会の状況を踏まえた支援を継続し、自主運営化を図りながら、新型コロナウイルス感染症対策の徹底を周知していく。
令和5年度事業計画	・学校開放運営委員会の開催 委員会ごとの運営形態が統一されていないことを踏まえ、各学校の運営委員会全体会議を開催し、事業内容の説明や団体間で情報交換等を行いながら、事業の標準化を図る。 ・屋外照明設備修繕の実施
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和3年度事業】実施計画書

整理番号	207	重要事業	○	総合戦略		担当部署	スポーツ振興課 管理係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R2)	決算額 (R2)	当初予算額 (R3)	
10・6・2	体育施設管理運営			5,557千円	5,383千円	12,156千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶16_スポーツを生活に取り入れ、誰もがスポーツを楽しめるまちになる
施策の方向	▶4_スポーツ施設の適正管理

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	社会体育施設（市民体育館、市営テニスコート、渡良瀬川河川敷青少年ひろば）の整備及び管理運営を図る。
令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
<p>①体育施設管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会体育施設の維持管理 多くの市民や競技者がスポーツ施設を安全かつ安心して利用できるよう、施設の点検及び整備に努めるとともに、設備の充実を図る。 ・市営テニスコートの除草、整地等の整備及び付帯設備（器具庫等）の維持補修を行う。 <p>②市民体育館整備【重要事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民体育館の設備（電気、給排水、照明等）の保守点検、維持補修を行う。 <p>③青少年ひろば整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年ひろば内のサッカー場、キャンプ場などの芝刈り、整地等の整備及び給排水設備の維持補修を行う。 	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
事業 スケジュール	事業費	12,156	6,069	12,156	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源	12,156	6,069	12,156	

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
総合計画 指標	スポーツ実施率（週1回以上）【総合戦略KPIを兼ねる】	31.3	目標値	37.5	40.7	43.8	46.9	50.0
		単位：%	実績値	49.6				
総合計画 指標	スポーツ施設に関する満足度	45.3	目標値	46.9	47.6	48.4	49.2	50.0
		単位：%	実績値	42.6				
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和3年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和3年度予算額	12,156千円	令和3年度決算額	10,071千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	主な内容 [令和元年度] ・各施設、設備の保守管理業務委託 ・市民体育館、青少年ひろば設備修繕等 ・青少年ひろばサッカーゴール購入 [令和2年度] ・各施設、設備の保守管理業務委託 ・市民体育館トイレ手洗水栓改修工事 ・アーチェリー場防矢壁修繕 [令和3年度] ・各施設、設備の保守管理業務委託 ・アーチェリーの場修繕 ・青少年ひろば簡易トイレ設置工事			・施設利用者数(全体) 令和元年度：51,204人 令和2年度：11,558人 令和3年度：7,168人

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の 必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進におい て不可欠な事業で ある	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与 している事業であ る	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有 無について検討の余地がある
事業の 有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得ら れている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の 効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水 準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果 が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	社会体育施設を整備することにより、各団体のスポーツ活動の促進が図られるほか、市民の体力づ くりや健康増進に繋がるうえで、不可欠な事業である。 今後も利用者のニーズを把握し、利便性向上に繋げていくほか、新型コロナウイルス感染症対策を 継続しながら、各施設の計画的な整備及び改修を行う必要がある。					
課題	各施設の老朽化が著しく、多様化する市民ニーズへの対応に繋がる環境整備が遅れている状況と なっている。					
【Action】 今後の 方向性 ・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
令和5年 度事業計 画	社会体育施設(市民体育館、市営テニスコート、渡良瀬川河川敷青少年ひろば)の整備及び管理運営 内容：各施設(設備)の維持補修、グラウンド整備(芝刈り、整地等)					
予算規模 見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	※前年度比較		
備考						